

## 2014 年度

## ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援 事業報告書

2015年3月

公益社団法人 日本海難防止協会



**BUL** 

THE PROJECT FOR IMPROVEMENT OF THE COAST GUARD CAPABILITY OF THE REPUBLIC OF PALAU SUPPORTED BY THE NIPPON FOUNDATION July 7 2014



POLICE SAR UNIT
THE PROJECT FOR IMPROVEMENT OF THE COAST GUARD CAPABILITY OF
THE REPUBLIC OF PALAU BY THE NIPPON FOUNDATION
October 31, 2014

#### はじめに

当協会では、2011年度以降、公益財団法人日本財団及び公益財団法人笹川平和 財団と協力し、太平洋に所在するミクロネシア 3 カ国(パラオ共和国、ミクロ ネシア連邦、マーシャル諸島共和国)の海上保安能力を強化支援する事業を実 施してきた。

その内容は、各国に対して小型パトロール艇や通信設備等の施設を供与するとともに、これらの供与施設が一時的な支援に終わることなく、長期間に亘り、円滑・安全に活用されるよう、これらの運用経費(小型パトロール艇の燃料費・定期整備費・予備品費・揚降経費、衛星通信の通信料)を含めた総合的なパッケージ支援(2020年3月末まで継続予定)を実施しており、本件プロジェクトの大きな特徴となっている。

こうした総合的な支援方式に対して、各国からは非常に高い評価を得ており、 更なる支援要望が強かったことから、第2フェーズとして、各国のニーズに即 した追加支援策を実施した。

本書においては、2014 年度の事業内容を主体に取りまとめたものであるが、 その理解を容易にするため、本件事業の開始時からの実施内容を概観するとと もに、2013 年度の事業報告書に掲載できなかった同年度末の実施項目も併せて 掲載した。

また、本事業と密接な関係のある事業や関連の動き等についても、参考となる事項は関係者の了解を得て広く収録した。

本件事業の円滑な実施のために多大なるご協力をいただいた国内外の関係者に深く感謝の意を表する次第である。

2015 年 3 月 公益社団法人 日本海難防止協会

#### 本書で用いられる略語の説明

FFA: Pacific Islands Forum Fisheries Agency

(太平洋諸島フォーラム漁業機関)

FSM: Federated States of Micronesia (ミクロネシア連邦)

**HF**: High Frequency(短波)

**JAMS**: The Japan Association of Marine Safety

(公益社団法人 日本海難防止協会)

MOU: Memorandum of Understanding (覚書)

MSA: Maritime Surveillance Advisor

(ミクロネシア各国に派遣されている豪海軍の海上監視アドバイザー)

NF: The Nippon Foundation (公益財団法人 日本財団)

NMC: Nippon Maritime Center (日本海難防止協会のシンガポール事務所)

PPB: Pacific Patrol Boat (豪州から供与された監視艇)

RMI: Republic of the Marshall Islands (マーシャル諸島共和国)

ROD: Record of Discussion (議事録)

ROP: Republic of Palau (パラオ共和国)

SPF: The Sasakawa Peace Foundation (公益財団法人 笹川平和財団)

USCG: United States Coast Guard (米国沿岸警備隊)

VHF: Very High Frequency(超短波)

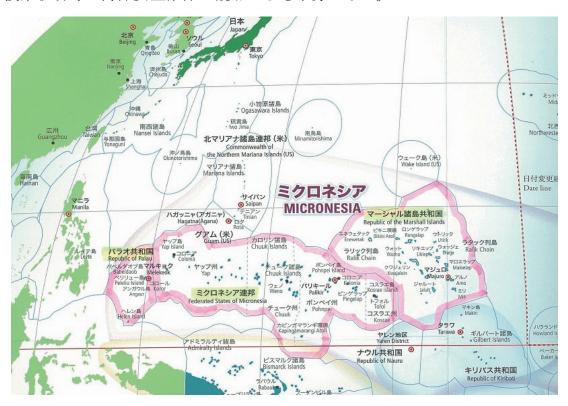
## 目 次

Ι		これまでの経緯と事業の概要	
	1	事業の検討経緯	1
	2	事業の構成	2
	3	事業の目的	3
	4	事業の実施(第 1 フェーズ)	4
	5	供与物の円滑な運用の支援1	.0
	6	事業の実施(第 2 フェーズ)1	.2
П	2	2014 年度の事業の概要	
	1	第2フェーズとしての追加支援	
	(	1) パラオ共和国	.5
	(	2) ミクロネシア連邦	2C
	(	3) マーシャル諸島共和国	1
	2	供与物の円滑な運用の支援	
	(	1) 小型パトロール艇の定期整備	13
	(	2) 小型パトロール艇等の機能改善、修理	27
	(	3) 小型パトロール艇揚降費の支援(パラオ共和国のみ)2	29
	(	4) 小型パトロール艇等の燃料費の支援	SC.
	(	5) 衛星通信料の支援	33
	3	研修の実施	
	(	1) 小型パトロール艇整備研修	5
		2) OJT 研修の支援(パラオ共和国のみ)3	
	(	3) 要人来日時研修(ミクロネシア連邦のみ)3	39
	4	各国との打合せ	
	(	1) パラオ共和国4	<sub>1</sub>
		2) ミクロネシア連邦4	
	(	3) マーシャル諸島共和国4	:7
	5	関連事業:「NIPPON MARU II」の供与(パラオ共和国) ······5	
Ш		これまでの業務改善成果	
IV		更なる支援に向けて(第 3 フェーズ)	
V	;	将来的な取り組み課題 ·······5	9
τπ		<b>⇔</b> 老次率	٠,

I これまでの経緯と事業の概要

## 1 事業の検討経緯

ミクロネシア3国は、広大な領海及び排他的経済水域(EEZ)(3国合計EEZ は約600万㎢で、米豪に次ぐ世界第3位に相当)を有するが、取締り勢力等が極めて脆弱で、それら海域の適切な海洋管理が困難な状況である。また、捜索救助等の海洋安全確保の観点からも十分でない。



<図1:ミクロネシア地域とそのEEZ>

我が国は、水産・漁業の分野で太平洋地域から極めて大きな恩恵を受けており、専らこの分野での協力・支援を行ってきたが、近年では、海洋安全保障という観点から、ミクロネシア各国を含む太平洋島嶼国の海洋管理能力の一層の向上が求められている。

こうした状況下、2008年以降、公益財団法人日本財団及び公益財団法人笹川平和財団の主導により、日本(海上保安庁)、アメリカ(USCG)、オーストラリア(海軍等)の各国海上保安機関の協力を得て、ミクロネシア各国の海上保安能力を強化するための支援策の検討が行われてきた。

その結果、2010年11月にパラオで開催された「第3回ミクロネシア3国の海上保安能力強化に関する官民合同会議」(パラオ会議)において、ミクロネシア3国に対する支援項目の基本的な内容が合意され、実施可能な項目から

早急に支援措置を実施していくことが合意された。

パラオ会議までの現地調査及び国際会議の開催状況等は次のとおり。

2008年 5月 マーシャル諸島大統領より日本財団に支援要請あり

2008年 11月 第8回ミクロネシア大統領サミット(於ミクロネシア連邦) にて、日本財団からの支援を歓迎する旨表明

2009年 3月 現地調査(第一次)

2009年 7月 第9回ミクロネシア大統領サミット(於マーシャル諸島)

2009年 9月 現地調査(第二次)

2010年 1月 現地調査報告書作成

2010年 3月 第1回官民共同会議開催(於東京)

2010年 6月 第2回官民共同会議開催(於グアム)

2010 年 7月 実務者調整会議開催(於ソロモン諸島: FFA)

2010 年 7月 第10回ミクロネシア大統領サミット (於パラオ)

2010年11月 第3回官民共同会議開催(於パラオ)、基本的支援項目合意

## 2 事業の構成

公益社団法人日本海難防止協会では、日本財団と協力し、上記のパラオ会議で合意された項目のうち、早急に対応が必要な支援措置を実施することとし、ミクロネシア3カ国を訪問して詳細な現地調査及び調整を実施するとともに、アメリカ政府(USCG14 管区)やオーストラリア政府との協議等を繰り返し、早急に実施すべき支援内容として、次のとおり決定した。

#### (1) 施設の供与

- ① 小型パトロール艇の供与(15m型多目的型 FRP 艇、各国 1 隻ずつ、沿岸 部での海上保安業務用)
- ② 通信施設の供与(無線通信機能の改善のため、HF アンテナ等を新替え、 VHF レピータ(自動中継器)を新設、衛星通信装置を導入)
- ③ 非常用発電機の供与(頻繁な停電に対応するため。パラオのみ)

#### (2) 運用経費の支援

上記の供与物が一時的な供与に終わることなく、長期的に、円滑・安全に 運用するための支援(2020年3月まで)

- ① 小型パトロール艇の運行に必要な燃料費の供与
- ② 小型パトロール艇の定期整備の実施、予備品・交換部品の供与
- ③ 近隣諸国との「合同取締」に参加する巡視船艇の燃料費の補助
- ④ 衛星通信費の供与

## 3 事業の目的

この事業の目的は次のとおり。

- (1) ミクロネシア 3 国の海域において、法令取締り、海難防止、海難救助や災害時の対応能力を充実させ、安全で安心な海域を確保する。
- (2) 現在、稼働しているパトロール・ボート (30m 型。1980 年代以降に オーストラリアより寄贈。パラオとマーシャル諸島は 1 隻ずつ、ミ クロネシア連邦は 3 隻所有) は、主として EEZ の遠距離海域用であ るため、対応が手薄になりがちな沿岸域での海上保安業務用に、多 目的型の高速小型パトロール艇を供与することにより、各国の総合 的な海上保安能力の向上を図る。
- (3) 加えて、海上という特殊な場所での業務実施に必須となる無線通信能力を向上させることにより、より効果的な海上保安業務の執行体制を整える。



〈図2:オーストラリア寄贈のパトロール・ボート(ミクロネシア連邦)〉

## 4 事業の実施(第1フェーズ)

#### (1) 支援内容覚書 (MOU) の締結

この事業を円滑・適正に実施するため、日本海難防止協会と各国政府との間で、具体的な支援策の内容に関する「覚書」(MOU: Memorandum of Understanding)を締結した。

なお、ミクロネシア連邦政府としては、同政府が外国の非政府組織(日本海難防止協会)との間で MOU を締結するのは初めてのことであり、注目された。

各国との MOU 締結年月日は、次のとおり。

パラオ共和国 : 2012 年 2 月 16 日 ミクロネシア連邦 : 2012 年 1 月 26 日 マーシャル諸島共和国: 2012 年 1 月 19 日



<図3: 覚書(MOU)に署名するイティマイ・ミクロネシア連邦運輸通信インフラ大臣>

#### (2) 小型パトロール艇の建造・供与

MOU に基づき、使用目的に適した小型パトロール艇の仕様を検討して入札した結果、ヤンマー製の「EX46FB」が採用された。

同艇は、日本で最大クラスの多用途型の量産艇であり、主要目は次のとおり。

• 船質: FRP

·全長:約15m(46FT型)

・総トン数:約12トン

·最大搭載人員:14名

・機関最大出力:650馬力

・最大速力:約30ノット

· 航続距離:約400海里(1/2出力)

· 航海計器:電子海図(ECDIS)、測深装置、航海情報統合装置(NAVNET)

・通信装置:HF・VHF無線機、衛星通信装置(ボイス、メール)

・海上保安業務用施設:フライング・ブリッジ(FB)、パトライト、 サイレン、拡声器、サーチライト、担架、簡易救急備品等。

船名は、各国大統領等の命名によるものであり、小型パトロール艇に 寄せる各国の期待が現れ、国民から歓迎されている。

各国の小型パトロール艇の船名及び写真は次のとおり。

## <u>パラオ共和国:</u>「KABEKEL M'TAL」(カベケル マタール) (パラオ語で、「有能で勇敢な監視船」の意味)



# <u>ミクロネシア連邦:</u>「FSS Unity」 (FSS ユニティー) (「統合、統一」の意味)



<u>マーシャル諸島共和国</u>:「RMIS LOMOR **II**」 (RMIS ロモール **II**) (マーシャル語で、「救助」の意味)



#### (3) 通信施設の建設

パラオ共和国及びミクロネシア連邦において、海上保安機関が使用している無線設備では、近距離、遠距離ともに円滑な通信が実施できない状態であった。

このため、HF 用の大型アンテナを新設し、送信機の出力もアップした。 また、新規に VHF 用のレピータ(自動中継器)システムを導入し、中距 離海域との通信機能を大幅に改善した。

さらに、通信の範囲、品質、安定性で格段に優れた衛星通信装置 (メール、電話) を新規に導入した。その費用も日本側が負担することで、 そのシステムの最大限の活用を図っている。

これらの通信設備の措置により、通信範囲が拡大し、安定した通信ができるようになり、各国での円滑な海上保安業務の実施に大きく役立っている。



<図4:パラオ共和国へ供与したHF通信用アンテナ>

#### (4)「引渡式」の開催

小型パトロール艇及び通信装置の供与を記念して、ミクロネシア各国で、 大統領等の政府幹部の出席の下、盛大な「引渡式」等が実施された。

式典では、各国からこれら支援措置へのお礼が述べられるとともに、それらの積極的な活用を約束し、また、日本側からは、今後の職員研修等を含めた一層の支援措置の方針が述べられた。

各国での「引渡式」の実施日は次のとおり。

パラオ共和国 : 2012 年 10 月 12 日 ミクロネシア連邦 : 2012 年 8 月 17 日 マーシャル諸島共和国: 2012 年 11 月 23 日



<図5:ミクロネシア連邦における引渡式>

#### (5) 招へい研修の実施

小型パトロール艇の供与と併行して、同艇を円滑に運用するため、各国の職員を日本へ招へいして、供与する小型パトロール艇の建造状況の見学や小型パトロール艇運行等に関する研修を実施した。

また、日本における海上保安体制の状況を把握するため、海上保安庁主催の「観閲式及び総合訓練」の見学等を実施した。

研修生は帰国後、小型パトロール艇運行のリーダーとして重要な位置を占めており、その円滑な運行に大きく寄与しているとともに、本プロジェクトを推進するための、各国での調整者として活躍している。



<図6:招へい研修の実施状況>

#### (5) 専門家派遣研修の実施

小型パトロール艇を適正に維持・管理・運用するためには、適切な整備実施が必須である。このため、小型パトロール艇の毎年の定期整備や個別の修理に併せて、メーカー(ヤンマー)の技師により 0JT 方式で現地関係職員を指導するほか、必要に応じて座学等の集中した整備研修を実施している。

各国とも、研修参加に熱心であり、着実な技術の向上が見られる。特に機関関係の整備については、「いつでも何回でも研修を実施して欲し

い」と要請されるほど現地での研修需要が高く、こうした支援は極めて 好評である。



狭い機関室内での機関整備実習状況

## 5 供与物の円滑な運用の支援

この事業では、小型パトロール艇や衛星通信装置等の施設を、一時的に 供与するだけでなく、供与施設が円滑・有効に活用されるよう、それらの 運用やメンテンスに必要な諸経費を併せて支援している。

このように運用経費を含めた総合的な支援は政府開発援助(ODA)では困難な分野であり、このプロジェクトの実施主体が、NGO(日本財団、日本海難防止協会)だからできる大きな特徴となっている。

#### (1) 小型パトロール艇の定期整備、修理、機能改善

定期整備とは、小型パトロール艇の納入後、1年毎に、日本からメーカー (ヤンマー) の技師を派遣して、メーカーが規定する標準的な年次定期 点検項目の点検及び所要の修理整備を実施するものである。

概して、途上国においては、供与された機器類を円滑に継続使用するための点検や、故障の予防措置としてのメンテナンスの習慣がなかったり、

そうした意識が希薄な場合が多く、結果的に、折角の支援物等が当初の性能・機能を発揮できないばかりか、場合によっては、一部の部品の故障等のために支援物が全く使用されなくなってしまうこともあり得る。

当プロジェクトではこうした事態を回避すべく、毎年の定期整備支援の他にも、現地関係者との連絡を密にして、供与物をより現地のニーズに合致させるべく、供与物の機能改善に努め、支援物が継続して適切・円滑に使用されるようにしている。

小型パトロール艇は1年間使用すると、船底、舵、プロペラ等がかなり 汚れて、速力の低下や燃料消費の増加につながるが、徹底した定期整備の 実施により、新船と同様な状態となり、速力も新船時と同じ約30ノット を回復することができる。

また、本プロジェクトの対象とする3国のうち、2国においては、プロペラの底触事故を起こしたため、プロペラの交換、クラッチ摩擦板の交換、クラッチケースの交換等を行った。また、こうした修理により予備品を使用した場合は、その予備品の補充の支援を行っている。



上架直後の汚損が激しいプロペラと舵



磨いた後のピカピカのプロペラと舵



クラッチ板破片や鉄くずが付着したフィルター



クラッチ板の取り外し,交換作業

#### (2) 小型パトロール艇の揚降費の支援(パラオ共和国のみ)

パラオ共和国においては、係留場所が湾口に開く形で風浪に弱いため、 台風や強風等の際には小型パトロール艇を一時的に陸揚げして避難させ る必要があるため、揚降費用(年間最大100万円)を支援している。

#### (3) 小型パトロール艇等の燃料費の支援

各国においては、自国予算による小型パトロール艇用の燃料購入がかなり困難な状況である。

このため、本プロジェクトにおいては、供与した小型パトロール艇の運航に必要な燃料費(年間最大 400 万円/隻)及び、関係国との合同取締りに参加する船舶(オーストラリア供与のパトロール・ボート等)の燃料費(年間最大 300 万円/国)を支援している。

#### (4) 衛星通信料の支援

小型パトロール艇及び船艇基地(事務所)に衛星通信装置を導入したが、 衛星通信料は比較的高額であるため、各国の自国予算ではそれを賄ないき れない可能性があり、いわゆる「宝の持ち腐れ」を防止するため、衛星通 信料(年間最大126万円)を支援している。

## <u>6</u> 事業の実施(第2フェーズ)

本プロジェクトでは、海上保安体制があまり整備されていないミクロネシア3国を対象として、各国の船艇勢力、職員の数や技能レベル、国家体制、国家予算等々を勘案して、できるだけ効果的、かつ現実的な支援策を実施してきた。

その結果、各国とも確実に海上保安能力の向上が見られ、職員の意識や整備・メンテナンスの意識も向上してきている。こうした状況に対して各国政府幹部からは多くの感謝の言葉が述べられるなど、高い評価を得ているところである。

こうした成果を反映して、各国からはさらにもう一段階上のレベルを目指した支援の要請がなされるようになり、第2フェーズとして、各国の需要に応じた更なる支援策を実施することとした。

#### (1) パラオ共和国

パラオ共和国は、レメンゲサウ大統領が海洋資源保護に極めて積極的で

あり、EEZ 内での原則商業漁業を禁止する「マリン・サンクチュアリ」 構想を進めている。こうした政策を実効ならしめるため、同国の海上保安 能力の一層の改善を熱望し、結果、本プロジェクトの「第2フェーズ」と して、次のとおり、更なる支援を実施することで合意し、2013 年度から 2014 年度において全て供与を終了した。

- ○小型パトロール艇の追加供与(1隻目と同型艇)
- ○高速救難艇 (ゴム・ボート型) の供与
- ○通信設備(VHF レピータ)の建設整備



支援合意文書(MOU)に署名した日本財団笹川会長とレメンゲサウ大統領



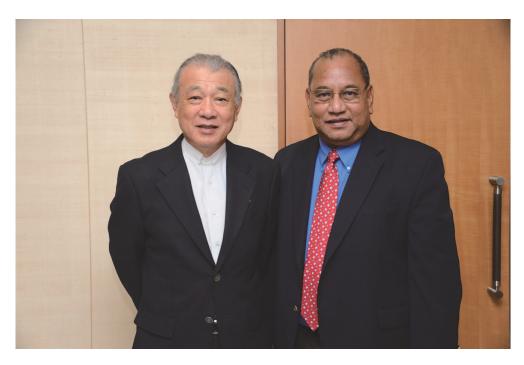
今後の協力について会談した佐藤海上保安庁長官とレメンゲサウ大統領

#### (2) ミクロネシア連邦

ミクロネシア連邦においては、同国海上保安機関(法務省の MARITIME WING)の職員の操船技量の向上のため、同国の船員養成機関へ操船シミュレータを供与することとし、2013年度から2104年度の2年度に亘り、海事専門学校(ヤップ島所在)の現地調査、先方政府側との各種調整を経て、同装置の設置、供与を完了した。

#### (3) マーシャル諸島共和国

マーシャル諸島共和のロヤック大統領から、日本財団に対して、「是非、小型パトロール艇の2隻目の支援をお願いしたい」旨、要請があり、配備予定地(クワジェリン環礁内イバイ島)における現地調査及びマーシャル諸島政府側との調整を経て、2隻目の小型パトロール艇を供与することした。



日本財団笹川会長とロヤック大統領の会談



## 1 第2フェーズとしての追加支援

2012 年度までに、ミクロネシア各国に対して小型パトロール艇及び通信 設備の供与を終了したが、その後、これらを運用した結果、ミクロネシア 各国から更なる支援要請があり、「第 2 フェーズ」として各国の実情に合った追加の支援策を実施することとした。

#### (1) パラオ共和国

#### ①小型パトロール艇2隻目「BUL」の供与

パラオ共和国は、既に供与した小型パトロール艇「KABEKEL M'TAL」と同型艇の追加供与の要望があり、その供与が適切と判断したので、第2フェーズとして支援することとした。

パラオ政府への引渡日:2014年7月7日



小型パトロール艇 2 隻目:「BUL」



2 隻で並ぶ小型パトロール艇「KABEKEL M'TAL」(左)と「BUL」(右)

#### ②小型パトロール艇「BUL」の引渡式を実施

パラオのレメンゲサウ大統領、日本財団の海野常務理事を始めとする両国の関係者等の参加を得て盛大に引渡式が実施された。約200人が参加。海野常務理事は「小型パトロール艇の1隻目『KABEKEL M'TAL』が非常に有効に活用されていることに感銘を受けた。この2隻目『BUL』もパラオにおける昨今の海上保安業務需要の高まりに対応して大活躍してくれることを期待する。」と述べ、これに応えてレメンゲサウ大統領は「パラオ国民の財産である素晴らしい海洋資源を次世代へ引き継ぐためにもその保護と取締りが重要であり、『BUL』を積極的に活用していく。このような日本財団からの継続的な支援に感謝する。」と述べた。

実施日 : 2014年10月1日(水)

実施場所:パラオ共和国ニワル州イメカン港岸壁



日本財団からパラオ政府へ「BUL」のパネルの贈呈



主要参加者による鏡割り

#### ③高速救難艇の供与(船名: POLICE SAR UNIT)

今般、第2フェーズとして同国では、中型巡視船1隻と小型パトロール艇2隻という基本的な船艇勢力が確保されることとなるが、さらに同国からは、第2フェーズの一環として、沿岸部や港内等で海上保安業務全般(違法取締り、海難救助等)に対応するため、高速性能の優れた小型ゴムボート・タイプを供与して欲しい旨、強い要望が示された。また、このボートはトレーラーで陸地を輸送し、活動海域付近の陸地からスロープで海に入れて活用することを想定したい由であった。

このため、同国の海上保安業務実施機関(海上法令執行部: DMLE=Division of Marine Law Enforcement) と具体的な使用法、性能等について調整・検討した結果、長さ7m程度で高速性、操縦安定性、信頼性の優れたものを選定することとし、入札の結果、ニシエフ製7m型高速救難艇が採用され、2014年10月31日、パラオ政府へ供与した。

この艇の主要目は次のとおり。

形式:複合型ゴムボート

船体構造:船体部は浮力材注入 FRP、浮体は発砲ウレタン製

全長:7.3m、全幅:2.65m、深さ:1.04m 主機関:船外機150PS(110.3kW)×2基

速力:約40ノット

航続距離:約100海里/38ノットにて

最大搭載人員:10人

船体重量:約1,650kg(船外機含む)



納入された高速救難艇「POLICE SAR UNIT」

#### ④無線通信設備 (VHF レピータ) の建設供与

パラオ共和国では、同国海上保安機関である海上法令執行部 (DMLE) において、国際 VHF による通信能力がほぼ皆無の状態であった。

海上という特殊な条件下において汎用性のある安定した無線通信手段を 有しないことは海上保安業務を実施する上での大きな支障である。

第1フェーズにおいては、HF 通信用大型アンテナを整備するなど、主として遠距離海域との無線通信能力を大幅に改善したが、第2フェーズにおいては、さらに近距離用の VHF 通信機能を整備することとした。

具体的には、海上法令執行部 (DMLE) において、パラオ沿岸部での国際 VHF 通信が適切に実施できるように、北部海域及び南部海域をそれぞれ通信圏とする 2 つの VHF レピータ・システムを新設した。

この整備により、下図に示すように、北部はカヤンゲル島まで、南部はペリリュー島及びアンガウル島までの非常に広い範囲で、極めて円滑なVHF 通信ができるようになった。2014年3月、パラオ政府に引渡した。

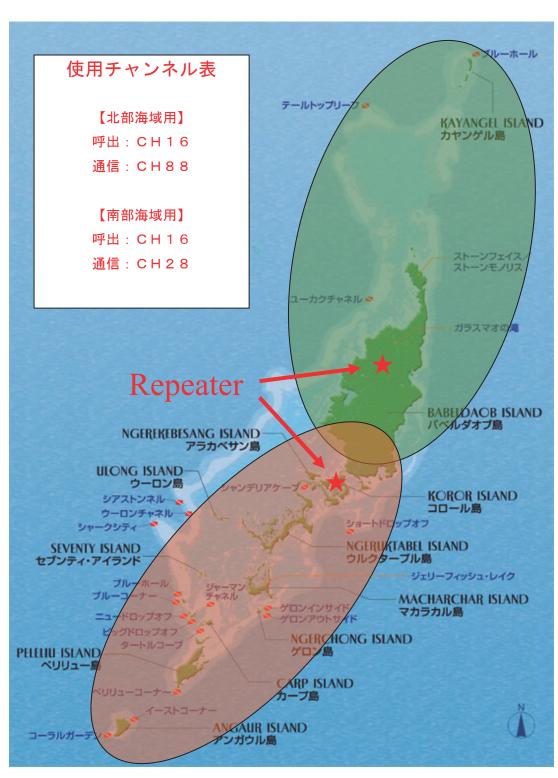
これだけ広い範囲において国際 VHF による明瞭で安定した通信ができることは同国周辺における船舶の安全運航は勿論、同国の海上保安業務全般の円滑・効率的な実施に大きく寄与することが期待されている。



南部海域用VHFレピータのアンテナ



北部海域用VHFレピータのアンテナ



VHF通信圈図

## (2) ミクロネシア連邦

#### ○操船シミュレータの供与

ミクロネシア連邦においては、同国海上保安機関(法務省海上警察署: MARITIME WING)の相当数の職員が同国の船員養成機関(FMI:Fisheries and Maritime Institute、ヤップ州所在)の卒業生であることから、同国からの強い要望も考慮して、将来的な職員の操船技量の向上に資するため FMI に操船シミュレータを供与することとした。

FMI における現地調査及び先方政府側との各種調整を経て、2014年3月、同装置の供与を完了した。

(操船シミュレータの詳細については、参考資料を参照)



供与された操船シミュレータ

#### (3) マーシャル諸島共和国

#### ○小型パトロール艇2隻目の供与決定

マーシャル諸島共和国においては、これまでの支援物を極めて有効に活用しており、更なるきめ細やかな支援を実施することによって、一層の海上保安能力の強化が見込めること、及び、同国大統領以下、関係大臣等からも強い要請があること等を勘案し、小型パトロール艇の追加支援の可否を検討するため、現地調査を実施した。

(現地調査の詳細は参考資料を参照)

2隻目の配属が想定されるクワジェリン環礁イバイ島は、同国第2の経済圏の中心地であり、この海域は1隻目「RMIS LOMOR II」の小型パトロール艇の活動可能範囲ではなく、また、その海域における海上保安業務の需要が非常に高いことから、新たに2隻目の小型パトロール艇を供与することが適当であると判断した。

同艇は、1隻目に比べて担当海域が広いことから、1隻目より若干大型化し、燃料タンクも大きくして、航続距離を確保するとともに、充分な堪航性を持たせ、安全で円滑な業務執行ができる仕様とした。

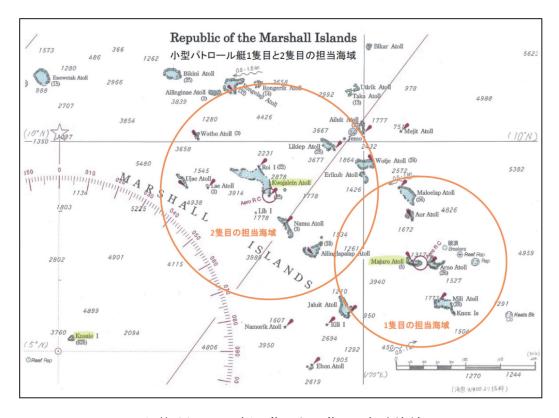
主な要目は次のとおり。

- · 船質:FRP
- ·全長:約17m
- ·最大搭載人員:14 名程度
- ・機関最大出力:約650馬力
- ・最大速力:約25ノット
- ・ 航続距離:約800海里(13ノットにて)
- · 航海計器:電子海図(ECDIS)、測深装置、航海情報統合装置(NAVNET)
- ・通信装置:HF・VHF無線機、衛星通信装置(ボイス、メール)
- ・海上保安業務用施設:フライング・ブリッジ(FB)、パトライト、 サイレン、拡声器、サーチライト、担架、簡易救急備品等

この小型パトロール艇(2隻目)は、2015 年 10 月頃にマーシャル諸島に引渡す予定である。



マーシャル諸島への小型パトロール艇(2隻目)のイメージ図



小型パトロール艇1隻目と2隻目の担当海域

## 2 供与物の円滑な運用の支援

各国への供与施設等が、安全で効率的に活用されるよう、2013 年度に引き続き、2014 年度においても、以下のとおり運用経費等の支援を行った。

なお、これらの運用経費等の支援は2020年3月末まで継続予定である。

#### (1) 小型パトロール艇の定期整備

2012年度に各国に供与した小型パトロール艇が、納入から2年を迎える時期に、「定期整備」を行った。

定期整備とは、小型パトロール艇のメーカー (ヤンマー) が規定する標準的 な年次定期点検項目について、日本からメーカーの技師を派遣して、点検及び 所要の整備を実施するものである。

メーカー(ヤンマー)による定期整備がとても丁寧で徹底したものであるため、2年を経過しても、新船時と同様な状態となり、速力も新船時と同じ約30 ノットを回復することができた。これは、各国で丁寧に使ってくれていることもその要因になっている。

なお、この定期整備の業務は、同艇を納入した南洋貿易株式会社に業務委託 した。

各国の整備状況は以下のとおり。

(定期整備の詳細は、「VI 参考資料」【小型パトロール艇】参照)

#### ①パラオ共和国

船名:「KABEKEL M'TAL」(引渡日:2012年8月10日)

定期整備実施時期:2014年9月3日~9月12日

所見:普段から非常に丁寧に綺麗に小型パトロール艇を使用しているため、

汚れや損傷はあまりなかった。日常の整備状況は良好。



上架作業



舵の取り外し



汚れた船底



新しい日本財団ロゴの取付

磨いたあとの船底



艇内の掃除

## ②ミクロネシア連邦

船名:「FSS Unity」(引渡日:2012年6月20日) 定期整備実施時期:2014年5月12日~5月23日

所見:日常の整備状況は良好。





上架作業





保護亜鉛:新品(上)と交換前の腐食したもの(下)

汚れた船底



磨いた後の船底



プロペラ保護亜鉛の取付

## ③マーシャル諸島共和国

船名:「RMIS LOMOR II」(引渡日:2012年11月21日) 定期整備実施時期:2014年11月27日~12月5日

所見:艇の使用頻度が極めて高い。日常の整備状況は良好。



上架作業



オイルコアクーラーの清掃



上架直後の汚れたプロペラ



磨いたプロペラ



上架後の汚れた船底



綺麗になった船底、船体

#### (2) 小型パトロール艇等の機能改善、修理

各国に、供与した小型パトロール艇は納入から2年が経過した。 現地で運航してみて、所要の改善要望があったものについて整備を行った。 各国における機能改善及び修理の状況は、以下のとおり。

#### ①パラオ共和国

## ○「KABEKEL M'TAL」にオーニング等の設置

パラオ側の要望に基づき、後部甲板のオーニング(雨除け)、フライング・ブリッジのエンクロージャー(風除け)、後部甲板のベンチ・シートを設置した。オーニングについては、人命救助等の際に、雨をよけられる場所が多く欲しいという要望からである。エンクロージャーについては、フライング・ブリッジで操船する際に非常に強い風を遮るためである。ベンチ・シートは、揺れが激しい中でも、乗船者が安定して腰を下ろすことができるためのものである。この作業は定期整備時に併せて実施した。



後部甲板のオーニング



オーニング取付け作業中



後部甲板のベンチ・シート



フライング・ブリッジのエンクロージャー

#### ②ミクロネシア連邦

#### ○「FSS Unity」にオートパイロット装置の設置

相手国より要望のあったオートパイロット装置を追加設置した。作動状況は良好である。なお、他の2国については小型パトロール艇の供与当初から設置済みである。

設置日時: 2014年3月21日(金)



オートパイロットで設定地点に進路を向けている状況

#### ○AIS 受信装置の設置

ミクロネシア連邦においては、ポンペイ島周辺の外国船等の動静を把握できる装置がないため、相手国より AIS 装置の設置の強い要望があり、適切な海上保安業務実施の必要性から追加供与した。

設置日時: 2014年3月17日(月)

なお、本装置を設置直後に、近海を航行する船舶から医療救助要請が入り、 本AIS受信装置でその詳細な位置を特定して迅速な救助を実施した。

(その際の海上警察署長からのお礼状は、「IV 参考資料」参照)



VHFレピータ局舎の屋上に設置されたAIS受信用アンテナ

# (3) 小型パトロール艇揚降費の支援(パラオ共和国のみ)

パラオ共和国においては、台風や強風避難等により、小型パトロール艇を陸 揚げする必要があるため、揚降費用の支援を行っている。

支援額は、1隻当り年間最大 100 万円。2014 年度は「BUL」が追加供与された ので半年分の 50 万円が追加された、

2014年度については、小型パトロール艇の陸揚げが必要となる事態がなかったため、この経費は使用されなかった。

#### (4) 小型パトロール艇等の燃料費の支援

各国においては、自国予算による燃料購入がかなり困難な状況である。オーストラリア供与のパトロール・ボート (PPB) 用の燃料確保も十分でなく、結果としてその稼働率を下げている現実がある。

このため、本プロジェクトでは、供与した小型パトロール艇の運航に必要な 燃料費及び、各国との合同取締りに参加する船艇の燃料費を支援している。

小型パトロール艇用燃料費は、1 隻当り年間最大 400 万円、合同取締用燃料費は、1 国当り年間最大 300 万円.

2014年度の使用実績(2015年1月時点まで)は以下のとおりである。

#### ① パラオ共和国

小型パトロール艇を非常に適切に管理し、運用している。燃料費の使用量は、 年間最大額の半分強程度である。

2014年7月には小型パトロール艇2隻目「BUL」が追加供与され、2隻体制となり、外国違反船の発見、取締り等に効果的に活用されている。

合同取締用の燃料費は、10月及び11月に全て使用済みである。

#### ② ミクロネシア連邦

小型パトロール艇の使用頻度が少なく、また、活動海域も首都のあるポンペイ島付近に限られるため、燃料供給量も少ない。

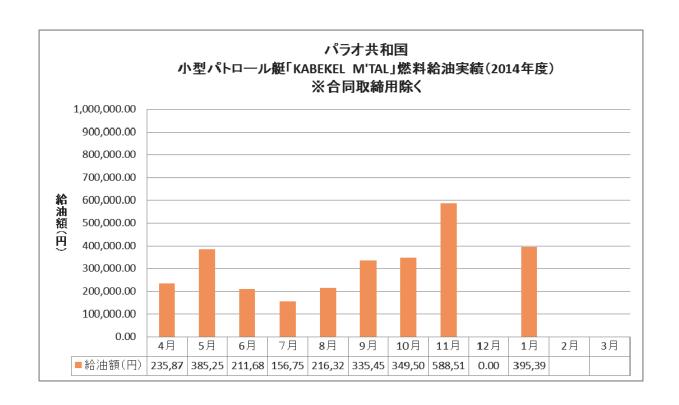
合同取締用の燃料費は、8月に全て使用済みである。

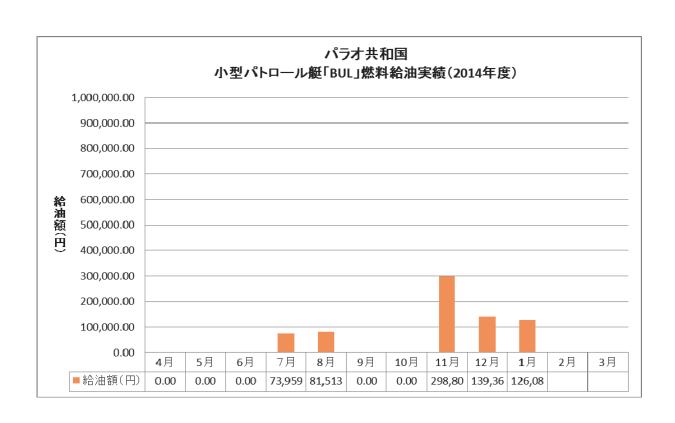
#### ③ マーシャル諸島共和国

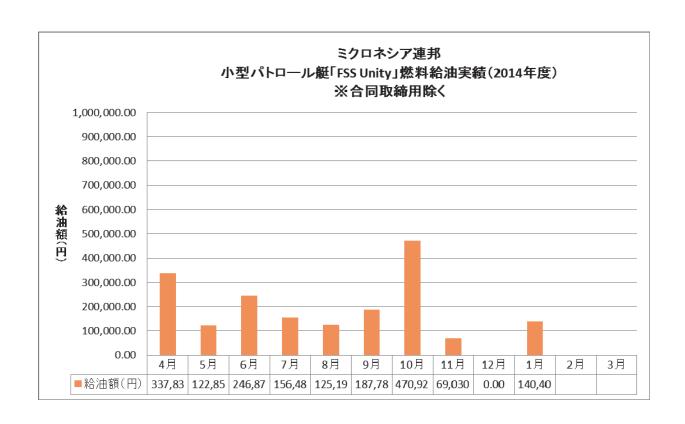
ミクロネシア3国の中で、最も小型パトロール艇を使用している。

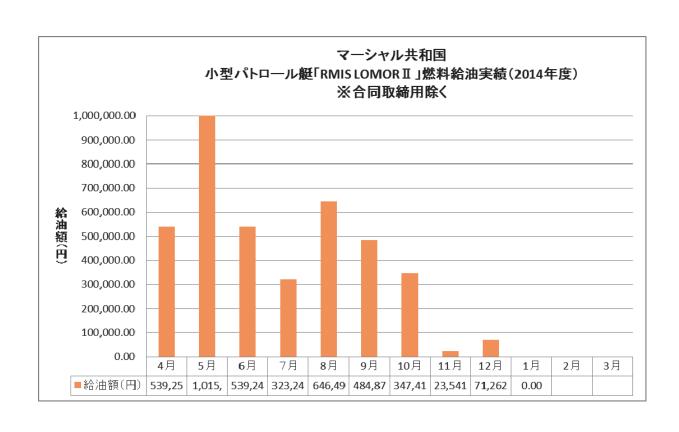
2014年1月末までに、小型パトロール艇用燃料費の上限額(400万円)にほぼ達した。

合同取締用の燃料費は、8月に全て使用済みである。





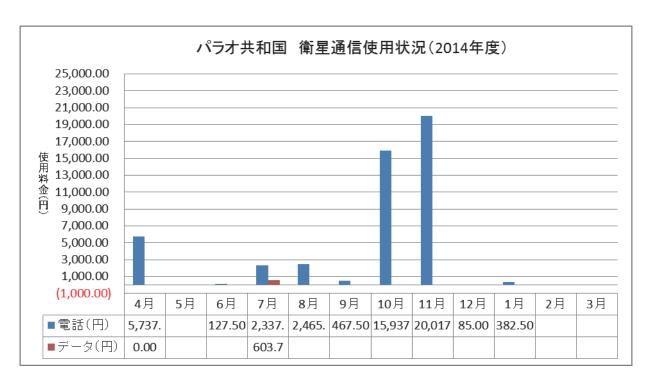


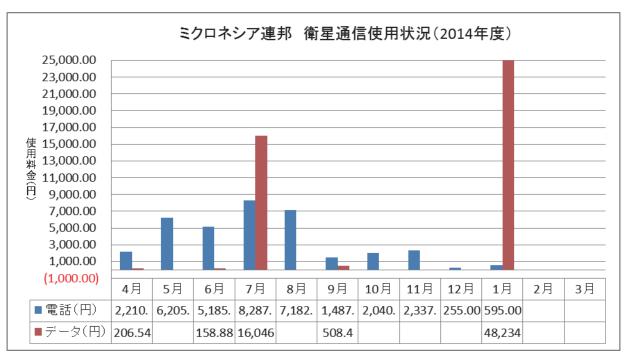


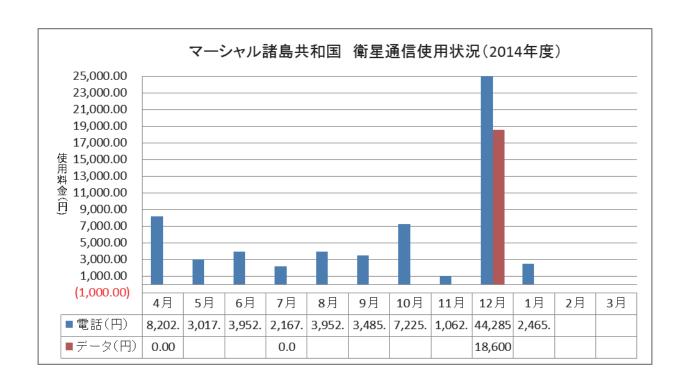
#### (5) 衛星通信料の支援

小型パトロール艇及び船艇基地(事務所)に衛星通信装置を導入したが、衛星通信料は比較的高額であるため、各国の自国予算ではそれを賄ないきれない可能性がある。このため、所謂「宝の持ち腐れ」状態を防止するため、衛星通信料を支援している。

1 局当りの支援限度額は年間 270,600 円。1 国 (2 局分) では 541,200 円 各国の使用状況は以下のとおり。(青色:電話通話、赤色:データ通信)







衛星通信の使用量は必ずしも非常に多いほどではないが、これは衛星通信が不要を意味するものではない。

事案発生時には集中的に衛星通信が活用されており、他の無線通信手段と使い分けている。

また、本プロジェクトの支援の一環として、各国の HF 及び VHF の無線通信能力 (無料)が大きく改善したことは、結果的に、衛星通信(有料)を使わなくてはならない場合が少なくなる方向に働いている。

なお、衛星通信の特長である、「距離に関係ない通信範囲」、「昼夜や時間帯に 左右されない安定した明瞭な通信」、「陸上の電話網への接続による陸上の担当 者との直接通話」、「遭難時等の緊急時の自動接続」等は、「いつでも繋がる、 最後の通信手段」という点でその意味は大きく、関係者への大きな安心感に繋 がっている。

# 3 研修の実施

供与した小型パトロール艇を適切に整備し、安全に運航するために、以下の 研修を実施した。

各国とも、研修参加に熱心であり、着実な技術の向上が見られた。特に機関関係の整備については、「もっと研修機会を増やして欲しい」と要請されるほど現地での研修需要が高いので、今後とも、各国のニーズにあった、各種の研修を実施していく必要がある。

#### (1) 小型パトロール艇整備研修

小型パトロール艇を適正に維持・管理・運用するためには、適切な整備実施が必須である。このため、小型パトロール艇の毎年の定期整備に併せて、ヤンマー技師の現地滞在を1~2日程度長くして、OJT方式で現地関係職員に集中した整備研修を実施した。その結果、ミクロネシア各国からは、感謝の意が示され、こうした支援措置は極めて好評である。今後とも必要に応じて積極的に支援する必要がある。

2014年度における、各国での、研修状況は以下のとおり。

(詳細は、「VI 参考資料」【小型パトロール艇】参照)

#### ① パラオ共和国

○小型パトロール艇納入2年後の定期整備に併せて整備指導を実施

実施時期:2014年9月3日~12日

実施場所:小型パトロール艇「KABEKEL M'TAL」 指導者:ヤンマー技師 橋本和弘氏、小川徹氏

訓練内容:小型パトロール艇納入1年後の定期整備内容全般

所 見:もともとスキルの高い職員であり、今後、自分たちでこの種の整

備が対応可能になることが期待される。





ヤンマー技師による座学及び実技の整備指導

#### ②ミクロネシア連邦

○小型パトロール艇納入2年後の定期整備に併せて整備指導を実施

実施時期:2014年5月12日~5月23日

実施場所:小型パトロール艇「FSS Unity」

指導者 : ヤンマー技師 橋本和弘氏、小川徹氏

訓練内容:小型パトロール艇納入2年後の定期整備内容全般

所 見:受講生は、技量、知識的には特に問題なく、指導者の説明をかな

り理解していた。





ヤンマー技師による座学及び実技の整備指導

#### ③マーシャル諸島共和国

○小型パトロール艇納入2年後の定期整備に併せて整備指導を実施

実施時期:2014年11月27日~12月5日

実施場所:小型パトロール艇「RMIS LOMORⅡ」

指導者 : ヤンマー技師 橋本和弘氏、小川徹氏

訓練内容:小型パトロール艇納入2年後の定期整備内容全般

所 見:受講生は、技量、知識的にスキルがとても高い。また、進んで実

技を行おうとする姿勢があり、積極性がうかがえた。

また、将来、小型パトロール艇2隻目を供与する予定のイバイ島からも、整備担当者2名を招へいし、一緒に研修を受講してもら

った。





ヤンマー技師による座学及び実技の整備指導

#### (他) 小型パトロール艇の航海計器・通信装置研修

小型パトロール艇の定期整備の際、レーターのマグネトロン交換等のために 古野電気技師が派遣される機会を活用して、パラオ及びマーシャル諸島におい て、小型パトロール艇の航海計器や通信装置の 0.JT 研修を行った。

そもそも、このプロジェクトの対象とするミクロネシア各国では、通信装置 や通信そのものに対する知識等があまり深くない現実がある。また、小型パトロール艇の航海計器や通信装置は、頻繁にその装置の機能を活用していれば慣れることができるが、仲々、多人数の職員がそれらを使いこなせるようになるのは難しい面がある。

このため、通信装置の定期的な部品交換等の機会に併せて、各装置の操作方法等を多くの職員に説明しなおすことは大きな意味がある。

今後とも、通信関係の技師派遣の機会を活用してこのような研修を実施する こととしている。



マーシャル諸島:古野電気技師による通信機器操作研修

# (2) 0JT 研修の支援 (パラオ共和国のみ)

第2フェーズにおいては、パラオ共和国に対して小型パトロール艇2隻目を追加支援することとしたが、同国においては、海上法令執行部 (DMLE) の職員数自体が少ないため、こうした小型パトロール艇の運行にも支障が生ずる実態がある。

このため、第2フェーズでは、公益財団法人笹川平和財団の協力を得て、同財団の事業として、0JT長期研修生制度を設け、その実施に必要な全経費(研修生用被服類を含む)を支援した。

主催者側 (DMLE) 責任者は、「約1年間の研修を実施してきた結果、0JT研修 生の動きは非常にテキパキと甲板業務を実施できるようになった。この支援 制度は非常に有難いものであり、感謝する。」旨述べている。

OJT研修の概要は次のとおり。

実施場所:パラオ共和国法務省公安局海上法令執行部 (DMLE)

期間:1年間(2014年4月15日開始)

研修生人数:5名(将来、海上法令執行部の勤務を希望する者の中から選抜)

研修生氏名: Mr. Volans Mamoru DENGOKL

Mr. Ruluked ORAK

Mr. Biusech Francisco TABELUAL

Mr. Gwyn Malsol TEMOL

Mr. Kamrul ZAMAN

研修目標:小型パトロール艇及びパトロール・ボート (PPB) の運航要員として業務を実施できるレベルの研修・訓練を行う。



OJT 研修生(左側の 5 名):右から2番目が海上法令執行部長 Tutii 氏

#### (3) 要人来日時研修

ミクロネシア連邦より法務大臣等が別件にて来日する機会に、海上保安庁の協力を得て、海上保安体庁関係の施設見学、意見交換等を実施した。

実施概要は次のとおり。

実施時期:2014年11月4日~5日

実施内容:

·海上保安庁幹部表敬訪問

・日本の海上保安体制及び業務等の説明、意見交換

・本庁オペレーションルーム見学

・横浜海上保安部(防災基地)見学、巡視艇に体験乗船、意見交換等

•造船所見学

#### 参加者:

・法務大臣 : Ms. April Skilling

・法務省検事 : Ms. Caroline Rugero (Assistant Attorney General)

・警察庁長官 : COL Santos ・海上警察署長 : CDR Peter

·海上警察次長:LCDR David

所見:参加者は、本プロジェクトのミクロネシア連邦側のカウンターパートであり、そうした人達に日本の海上保安体制を具に見学する機会があったことは、同国の海上保安体制整備にとって非常に意義の深いものになった。各参加者は、海上保安庁の制度や施設、技能等に感心し、非常に良い情報を得ることができた由であり、今後のミクロネシア連邦の海上保安能力強化に資するものと思われる。



海上保安庁 鈴木海上保安監を表敬訪問



日本の海上保安体制説明と意見交換



横浜海上保安部巡視艇「はまぐも」に体験乗船



横浜防災基地の訓練用造波プールの見学

# 4 各国との打合せ

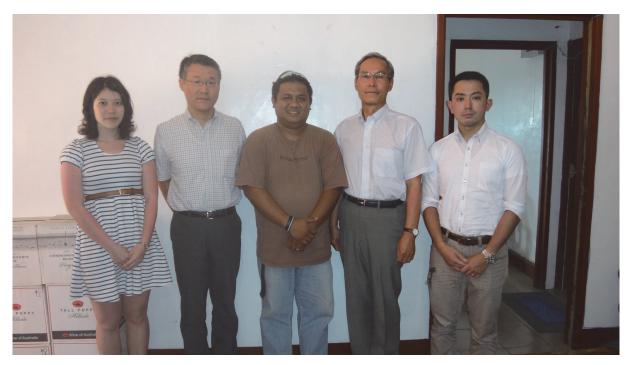
2014年度の事業を円滑に推進するため及び今後の本プロジェクトの展開等のため、ミクロネシア3国を訪問して、齟齬のないように種々の打合せ(説明や意見聴取、意見交換等)を実施した。

各国との打合せのうち主なものは以下のとおり。

# (1) パラオ共和国

#### ①現地紙「Island Times」社訪問

(日時/場所)2014年5月12日(月) /Island Times 社 (訪問目的)本プロジェクトの宣伝



左から、矢沢(経理)、白崎(NMC所長)、Island Times 職員、山川(リーダー)、木村(NMC所長代理)

#### ②在パラオ日本国大使館との打合せ

(日時/場所)2014年5月13日(火)/在パラオ日本国大使館 (訪問目的)プロジェクトの進捗状況説明と協力依頼



中央:田尻大使、右端:中西専門調査員

#### ③国務大臣との打合せ

(日時/場所) 2014 年 5 月 13 日(火)/国務大臣室 (訪問目的) 第 2 フェーズの打合せ



左から2番目:クアルテイ国務大臣、右端:アイタロウ国際局長

#### ④副大統領(法務大臣兼務) との打合せ

(日時/場所) 2014 年 9 月 10 日(水)/ 副大統領室 (訪問目的)第 2 フェーズ及び「BUL」引渡式等の打合せ



左から: TUTII 海上法令執行部長、南洋貿易米田氏、AGUON 公安局長、山川、 BELLS 副大統領(法務大臣)、KUARTEI 国務大臣

#### ⑤駐日パラオ駐日大使との打合せ

(日時/場所)2014年9月19日(金)/駐日パラオ共和国大使館 (訪問目的)プロジェクトの進捗状況及び引渡式に関する説明



右から、高橋、山川、マツタロウ大使、ヒデオ公使参事官

#### ⑥国務大臣との打合せ

(日時/場所) 2015 年 2 月 4 日(水)/大統領府 (訪問目的) VHF リピータの完成検査・引渡しの説明



中央が KUARTEI 国務大臣、右から2人目が田中(JAMS)

#### ⑦法務大臣(副大統領兼務)との打合せ

(日時/場所) 2015 年 2 月 5 日(木)/副大統領事務室 (訪問目的) VHF リピータの引渡し報告、今後の支援策の打合せ



BELLS 副大統領(法務大臣)

# ⑧オーストラリアの MSA との打合せ

(日時/場所) 2015 年 2 月 5 日 (木)/DMLE 事務室 (訪問目的) 新任の MSA に対するプロジェクトの説明と協力依頼



LTCDR FENNELL (MSA)

# (2) ミクロネシア連邦

#### ①船員養成機関 (FMI) との打合せ

(日時/場所) 2015 年 3 月 11 日(水)/ 船員養成機関 (FMI):ヤップ島 (訪問目的) 操船シミュレータ供与に関しての打合せ等



前列右: Roboman 学校長

#### ②その他

2014年度は都合により、ミクロネシア連邦を訪問しての各種打合せ等は多くは実施できなかったが、法務大臣や警察庁長官等が別用で来日した機会を捉えて、本プロジェクトの現状、問題点、今後の支援策等に関する打合せを実施した。

## (3) マーシャル諸島共和国

#### ①警察庁長官との打合せ

(日時/場所) 2014年5月27日(火)/ 海上警備局 (Sea Patrol) (訪問目的) 小型パトロール艇2隻目の供与に関する打合せ



左端:ランウィ警察庁長官、右端:フィリッポ警察庁副長官

## ②在マーシャル諸島共和国日本国大使との打合せ

(日時/場所)2014年5月27日(火)/在RMI日本国大使館 (訪問目的)小型パトロール艇2隻目の供与に関する説明



中央左:安細大使

#### ③外務大臣との打合せ

(日時/場所) 2014年5月27日(火)/外務大臣室 (訪問目的) 小型パトロール艇2隻目の供与に関する打合せ



中央右: デブルム外務大臣

#### ④運輸通信大臣との打合せ

(日時/場所) 2014 年 5 月 28 日(水)/ 海上警備局 (Sea Patrol) (訪問目的) 小型パトロール艇 2 隻目の供与に関する打合せ



中央:ハイネ運輸通信大臣

#### ⑤イバイ島大酋長との打合せ

(日時/場所) 2014 年 5 月 30 日(金)/ HOTEL EBEYE 内 (訪問目的) 小型パトロール艇 2 隻目の供与に関する打合せ



中央右:マイク・カブア大酋長(国会議員)

#### ⑥イバイ島関係者との打合せ

(日時/場所) 2014年5月29日(木)/クワジェリン環礁地方政府庁舎 (訪問目的) 小型パトロール艇2隻目の供与に関する打合せ



クワジェリン環礁地方政府関係者

#### ⑦イバイ島港湾荷役関係者との打合せ

(日時/場所) 2014年5月30日(金)/イバイ島港湾荷役会社 (訪問目的) 小型パトロール艇2隻目の供与に関する打合せ



イバイ島港湾荷役事業者

#### ⑧イバイ島国立病院関係者との打合せ

(日時/場所) 2014 年 5 月 30 日(金)/ イバイ島国立病院 (訪問目的) 小型パトロール艇 2 隻目の供与に関する打合せ



イバイ島国立病院関係者

# 5 関連事業:「NIPPON MARUⅡ」の供与

1989年に日本財団が供与したコロール及びペリリュー間通船の「日本丸」が 2012年の台風「Bopha」により沈没・破損したため、その代替船の供与について、 パラオ共和国レメンゲサウ大統領から日本財団笹川会長宛に強い要請があった。 同船は、コロールとペリリュー間に就航し、付近海域の海難事故等の場合には 同国海上保安機関 (DMLE) と連携して捜索救難活動等を行うことが可能となる ため、「ミクロネシア 3 国の海上保安能力強化支援プロジェクト」を補完するものとして、代替船の供与が決定され、一般社団法人日本中小型造船工業会 (CAJS) を通じて建造・供与された。

引渡式実施日:2014年12月15日



日本財団・海野常務理事からパラオ・レメンゲサウ大統領にパネルの贈呈



「NIPPON MARU II 」

Ⅲ これまでの業務改善成果

本プロジェクトでは、これまでに小型パトロール艇を各国に1隻づつ(パラオのみ2隻)供与した。これらの小型パトロール艇は、その優れた性能(高速性、堪航性、通信能力等)を遺憾なく発揮し、捜索・救助案件、沿岸部等のパトロール、外国船等への立入検査、法令違反案件の検挙、海上行事開催時の警戒業務、離島への要人輸送、台風等の被災時の住民避難、災害物資輸送、政府災害対策委員の輸送、その他の政府用務への便宜供与等々で、極めて有効に活用されている。

特にパラオ共和国においては、ベトナム違反漁船の多数の検挙に当プロジェクトで供与した小型パトロール艇2隻と高速救難艇(ゴムボート型)が連携して大活躍している。その方法は、当方が予想した以上に素晴らしく統制がとれ、かつ、それぞれの艇の特徴を生かした方法である。

本来、ベトナム船を停船させるためにはパラオの警察官を該船に移乗させる必要があるが、その場合、小型パトロール艇を直接接舷するのでは舷が強くぶつかって小型パトロール艇のFRPがダメージを受ける恐れがある。しかし高速枚難艇ならばゴム質の浮体(防舷材)が緩衝剤となり、また、機敏な操船操作ができるので、非常に安全に円滑にこの移乗業務が実施できる。このため、今回の一連のベトナム船停船・逮捕事案では、高速枚難艇があったために成功裏に業務を実施できた。

具体的な対応方法は、ベトナム違反船等の関連情報があった際は、当該ベトナム船発見のために、まず、高速性能の優れた小型パトロール艇 2 隻を即座に派遣する。そしてベトナム船を発見した場合には、小型パトロール艇は監視を続け、その間に、予め基地にて待機させておいた高速救難艇に必要な人数の警察官を乗せて現場に急行させる。そして、高速救難艇が現場に着くやすぐに、航走中(逃走中)のベトナム船に接舷し、即座に警察官 2 名を移乗させ、その警察官がベトナムの船橋でエンジン停止し、停船させる。従って、先般のベトナム船 3 隻を一斉に捕捉した時は、高速救難艇に移乗要員の警察官計 6 名を乗艇させ、まずベトナム船 1 隻に接舷して 2 名を移乗させ、すぐに他のベトナム船に接舷して他の 2 名を移乗させ、更にもう1 隻のベトナム船にも 2 名を移乗させるという方法を採った。このように、パラオ共和国では、高速性のある小型パトロール艇と警官の移乗が安全にできる高速救難艇を上手く使い分け、かつ連携させて、同国の海上保安業務に活用し、大きな成果を収めている。

(関連情報は、参考資料を参照)



ベトナム船を拿捕して入港してきた「KABEKEL M'TAL」

また、ミクロネシア連邦においては、当方が供与整備した AIS 受信装置により医療援助を必要とする船舶と迅速に会合して救助が実施されたほか、小型パトロール艇がポンペイ港付近での外国船の立入検査・取り締まりに活躍している。

マーシャル諸島共和国は、ミクロネシア3国のうちでも最も小型パトロール 艇を頻繁に運用する国であり、海難救助等の海上保安業務の他にも、囚人の輸 送など多方面の政府用務にも活用されている。

こうしたミクロネシア各国での小型パトロール艇の活躍を支えるのは、この プロジェクトの特徴である運行経費(燃料費、定期整備費、予備部品費等)の 支援である。

ミクロネシア 3 国においては、概してパトロール・ボートの燃料費の予算が 潤沢ではない。燃料搭載の方法も、年間計画で予定したパトロール活動に出港 する間際に燃料搭載を行い、その都度、燃料購入の決裁を取って搭載する。こ のように、パトロール活動から帰港した際は燃料は殆んど空の状態である。こ うしたやり方は海難等の事案発生時においても同様であるため、事案発生が土 日曜にかかるような場合には、燃料購入の決済に数日を要する場合もあり、結 果的に、時間の経過とともに捜索海域が拡大し、発見率の低下、救助率の低下 に繋がる点は否めない。

他方、当方が供与した小型パトロール艇の場合は、燃料費の支援が確約されているので、パトロール活動から帰港した際には必ず燃料を満タン状態にしておくように指導している。それは海難等の事案が発生した場合の即応体制を維

持するためである。このように、小型パトロール艇では事案即応体制が執れることは小型パトロール艇による業務対応のやり易さ、業務成果の向上、重宝さ等になっており、結果的に小型パトロール艇の供与が各国から非常に歓迎されている大きな要素になっているものと思わる。

小型パトロール艇の燃料費として、1隻当り年間最大 400 万円をしているが、その額は年間の小型パトロール艇の運行にほぼ十分な額である。このため、各国にとっては、自国の予算を使用せずに小型パトロール艇を年間運用できる訳であり、極めて大きな利益となっている。

また、ミクロネシア 3 国では、オーストラリアから供与されたパトロール・ボート (PPB、30m型)により、EEZ 内の違法漁船取締り等を実施しているが、自国予算でその燃料費を十分に確保することが困難な状況にあるため、本プロジェクトの支援の一環として、近隣諸国との「合同取締り活動」に参加する巡視船艇の燃料費についても支援(1 国当り年間最大 300 万円)しており、取締り頻度及び取締り実績の向上に大きく寄与している。

さらに、このプロジェクト支援の重要な柱として、通信機能の強化を積極的 に推進したことにより、HF及びVHFでの無線通信能力の改善及び衛星通信の 導入による場所を選ばない安定した明瞭な通信の実施は、PPBや小型パトロー ル艇による海上保安業務の円滑な執行に大きく役立っている。

このように、本プロジェクトでの支援内容は、ミクロネシア3国での海上保 安能力の強化に大きく寄与しているところであり、各国から高い評価を得てい るとともに各国政府幹部や大統領等からも多くの感謝の言葉が寄せられている。

こうした状況下、特にパラオ共和国においてはレメンゲサウ大統領が海洋資源保護に極めて積極的であり、その政策を担保するためにも同国の海上保安能力の一層の改善を熱望していることから、後述のとおり、本プロジェクトの「第3フェーズ」として、さらなる支援を実施する予定である。

Ⅳ 更なる支援に向けて(第3フェーズ)

パラオ共和国においては、第2フェーズとして、小型パトロール艇の追加供 与及びVHF無線施設の新設供与等を行い、相応の海上保安体制整備を行って きたが、レメンゲサウ大統領は「マリン・サンクチュアリ」構想の実効を得る ため、更なる海上保安体制の整備を希望しることから、日本財団では更なる支 援を実施することとなった。

支援予定項目は次のとおりであり、今後、各項目の詳細な内容を検討して、早急に支援を実施する予定である。

- ○中型巡視船(40m級)の整備(1隻)
- ○小型パトロール艇の追加整備(1隻)
- ○上記巡視船用係留施設の整備
- ○庁舎の整備(研修施設を含む)
- ○航空機(ヘリコプター等)の活用
- ○職員(乗組員)の確保、育成
- ○組織の整備(海上保安局の設置)
- ○海上保安専門家(常駐)による指導



日本財団海野常務理事とパラオ・レメンゲサウ大統領の会談 (パラオ大統領府 Facebook より)



これまで本書において述べてきたように、本プロジェクトは、海上保安の体制があまり整備されていない太平洋ミクロネシア地域の3ケ国を対象として、その海上保安能力を一定のレベルに向上させることを目的に、各国の船艇勢力、職員の状況やレベル、国家体制、国家予算等々を勘案し、できるだけ、現実的、かつ、効果的な支援を心掛けてきた。即ち、各国の今の海上保安体制のレベルに対して、一定量の有意なレベル向上をさせるために、限られた投資で最も効果的と考えられる支援策を実施してきた。

その結果、各国とも、確実に一定量のレベルの向上が見られた。

こうした結果を受けて、各国からは、さらにもう一段階上のレベルを目指した支援の要請がなされるようになり、「第2フェーズ」として更なる支援を実施しつつある。また、パラオ共和国においては、一層高いレベルの海上保安体制を整備すべく「第3フェーズ」の支援を実施することが予定されている。

現在、このように民間財団のフットワークを生かして、当面必要な支援を実施しているが、この種の支援は、金額的にも多くの経費を要すること、及び、ミクロネシア地域各国の政治・外交的重要性に鑑みて、将来的には日本政府からの公的支援(ODA)としての積極的な支援に発展することが期待される。

本件プロジェクトの実現及び更なる発展のために、民間サイドから極めて積極的にご協力をいただいている公益財団法人日本財団のご配慮に感謝する次第である。

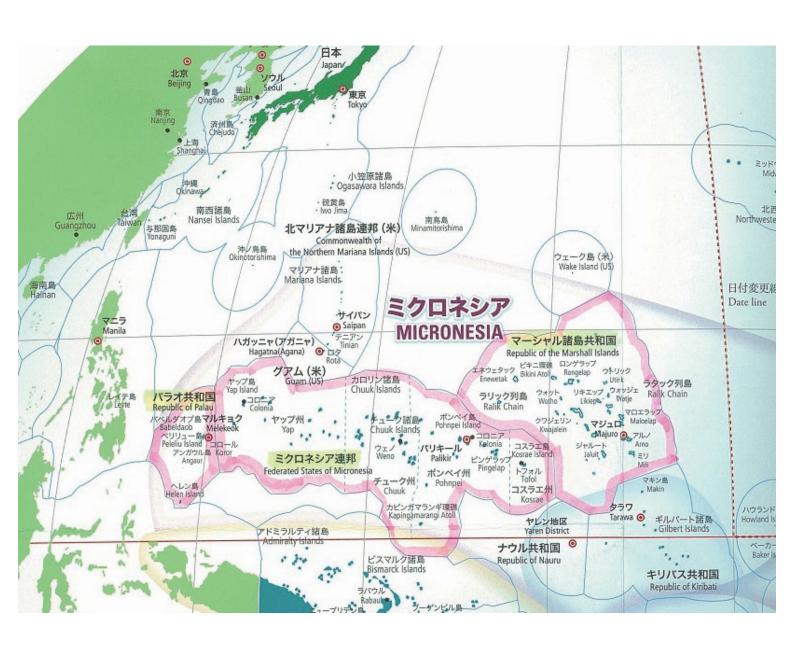
# VI 参考資料

# Ⅵ 参考資料 目 次

番号	日付	内容	ページ		
【各国	基礎情報				
1		- ミクロネシア3国の地図、EEZ	63		
2		ミクロネシア3国の基礎情報(地理、社会)	64		
3		ミクロネシア3国の基礎情報(政治、経済)	65		
【事業概要】					
4	20150301	事業の全体計画	66		
5	20150301 予算関係図				
6	6 20150301 ミクロネシア3国への支援内容一覧				
7	20150301	事業の経緯と実績(時系列)	69		
8		事業実施スケジュール(2015年度)	84		
9		(ROP)パラオ共和国との覚書(MOU):第2フェーズ	85		
【引渡	[式]				
10		(ROP)パラオ共和国での引渡式の状況:BUL	92		
11		(ROP)記事:Palau to receive new patrol boat(TIA BELAU)	96		
12	20141002	(ROP)記事:パラオに小型パトロール艇 日本財団が寄贈(産経新聞)	97		
13	20141003	(ROP)記事:日本財団 パラオに2隻目の小型警備艇供与(日本海事新聞)	98		
14	20141003	(ROP)記事:日本財団が新たな警備艇を引渡し(和訳)(Island Times)	99		
【小型	ピパトロール	ル艇】			
15	20140526	(FSM)「FSS Unity」:2年目定期整備:業務実施報告書(NBK)	103		
16	20140600	(RMI) 小型パトロール艇2隻目:現地調査結果(イバイ島)	138		
17	20140604	(ROP)「BUL」: 海上試運転の状況	147		
18	20140707	(ROP)「BUL」: 現地引渡しの状況	149		
19	20140911	(ROP)「KABEKEL M'TAL」: 2年目定期整備:海上試運転の状況	151		
20	20140917	(ROP)「KABEKEL M'TAL」: 2年目定期整備:業務実施報告書(NBK)	153		
21	20141204	(RMI)「RMIS LOMOR II」: 2年目定期整備: 海上試運転の状況	192		
22	20141219	(RMI)「RMIS LOMOR II」:2年目定期整備:業務実施報告書(NBK)	193		
23	20141216	(ROP)小型パトロール艇の操船訓練の状況	229		
【高速	教難艇】				
24		(ROP)「POLICE SAR UNIT」:海上試運転の状況	231		
25		(ROP)「POLICE SAR UNIT」: 現地到着の状況	233		
26		(ROP)記事:新しいボート2隻がパラオとペリリューへ(和訳)(Island Times)	234		
27		(ROP)高速救難艇の操船訓練の状況	236		
	シミュレータ				
28			238		
【通信			•		
29		(FSM)AIS受信装置設置:業務実施報告書	248		
30		(FSM)AIS受信装置設置:礼状:FSM海上警察司令官より	257		
【研修		TO THE YEAR PROPERTY OF THE PR	207		
31	=	(FSM)法務大臣一行による海上保安庁訪問と施設見学の状況	258		
	· 改善効果		200		
32		【ROP)小型パトロール艇「KABEKEL M'TAL」がベトナム違反船を検挙	262		
33		(ROP)記事:ベトナム船3隻を拿捕 (Island Times)	263		
34		(ROP)記事: さらに3隻のベトナム漁船を逮捕(和訳) (Island Times)	265		
-	フェーズ】	(ハン・/ 旧子・Cン) CO文文 イン本語側Cを語(TEB) / (Joidhu Times)	200		
35	-	(ROP)記事:日本財団がパラオの海上監視能力強化に協力へ(Island Times)	273		
	記事】	(NOI・/ 心事・日本対域が、ソカの海上血沈能力強化に励力、(Island Times)	2/3		
	-HU T 1	(DOD)司車, Jananasa guara ta bala umawada Dalau'a wasikiwa			
36	20140513	(ROP)記事:Japanese group to help upgrade Palau`s maritime capabilities(Island Times)	278		
	004 40000	•	0.70		
37		(ROP)記事:両陛下 パラオご訪問検討(産経新聞)	279		
38	20140720	(ROP)記事:パラオの海洋戦略(日本海事新聞)	280		

# Ⅵ 参考資料 目 次

	39	39 20141217 (ROP)記事:パラオ首脳会談及び夕食会(外務省HP)		
ſ	40	20141217	7  (ROP)記事:天皇陛下、パラオ大統領とご会見(YAHOO!ニュース)	
ſ	41	20150123	(ROP)記事:天皇陛下パラオご訪問 閣議決定(産経ニュース)	286



<ミクロネシア3国の地図、EEZ>

#### 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」

# The project for improvement of the coast guard capability of the three Micronesian countries ミクロネシア3国の基礎資料(地理・社会)

			***	<i>'</i>
国名		パラオ共和国 Republic of Palau (ROP)	ミクロネシア連邦 Federated States of Micronesia (FSM)	マーシャル諸島共和国 Republic of the Marshall Islands (RMI)
	面積	488k㎡ (屋久島とほぼ同じ)	701k㎡ (奄美大島とほぼ同じ)	181k㎡ (霞ケ浦とほぼ同じ大きさ)
	島の数	200	607	約1,225
	日本との距離	3,200km	3,700km	4,588km
地理・	気候	海洋性熱帯気候、 高温多湿	海洋性熱帯気候、 高温多湿	海洋性熱帯気候、 湿潤高温
自	平均気温	27.9°C	27°C	27°C
然	平均湿度	82%	70%	75%
	年間雨量	3,784ミリ、スコール性	4,800ミリ、スコール性	3,400ミリ
	乾季·雨季	乾季∶11~4月、 雨季∶5~10月	乾季:1~3月、 雨季:4~12月	乾季:12~4月、 雨季:10~11月 (区別はあまりはっきりしていない。)
	人口	約 20,920人 (2013年、世界銀行)	約 103,549人 (2013年、世界銀行)	約 54,816人 (2011年、世界銀行)
	在留邦人	368人 (2014年11月現在)	111人 (2011年10月現在)	67人 (2011年10月現在)
	年間来訪者数	140,784人 (うち日本人37,986人) 2014年パラオ政府観光局	17,500人 (うち日本人2,975人)	5,399人 (うち日本人933人)
	民族	ミクロネシア系	ミクロネシア系	ミクロネシア系
	言語(公用語)	パラオ語、英語	英語の他、現地の8言語	マーシャル語、英語
社会	宗教	キリスト教(80%)、 伝統宗教・その他(20%)	キリスト教 (カトリック52%、 プロテスタント40%)	キリスト教 (主にプロテスタント)
文	国の花	ルー(ホワイトロックリリー)	特になし	特になし
化	電話の国番号	680	691	692
	電圧	110V、60Hz、 プラグは日本と同じ	110V、60Hz、 プラグは日本と同じ	110V、60Hz、 プラグは日本と同じ
		±0h	+1h (ヤップ州、チューク州)	+3h
	日本との時差	(サマータイムなし)	+2h (ポンペイ州、コスラエ州)	(サマータイムなし)
			(サマータイムなし)	
	保健	生水は飲用不適	生水は飲用不適	生水は飲用不適

The project for improvement of the coast guard capability of the three Micronesian countries

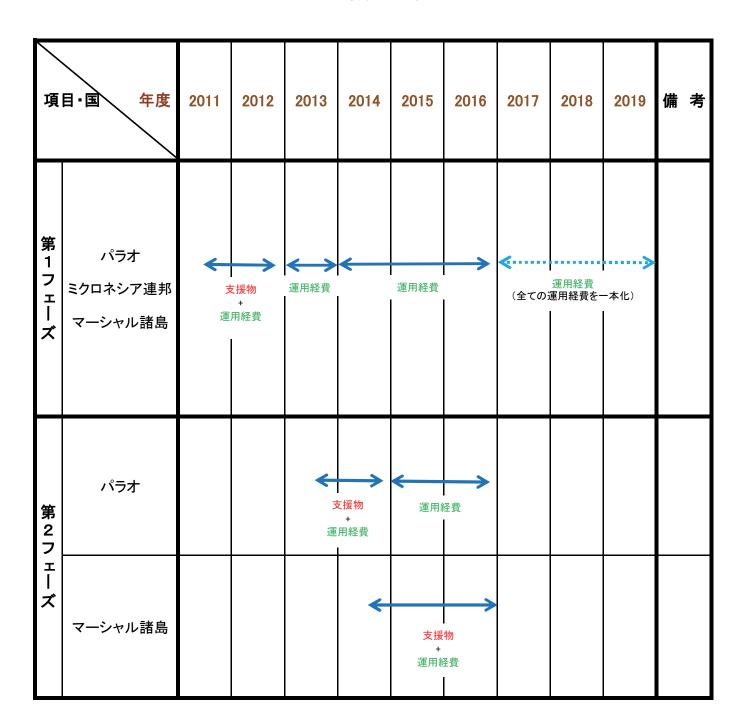
## ミクロネシア3国の基礎資料(政治・経済)

			<b>*</b>	<b>&gt;</b> /
[	国名	パラオ共和国 Republic of Palau (ROP)	ミクロネシア連邦 Federated States of Micronesia (FSM)	マーシャル諸島共和国 Republic of the Marshall Islands (RMI)
独立	記念日	1994年10月1日	1986年11月3日	1986年10月21日
	首都	マルキョク (2006年、コロールから移転)	パリキール (1989年11月、コロニアから遷都)	マジュロ
	政体	大統領制	連邦共和制、大統領制	大統領制
政	大統領	トミー・レメンゲサウ His Excellency Mr.Tommy E. REMENGESAU, Jr. (2013年1月就任、任期4年)	エマニュエル・マニー・モリ His Excellency Mr.Emanuel Manny MORI (チューク州出身) (2011年5月再選、任期4年)	クリストファー・ロヤック His Excellency Mr. Christopher J. LOEAK (2012年1月就任)
府	担当大臣	法務大臣(副大統領が兼務) アントニオ・ベルズ	法務大臣 エイプリル ドウン スキリング Hon. April Dawn M.SKILLING	法務大臣 リエン・モリス Hon. Rien MORRIS
	担当人任	Hon. Antonio BELLS	運輸通信インフラ大臣 フランシス. I. イティマイ Hon.Francis I.Itimai (ヤップ州出身)	運輸通信大臣 トーマス・ハイネ Hon. Thomas HEINE
	大使	特命全権大使 フランシス・マツタロウ His Excellency Mr. Francis MATSUTARO	特命全権大使 ジョン・フリッツ His Excellency Mr. John FRITZ	特命全権大使 トム・ディー・キチナー His Excellency Mr. Tom D. KIJINER
駐日大	担当者	菱川 敏之(上級事務官)	末永邦雄(経済担当官)、 草柳卓江(大使秘書)	アネット・ノート(公使参事官)、 宮坂健太郎(事務官)
使館	住所	パラオ共和国大使館 Embassy of the Republic of Palau in Japan 〒160-0001 東京都新宿区片町1番 1-201号 電話:03-3354-5500	ミクロネシア連邦大使館 Embassy of the Federated States of Micronesia in Japan 〒107-0052 東京都港区赤坂1-14-2 霊南坂ビルディング2階 電話:03-3585-5456	マーシャル諸島共和国大使館 Embassy of the Republic of the Marshall Islands in Japan 〒160-0012 東京都新宿区南元町9- 9 明治パークハイツ101号 電話:03-5379-1701
18	大使	特命全権大使 田尻 和宏	特命全権大使 坂井 眞樹	大使 安細 和彦
現地日本大使館	住所	Palau Pacific Resort, Ngarakebesang, Koror Republic of Palau (パラオパシフィックリゾートホテル 敷地内) Tel: +680-488-6455 Fax:+680-488-6458	P.O.Box 1837 Kolonia Pohnpei FSM96941 Federated States of Micronesia Tel:+691-320-5465 Fax: +691-320-2933	A-1 & 2 Lojkar Appartment, Rairok, Long Island, Majuro (郵便物宛先: Embassy of Japan,P.O.Box 300, Majuro, Republic of the Marshall Islands, MH96960) Tel:+692-247-7463 Fax:+692-247-7493
	通貨	米ドル(US\$)	米ドル(US\$)	米ドル(US\$)
経 済	GDP/人	14,022米ドル (2013年、IMF)	3,203米ドル (2014年、IMF)	3,060米ドル (2009年、世界銀行)
	出国税	50米ドル (出国税\$20+環境税\$30)	20米ドル	20米ドル

※中国との国交があるのは、太平洋13国中の7国(ミクロネシア連邦、PNG、バヌアツ、フィジー、サモア、トンガ、クック)

2008 20	2009 2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	痛
現地調査 国际	国際会議	議各国調整	各国供与								
		•	各国供与								第2フェーズの小 型艇等の運用経 費も含む
				検討	パラオ供与						
				V	横標	7->%ル供与					
					検討	国際会議	<b>大</b>				

### 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」 予算関係一覧図



### (凡例)

← は、既定予算を示す。

<!--> は、今後の予定を示す。

### (注)

- \*支援物とは、支援の施設や物品(小型パトロール艇、通信設備、業務用品等)をいう。
- \*運用経費とは、支援物を運用するための経費(小型パトロール艇定期整備費、燃料費、衛星通信費、 場降経費)をいう。

### (予算要求方針)

2016年度末で各事業の終期を合わせ、2017年度以降は、3カ年計画で、運用経費のみを一本化して予算要求する。

2019年度末を、当面の本プロジェクトの区切りと想定。

# The project for improvement of the coast guard capability of the three Micronesian countries ミクロネシア3国への支援内容

		パラオ: Republic (RC	of Palau	ミクロネシア連邦 Federated States of Micronesia(FSM)	マーシャル諸島共和国 Republic of the Marshall Islands (RMI)
MOLL	署名者	法務大臣	法務大臣	運輸通信インフラ大臣	法務大臣
MOU	締結日	2012年2月16日(木)	2014年3月13日(木)	2012年1月26日(木)	2012年1月19日(木)
	船名	KABEKEL M'TAL	BUL	FSS Unity	RMIS LOMOR II
小型パ トロー	加石	(意味:正義の監視船)	(意味:資源保護)	(意味:統一、結束)	(意味:救助)
ル艇	管轄	海上法令 (Division of Marine		海上警察署 (Maritime Wing)	海上警備局 (Sea Patrol)
	引渡日	2012年8月10日(金)	2014年7月7日(月)	2012年6月20日(水)	2012年11月21日(水)
高速救	船名	POLICE SAR UNIT			
難艇	引渡日	2014年10月31日(金)			
		2014年10月31日(金)			
	山宏	VHFレピータ	VHFレピータ(北部) 新設	VHFレピータ	
通信	内容	衛星通信装置		衛星通信装置	衛星通信装置
		非常用発電機			
	引渡日	2012年8月22日(水)	2015年2月6日(金)	2012年8月21日(火)	2012年11月21日(水)
引渡式	実施場所	パラオ共和国 法務省海上法令執行部 岸壁	パラオ共和国 ニワル州イメカン港 岸壁	ミクロネシア連邦 法務省警察庁 岸壁	マーシャル諸島共和国 ウリガ(魚市場)岸壁
	実施日	2012年10月12日(金)	2014年10月1日(水)	2012年8月17日(金)	2012年11月23日(金)
		小型艇燃料費 (年間最大400万円) (US\$40,000)	小型艇燃料費 (年間最大400万円) (US\$40,000)	小型艇燃料費 (年間最大400万円) (US\$40,000)	小型艇燃料費 (年間最大400万円) (US\$40,000)
	圣費支援 ∈度末まで	合同取締用燃料費 (年間最大300万円) (US\$30,000)		合同取締用燃料費 (年間最大300万円) (US\$30,000)	合同取締用燃料費 (年間最大300万円) (US\$30,000)
	予定)	衛星通信費 (年間最大126万円) (US\$12,600)	衛星通信費 (年間最大126万円) (US\$12,600)	衛星通信費 (年間最大126万円) (US\$12,600)	衛星通信費 (年間最大126万円) (US\$12,600)
		小型艇揚降費 (年間最大100万円) (US\$10,000)	小型艇揚降費 (年間最大100万円) (US\$10,000)		

	年	月/日	場所	実施項目	概要
1	2008	4	日本	マーシャル諸島共和国 (RMI)トメイン大統領と 笹川会長との会談	マーシャル諸島共和国(RMI)のトメイン大統領(当時)が来日した際、笹川日本財団会長と会談。その中で、脆弱な海上保安機能を強化するための支援要請があった模様。 要請自体は「船がほしい」というものであった、とする人もいる。 いずれにせよ、この会談を契機にミクロネシア地域に対する支援策の検討が始まる。 (当初は羽生会長を中心に笹川平和財団(SPF)のみで対応していた模様。)
2	2008	11/18	FSM	第8回ミクロネシア大 統領サミット	ミクロネシア連邦(FSM)でミクロネシア大統領サミット開催(FSM、ROP、RMIの3カ国により持ち回り開催。(おそらくSPFからも誰かが参加。) 共同コミュニケにおいて、「Sasakawa Peace Foundation (Regional Coast Guard Project)」の項目が設けられ、本件プロジェクトに感謝し歓迎する旨記載あり。なお、同項の末尾に「The Presidents also agree to support FSM's interest to host the Secretariat of the project to be based in the FSM」との文言が盛り込まれており、これがFSMが「地域調整センターの場所はFSMとすることで既に合意ができている」と主張する根拠となっている。
3	2009	3/29 <b>~</b> 4/4		第1次実地調査団派遣 (FSM,RMI)	本件プロジェクトの実施にあたり、まずはミクロネシア3国の海上保安機関の組織、体制、装備等の現状、海上保安機能に関する課題等、現状と課題を確認するために、運輸政策研究機構・国際問題研究所(JITI)の鷲頭(わしず)所長(前スロバキア大使)を団長とする実地調査団(第1次)を派遣。NMCからも磯野所長、有川所長代理が参加。(SPFコーディネーターの早川氏も参加。)
4	2009	5/17- 5/20	ROP	第1次実地調査団派遣 (ROP)	FSM,RMIに続いて、パラオ共和国(ROP)を訪問し、海上保安体制の現状・課題等の調査を行った。 出張報告はNMCにおいて作成。JITIはこの後、本プロジェクトからはフェードアウト。
5	2009	8/6	日本	第1回日本側関係者支 援策打合せ会議	SPF(茶野常務等)、ニッポン・マリタイム・センター(NMC)及び海上保安庁(七尾国際・危機管理官等)の三者による打合せ会議を開催。 第1次実地調査及び2009年のミクロネシア大統領サミットの結果報告と、今後のスケジュール及び支援策について検討。
6		9/6-11		第2次実地調査団派遣 (ROP,FSM)	第1次実地調査及びそれを踏まえた支援策の検討を補完し、さらに検討を進めるため、 NMCの磯野所長を団長とする第2次実地調査団を派遣。(NMC磯野、有川、SPF塩澤研究員(太平洋島嶼国基金)の3名による調査団)支援策を念頭において各国海上保安機能の現状を確認。
7	2009	9/13- 17	RMI	第2次実地調査団派遣 (RMI)	ROP,FSMに続いて、RMIを訪問。 第2次実地調査も踏まえた、実地調査の最終報告書を作成。
8	2009	10/8	日本	第2回日本側関係者支 援策打合せ会議	SPF、NMC及び海上保安庁の三者による2回目の打合せ会議を開催。 第2次実地調査の結果を報告するとともに、2次にわたる現地調査を踏まえて、米豪に 事前相談する日本側としての支援策案を検討。
9	2009	11/10	米国	米国国務省及びUSCG との打合せ	現地実地調査の結果を踏まえて、NMCが米国ワシントンDCを訪問し、国務省・USCGの関係者に本プロジェクトの経緯、現地調査の結果を説明し、今後の進め方等について意見交換を行った。 なお、本打合せには在米の豪・ニュージーランド両大使館の関係者も出席。
10	2009	11/26	豪州	豪州外務貿易省等と の打合せ	米国訪問に続いて、NMCがSPF羽生会長とともに豪州を訪問し、外務貿易省、国防省等の関係者と面談。米国訪問時と同様、本プロジェクトの経緯、現地調査の結果を説明し、今後の進め方等について意見交換を行った。
11	2010	1/17- 22	ROP FSM	官民合同会議に向け た訪問・打合せ (ROP,FSM)	3月の「第1回官民共同会議」(東京会議)を前にして、その事前説明等のためにSPF茶野常務等とNMCが、ROP,FSMを訪問。 政府関係者を訪問して、本件プロジェクトのこれまでの経緯、現地実地調査の最終報告書、東京会議の目的等について説明するとともに意見交換を行った。また、NMC単独で海上保安機関を訪問し、担当者及び豪派遣のアドバイザーと意見交換を行い、小型艇の想定活動範囲等、支援策の詳細検討のための情報収集を行った。
12	2010	1/26- 29	RMI	官民合同会議に向け た訪問・打合せ(RMI)	ROP,FSMに続いて、SPF深井室長等とNMCがRMIを訪問。政府関係者及び豪アドバイザーと面談し、上記同様の説明と意見交換を行った。
13	2010	3/2	日本	ミクロネシア地域における海上保安機能強化に関する官民共同会議(第1回官民共同会議)開催	この会議の正式名称は、「ミクロネシア地域における海上保安機能強化のための6カ国及び2非政府組織による会議(Meeting of Six Nations and Two Non-Governmental Organizations for Strengthening Maritime Surveillance Capacity in Micronesia Region)」。 ROP、FSM、RMIの当事国3国政府と日米豪の支援3国政府及び日本財団、SPFが会議メンバーとなって官側と民側の共同会議を開催。参加各国からそれぞれプレゼン・意見表明が行われた後、NMC磯野所長が現地実施調査の報告を行い、支援策や今後のスケジュール等について意見交換が行われた。最後に、会議の内容をまとめるとともに今後の進め方について合意した共同議長声明を採択して終了した。(会議のロジはSPFが担当したが、サブに関してはほとんどNMCが担当。)
14	2010	3/18	日本	ミクロネシア海上保安 能力強化ワーキンググ ループ会合(第2回官 民共同会議)に向けた 勉強会	第1回官民共同会議(東京会議)の結果を踏まえ、第2回官民共同会議(グアム会議: 第2回は実務者によるワーキンググループ会合との位置づけ)に向けた議論を行うため、SPF、NMC及び海上保安庁の三者による打合せ会議。 会議の日程及び会場、会議までのスケジュール及び東京会議で提案した支援策の詳細に関する打合せ。

	年	月/日	場所	実施項目	概要
15	2010	4/9	日本	ミクロネシア海上保安 能力強化ワーキンググ ループ会合(第2回官 民共同会議)に向けた 検討会	上記の打合せに続いて、情報共有のため、SPF、NMC及び海上保安庁の三者による打合せ会議を開催。グアム会議の日程等を確認するとともに、NMCからは東京会議での議論を踏まえて支援策の内容を整理したペーパーを提出した(米豪と事前調整しグアム会議での提案のベースとなるもの)。また委託調査を実施したMOLマリンコンサルティングからは、小型艇、無線設備等に関する調査結果(途中経過)が報告された。
16	2010	4/22	豪州	豪州外務貿易省等と の打合せ	グアム会議に向け、支援策に関する豪州政府との摺り合わせを行うため、豪州を訪問し、外務貿易省をはじめとする関係者と打合せを実施。東京会議での各国からの意見等を踏まえて整理した「支援策とその考え方」を説明し意見交換を行った。
17	2010	5/12	米国	米国国務省及びUSCG との打合せ	豪州に引き続き、米国ワシントンDCを訪問して、グアム会合に向けた事前摺り合わせ・ 意見交換を行った。東京会議を踏まえて整理した「支援策とその考え方」について概ね の理解を得た。
18	2010	6/2-3	(グア	ミクロネシア地域における海上保安機能強化に関する官民共同会議(第2回官民共同会議)開催	東京会議に続く2回目の官民共同会議を開催。 NMCより東京会議の議論を踏まえて整理した「支援策の考え方」(米豪に説明した内容をプレゼン用資料にしたもの)を説明。また、豪州のアドバイスにより太平洋島嶼国が参加する国際漁業機関であるFFA (Pacific Islands Forum Fisheries Agency)もオブザーバーとして出席しその取組等を発表した。会議においては、さまざまな意見が表明されたが、支援策の骨格自体は概ね支持され、11月に開催することとされた第3回官民共同会議において支援策を再度議論し承認・決定することで合意した。また、第3回会議までの間に支援策の可能性調査を実施するために技術専門家を派遣すること、FFAからの申し出により7月に関係者による調整会議をFFA本部のあるソロモン諸島で開催することも合意された。なお、第1回の東京会議がミクロネシア3国からは大臣クラスが出席した会議(日本財団笹川会長も出席)だったのに対して、グアム会議は「第2回官民共同会議」ではあるものの、実務専門家会合との位置づけ。
19	2010	7/1		NMC所長交代(磯野→中村)	
20	2010	7/20- 21	ソロモン		FFAは太平洋島嶼国の多くが加盟する漁業関連の国際機関であり、太平洋諸国海域(各国EEZ内、公海上についてはWCPFC(Western and Central Pacific Fisheries Commission、中西部太平洋まぐろ類委員会)が別途管轄)の漁業関連情報(各国海域内で操業する漁船のVMSデータ等)を保有・管理するとともに、MCS(Monitoring, Control and Surveillance)強化のためにRegional Centerを設置する構想を独自に持っていた。グアム会議において、FFAからこの会議の開催の申し出があり、本プロジェクトにおける地域調整センター設置に当たっては、FFAとの連携・調整が重要になるものと考えられたことから、FFAの事務局があるソロモン諸島の首都ホニアラに関係者が集まり会議が開催されることとなった。(ミクロネシア3国の他、ホニアラ駐在の豪アドバイザーも出席。)会議においては、NMCより、想定される地域調整センターの機能等についてプレゼンを行うとともに、FFAより、FFAのMSC戦略や事務局に設置されているRFSC(Regional Fisheries Surveillance Center、加盟国海域内のVMSデータ等漁業関連情報を一元的に集約し監視しているセンター。ただし専属要員は2名のみ。)の機能等について説明が行われ、RFSCの見学も行った。本プロジェクトで設置予定の地域調整センターの機能等について意見交換を行った。
21	2010	8/1		山川、本件プロジェクト 実施担当としてJAMS 本部に現役出向(研究 休職)。SPFアドバイ ザーも兼務。	海上保安庁の山川が、海上保安庁を研究休職し、日本海難防止協会(JAMS)へ調査役として現役出向。SPFアドバイザーも兼務。本プロジェクトの実施担当者となる。
22	2010	9/6-8	FSM ROP	実務専門家による追加 調査・現地打合せ (FSM,ROP)	グアム会議での合意に基づき、第3回官民共同会議に向けて、各支援策の実施可能性等の詳細について確認・協議するため、山川・NMC(中村、有川)及びSPF塩澤氏の4名でFSM及びROPを訪問。 再度、海上保安機関の船艇基地及びPatrol Boatの現状確認を行うとともに、各関係者との打合せにおいて、小型艇のサイズ及び使用用途、無線設備の現状、VMSデータ等の共有状況等について確認と意見交換を行った。なお、FSMIにおいて面談予定であった警察長官のPius氏がミーティング当日の朝に倒れて後日逝去。前日に空港で偶然会い、一緒に船艇基地を訪問したのが最後となった。このあと、引き続いて、RMIを訪問すべく日程調整に努めたが、海上保安機関の責任者(Thomas Heine)がPatrol Boatドック入りのために船艇とともにRMIを離れたため調整が難航。ドック入りしている豪州を訪問しての打合せも検討し、いったんは日程セットに成功するも先方の予定変更によりそれも実現せず、結局メールによる事実の確認をすることとなった。
23	2010	9/6	米国 (グア ム)	SPF茶野常務とFSMイ ティマイ大臣との会談	地域調整センターの設置場所に関して打合せを行った。イティマイ大臣は、2008年ミクロネシア大統領サミットの共同コミュニケに盛り込まれた文言に基づき「事務局(=調整センター)はFSMに設置されるもの」と理解している旨、主張。

	年	月/日	場所	実施項目	概要
24	2010	9/10		SPF茶野常務とROPギ ボンズ大臣との会談	上記と同様の話をROPのギボンズ法務大臣とも打合せした。 地域調整センターをROPに設置することを基本的に了承した。
25	2010	10/7-8		パラオ会議に向けた米 国国務省・USCGとの 打合せ	SPFの羽生会長がSPF世古氏とともにワシントンDCの米国国務省及びUSCG本部を訪問し、11月のパラオ会議の内容や事前に用意したROD原案について説明し意見交換した。
26	2010	10/14		第3回官民共同会議 (パラオ会議)に向けた 豪州外務貿易省との 打合せ(茶野常務)	上記米国訪問と同様、パラオ会議のROD原案を事前に説明するため、SPF茶野常務が世古氏とともに豪州を訪問し、外務貿易省、国防省等の関係者と意見交換を行った。
27	2010	10/20	日本	海上保安庁国際·危機 管理官への説明	山川が、海上保安庁国際・危機管理官へ、米国国務省と豪州外務貿易省の打合せ結果の報告を行った。
28	2010	10/20	日本	外務省大洋州課への 説明	山川が、外務省大洋州課へ、米国国務省と豪州外務貿易省の打合せ結果の報告を 行った。
29	2010	11/4	日本	海上保安庁総務部長 への説明	山川が、内波海上保安庁総務部長(同席:小瀬、本山、山田)へ「プロジェクトの進捗状 況及び今後の予定、11月パラオ会議への準備状況」の報告を行った。
30	2010	11/11	DOD	ミクロネシア地域における海上保安機能強化に関する官民共同会議「第3回官民共同会議(パラオ会議)」開催	日本側が行う支援策について関係者間での基本的な合意を得るべく第3回官民共同会議がパラオで開催され、ミクロネシア3国からは担当大臣が出席するとともに、日本財団笹川会長も出席。 支援策の概要についてNMCより説明し議論を行ったところ、小型艇の大きさについては各国より(提案の30フィート級ではなく)より大きな船艇を、との意見が出たため、その点については引き続き協議することとなったが、支援策の項目及び内容については原則的な合意が得られた。 会議終了後に会議録(ROD)に各代表団の代表が署名を行う署名式が行われた。
31	2010	11/13- 19	RMI	実務専門家による追加 調査・現地打合せ (RMI)	RMIについては、パラオ会議に先立って訪問することができなかったため、パラオ会議終了後、山川、SPF塩澤及びNMC中村の3名がRMIを訪問。海上保安機関担当者との意見交換、基地視察の他、Patrol Boatに同乗してマジュロ環礁内から外洋にも出て、周辺海域の実態についても視察を行った。
32	2011	1/10	日本	USCG 14管区レイ司令 官のSPF訪問	USCG14管区本部(在ハワイ、太平洋地域を管轄)司令官のRay少将が、Coster極東部司令等とともにSPF羽生会長を表敬訪問。本プロジェクトの推進について意見交換を行った。(山川及びNMC2名も同席)
33	2011	1/12	日本	国内4者会議の事前打 合せ	山川・NMC(中村、有川)、海野常務理事・杉浦氏により「今後の実施方針 等の情報共有・意見交換、国内関係機関会議を前にしての検討」を行った。
34	2011	1/12	日本	国内関係4者(NF、 SPF、JAMS、JCG)に よる会議(国内4機関 会議)	本件プロジェクトが2011年度から本格的な実施段階に入ることに伴い、日本側の実施体制を整理するために日本財団(NF)、笹川平和財団(SPF)、日本海難防止協会(JAMS)及び海上保安庁(JCG)の四者による会議を開催。会議では、本プロジェクトの経緯及び現在の進捗状況が報告され、今後の実施については日本海難防止協会とNMCが主に担当していくこととされた。本プロジェクトの進捗状況を把握するとともに国内4機関の情報共有を図るため「国内委員会(委員長:羽生SPF会長)」が設置されることとなった。
35	2011	1/13		海上保安庁総務部長 へのプロジェクト進捗 の説明	山川が、海上保安庁内波総務部長へ「プロジェクト進捗」に関して説明を行った。
36	2011	2/22- 25	家州	豪州関係省庁との意 見交換(外務貿易省、 国防省、税関・国境警 備局)	山川・NMC(中村・有川)が、本件プロジェクトのこれまでの経緯、2011年度のスケジュール等今後の進め方等を説明し意見交換を行うため、豪州を訪問し、外務貿易省、国防省及び税関・国境警備局の担当者と会談。全ての関係者から好意的な反応を得ることができた。(SPF早川氏も参加)
37	2011	4/1		NMC所長代理交代(有 川→酒井)。 山川、SPFアドバイ ザーを解除	
38	2011	4/6	日本	SPF羽生会長との打 合せ	山川が、SPF羽生会長とプロジェクトに関して打合せを行った。
39	2011	4/20	日本	SPF羽生会長との打 合せ	山川が、SPF羽生会長とプロジェクトに関して打合せを行った。
40	2011	4/22	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・中村経理部長が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)と「本プロジェクトの進展状況及び2011年度予算(内容変更)」に関して打合せを行った。
41	2011	5/12	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・NMC(中村・酒井)が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)に「プロジェクトの 進展状況及び今後の実施予定」の説明を行った。

	年	月/日	場所	実施項目	程稱· 关模 概要
42	2011	5/13	日本	海上保安庁総務部長 へのプロジェクト進捗 の説明	山川・NMC(中村・酒井)が、内波海上保安庁総務部長(同席:小瀬、有馬)に「プロジェクトの進展状況及び今後の実施予定」の説明を行った。
43	2011	5/17	日本	SPF羽生会長との打 合せ	山川が、SPF羽生会長とプロジェクトに関して打合せを行った。
44	2011	6/3	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・中村経理部長が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)と「経費の流れ等」について打合せを行った。
45	2011	6/5-11	米国 (ホノル ル) RMI	USCG 14管区等との意 見交換及びRMIとの支 援策詳細の調整	山川・NMC(中村・酒井)が、ハワイのUSCG第14管区を訪問し、レイ司令官を表敬訪問するとともに、14管区の部長クラスをはじめとする米国関係者とミーティングを実施。パラオ会議を踏まえて内部で検討した一部の支援策の具体的内容(小型艇のサイズ・装備品、燃料・メンテナンスの支援等)について、情報共有を行うとともに意見交換を行った。 続いてRMIを訪問し、ワセ法務大臣他のRMI関係者と支援策の具体的内容について意見交換を実施。その内容について基本的に合意した。この他に、豪州MSAとも意見交換を行うとともに、現地日本大使館、MIMRA及び外務省を訪問。(SPF早川氏も参加)
46	2011	6/15		高橋 JAMS本部で勤 務開始	海上保安庁OGである高橋が、山川調査役のアシスタントとしてJAMSで勤務開始(嘱託職員)
47	2011	6/21- 29		FSM及びROPとの支援 策詳細の調整	山川・NMC(中村・酒井)が、RMIに続いて、FSMとROPをそれぞれ訪問し、支援策の具体的内容について意見交換を実施。 FSMにおいては、イティマイ運輸・通信・インフラ大臣以下の政府関係者と、ROPにおいてはギボンス法務大臣以下の政府関係者と意見交換を行い、それぞれ支援策の内容について基本的に合意した。また、それぞれの豪州MSAとも意見交換を行い有益な情報を得た。さらに、両国の現地日本大使を表敬訪問するとともに、大使館関係者と情報交換を実施した。(SPF早川氏も参加)
48	2011	6/30	日本	海上保安庁総務部長 へのプロジェクト進捗 の説明	山川が、内波海上保安庁総務部長に「プロジェクトの進展状況及び今後の実施予定の 説明」を行った
49	2011	7/12	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・高橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)に「プロジェクトの進展状況及び 今後の予定等」の説明を行った。
50	2011	7/19	日本	SPF羽生会長との打 合せ	山川・高橋・NMC(中村、酒井)が、SPF羽生会長に「プロジェクトの出張報告及び今後の予定等」の説明を行った。
51	2011	8/10	日本	駐日パラオ共和国大 使館への説明	山川・髙橋が、駐日パラオ共和国大使館を訪問し、ピーター・アデルバイ公使参事官に、プロジェクトの概要説明を行った。(大使は帰国中)
52	2011	8/13- 17	ソロ モン (ホニア ラ)	燃料支援を行うJoint Operationに関するFFA との意見交換	山川・NMC(中村・酒井)でソロモン諸島のホニアラを訪問し、支援策のひとつに盛り込まれている「Joint Operationに参加するミクロネシア3国船艇への燃料支援」に関し、Joint Operationの調整を実施しているFFA(Pacific Islands Forum Fisheries Agency)を訪問し、Joint Operationに関する情報を収集するとともに、燃料支援の方法等について意見交換を行った。また、地域調整センターに関しても意見交換を実施。FFA事務局に併設されているRFSC(Regional Fisheries Surveillance Center、加盟国海域内のVMSデータ等漁業関連情報を一元的に集約し監視しているセンター)を見る。同センターは、順調に稼動している由であり、以前とは異なり「Sub-regional Center的なものは不要」である旨の見解が示された。
53	2011	8/24	日本	SPF羽生会長との打 合せ	山川・高橋が、SPF羽生会長に「国内委員会の開催(案)の説明及びFFA出張報告等」を行った。
54	2011	9/13	日本	USCGフォースランド氏 への説明	USCGのフォースランド氏(国際部 海上保安能力向上支援官)及び三盃氏(運輸政策研究機構 在ワシントン研究室 調査役:海保から出向)がJAMSを訪問し、山川より、プロジェクトの概要説明を行った。高橋同席。
55	2011	9/15	日本	海上保安庁総務部長 へのプロジェクト進捗 の説明	山川・髙橋が、内波海上保安庁総務部長に「国内委員会(第一回)の配布資料の説明及びプロジェクト進捗状況の説明」等を行った
56	2011	9/20	日本	SPF羽生会長との打 合せ	山川・高橋が、SPF羽生会長に「国内委員会の説明」等を行った。
57	2011	9/21	日本	第1回国内委員会の開 催(国内関係4者(NF、 SPF、JAMS、JCG))	1月に開催した国内4機関会議での合意に基づき、同会議以降に実施したミクロネシア3国等との調整などプロジェクトの進捗状況を関係者に報告するとともに、今後の進め方を協議するため第1回国内委員会を開催。まずは、小型艇の供与、メンテナンス及び燃料の支援、通信施設・機器の供与(パラオに関しては非常用発電機も)を第1フェーズとして先行して実施することを確認。さらに、小型艇の最初の供与国をミクロネシア連邦とすることを確認するとともに、今後年内をメドに各国とこれらの支援内容を明記した覚書(MOU)を締結した上で小型艇等の発注を行い、来年のしかるべき時期に供与するスケジュールで進めることを了承。(パラオ会議において合意されたその他の支援項目については、第2フェーズと位置づけ第1フェーズの供与完了後に対応することとされた。)

	年	月/日	場所		概要
58	2011	10/24	日本	駐日マーシャル諸島共 和国大使館への説明	山川・髙橋が、駐日マーシャル諸島共和国大使館を訪問し、ジャケオ・レラング公使参 事官(臨時代理大使)にプロジェクトの概要説明を行った。
59	2011	10/26		駐日ミクロネシア連邦 大使館への説明	山川・髙橋が、駐日ミクロネシア連邦大使館を訪問し、フリッツ大使にプロジェクトの概要 説明を行った。
60	2011	11/9	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・中村経理部長・高橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)と「現状報告及び事業助成申請等」に関する打合せを行った。
61	2011	11/10	日本	SPF羽生会長との打 合せ	山川・高橋が、SPF羽生会長に「現状及び今後の予定」の報告を行った。
62	2011	11/15	日本	日本財団への助成申 請	「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援事業」(2011年11月〜2013年3月の2か年事業)として、日本財団へ助成申請(2011年度緊急助成申請)を行った。
63	2011	12/18	日本	オーストラリア戦略政 策研究所・ベルギン博 士等との打合せ	山川・高橋が、来日中のアンソニー・ベルギン博士(ASPI研究統括部長)とサム・ベータマン博士(ウロンゴン大学教授)との意見交換を行った。 (両氏は、豪州のPPBプログラム等に詳しく、ASPIの機関誌に多くの論文を掲載している者)
64	2011	12/20	日本	SPF羽生会長との打 合せ	山川・高橋が、SPF羽生会長に「現状報告」を行った。
65	2011	12/21- 23	ROP	ROPとの支援策詳細 の調整	10月中にMOU案を作成し、ミクロネシア各国に送付して検討を依頼し、年内に3国を順次回ってMOUに署名することを計画したものの、各国の対応及び日程の調整がうまくいかず。 12月に入りROPのみ日程調整ができたことから、NMC(中村、酒井)がROPを訪問してMOU案の内容について協議するとともに、その他の支援策(小型艇を吊り上げるクレーン車など)についても意見交換を行い、MOUの内容について双方合意。さらに、現地の燃料供給会社を訪問し、燃料支援の具体的な方法などについて意見交換。(MOUの調印については、後日郵送により行い2012年2月16日付けのギボンス法務大臣の署名をもって完了。)
66	2011	12/26	日本	海上保安庁総務部長 への説明	山川・高橋が、海上保安庁内波海上保安庁総務部長へ「現状報告」を行った。
67	2012	1/5		2011年 ミクロネシア3 国の海上保安能力強 化支援事業にかかる 日本財団への助成金 申請の承認	2011年11月〜2013年3月(2か年事業)の事業として、日本財団へ緊急助成金申請を行っていたものについて、承認された。
68	2012	1/5		入札公示:「通信設備 改善工事及非常用発 電機設置工事」	「通信設備改善工事及非常用発電機設置工事」について入札公示を行った。
69	2012	1/11		入札公示:「小型艇3隻 購入及び保守」	「小型艇3隻購入及び保守」について入札公示を行った。
70	2012	1/13	日本	海上保安庁長官へプロジェクト進捗の説明	山川・高橋が、鈴木海上保安庁長官(同席:国際・危機管理官、有馬・渉外官)へプロジェクトの進捗状況の説明を行った。
71	2012	1/19	RMI	RMIとのMOU締結	RMIのハイネ法務大臣とJAMS松浦理事長との間で、支援策の内容に関するMOUを 締結した。
72	2012	1/20	日本	海上保安庁総務部長 へのプロジェクト進捗 の説明	山川・高橋が、岸本海上保安庁総務部長(新)(同席:国際・危機管理官、有馬・渉外官) ヘプロジェクトの進捗状況の説明を行った。
73	2012	1/25		入札:「通信設備改善 工事及非常用発電機 設置工事」	「通信設備改善工事及非常用発電機設置工事」について入札を行った。落札業者:「古野電気株式会社」
74	2012	1/30		入札:「小型艇3隻購入 及び保守」	「小型艇4隻購入及び保守」について入札を行った。落札業者:「南洋貿易株式会社」
75	20121	1/24- 29	FSM	FSMとの支援策詳細の 調整	山川・高橋・NMC(中村、酒井)の4名でFSMを訪問。事前の調整によりMOUの内容については合意できていたため、MOUの調印式を実施(1月26日)。FSM政府が他国の政府以外のNGOとMOUを締結するのは今回が初めてとのこと。この他、引渡式の開催形式、燃料支援の具体的方法などについて政府関係者と意見交換。さらには、現地の燃料供給会社を訪問し、燃料支援の具体的な方法などについて意見交換するとともに、引渡式の開催に向けてポンペイ内ホテルの調査などを実施。南洋貿易米田氏等とも意見交換。
76	2012	1/26	FSM	FSMのMOU締結	FSMのイティマイ運輸通信インフラ大臣とJAMS松浦理事長との間で、支援策の内容の合意に関するMOUを締結した。
77	2012	2/3	日本	日本財団海野常務理事との打合せ	山川・高橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)とプロジェクトに関して打合せを 行った。
78	2012	2/7	日本	外務省大洋州課への 進捗報告	山川髙橋が、外務省大洋州課を訪問し、羽田地域調整官(同席:新谷外務事務官)へプロジェクトの進捗状況の報告を行った。

	年	月/日	場所	実施項目	概要
79	2012	2/13	日本	駐日ミクロネシア連邦 大使館への説明	山川・髙橋が、駐日ミクロネシア連邦大使館を訪問し、「MOUの締結等、プロジェクトの 進捗状況や今後のスケジュール等」について説明を行った。
80	2012	2/16		ROPとのMOU締結	ROPのギボンス法務大臣とJAMS松浦理事長との間で、支援策の内容に関するMOUを締結した。
81	2012	2/24		太平洋諸島地域研究 所(JAIPAS)小林理事 への説明	山川・髙橋が、太平洋諸島地域研究所(JAIPAS)を訪問し、小林泉氏(社団法人太平洋諸島地域研究所理事/大阪学院大学国際学部教授)にプロジェクトの説明を行った。同席:NBK米田
82	2012	2/29	日本	駐日パラオ共和国大 使館への説明	山川・髙橋が、駐日パラオ共和国大使館を訪問し、「MOUの締結等、プロジェクトの進捗状況や今後のスケジュール等」について説明を行った。
83	2012	3/8	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・高橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)とプロジェクトに関して打合せを 行った。
84	2012	3/17- 23	ル	RMIとの支援策詳細の 調整及びUSCG 14管 区等との意見交換	山川・髙橋・NMC(中村・酒井)の4名でRMIを訪問し、燃料供給方法の詳細、小型艇引渡式の開催などについて協議・意見交換。なお、RMIとのMOUについては、事前の調整で合意の上日本側で署名し郵送したMOUにRMI側の署名(1月19日付け)を得ていたため、今回の出張で正本一部を持ち帰った。さらに、ミクロネシア3国とMOUを締結できたことを踏まえて、ハワイのUSCG14管区等米国側関係者との間で進捗状況の情報共有を行うとともに意見交換を行った。
85	2012	4/5	日本	SPF羽生会長との打 合せ	山川・高橋が、SPF羽生会長とプロジェクトに関して打合せを行った。
86	2012	4/25		「ミクロネシア3国の海 上保安職員招へい研 修」業務委託契約	「2012年度 ミクロネシア3国の海上保安職員招へい研修」の業務委託に関して、見積り合わせを行った。落札業者:㈱ビーズ
87	2012	5/1		山川が日本海難防止 協会に採用	山川が、日本海難防止協会に嘱託職員として採用される。
88	2012	5/9	日本	駐日パラオ共和国大 使館への説明	山川・髙橋が、駐日パラオ共和国大使館を訪問し、本国への帰国等で会うことができなかったウエキ大使と初めて会うことができ、プロジェクトの概要説明や、「観閲式」への参加の案内等を行った。
89	2012	5/17- 18	日本	小型艇「FSS Unity」(F SM)完成検査 海上 試運転	山川・高橋がヤンマー造船大分工場に出張し、完成したFSM向け小型艇「FSS Unity」の完成検査及び海上試験を行うと共に、製造中のROP向け小型艇「KABEKEL M'TAL」の状況を確認した。
90	2012	5/22	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・高橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)と、「国内委員会の事前説明、引渡式(ROP)等」に関する打合せを行った。
91	2012	5/24	日本	SPF羽生会長との打 合せ	山川・高橋が、SPF羽生会長と「国内委員会(第2回)」に関して打合せを行った。
92	2012	5/25	-	第2回国内委員会の開 催(国内関係4者(NF、 SPF、JAMS、JCG))	第2回国内委員会を開催。ミクロネシア3国とのMOU締結、小型艇等の発注などこれまでの進捗状況を報告するとともに、招聘研修や引渡式など今後のスケジュールについて了承を得た。
93	2012	6/1- 6/7	日本	「ミクロネシア3国の海 上保安職員招へい研 修」実施	ミクロネシア3国の海上保安機関の職員(小型艇にも乗り組むことが想定される船長・機関長クラスの職員)各国2名(計6名)を日本へ招へいし、日本財団・海上保安庁・JAMSへの表敬訪問、海上保安庁からの業務説明聴取、施設(本庁運用司令センター及び横浜資料館(北朝鮮工作船))見学を行った。また、「観閲式並びに総合訓練」を見学するとともに、小型艇を製造しているヤンマー造船大分工場を訪問し、工場での製作状況を確認した。NMC2名が大分での工場見学を含め全行程に同行した。
94	2012	6/2	横浜	FSMへの小型艇「FSS Unity」の船積み	横浜大黒ふ頭にて、FSMへの小型艇の船積みを行った。
95	2012	6/18		入札公示:「供与小型 艇等への燃料供与業 務委託(ミクロネシア)」	「供与小型艇等への燃料供与業務委託(ミクロネシア)」について入札公示を行った。
96	2012	6/17- 22	FSM	FSMへの小型艇到着 の確認等	FSM・ポンペイにおいて小型艇(FSS Unity)が到着したため、NMC(中村・酒井)が現地を訪問し、同艇及び備品・交換部品並びに通信施設・機器(HFアンテナ等)資材の現地到着(6月19日)を確認した。また、南洋貿易・ヤンマー及び古野電気による小型艇の初期作業(関連部品の取付・試運転、操作・メンテナンスの指導)を確認の上、同国のMaritime Wingに引渡を行った。
97	2012	6/20	FSM	FSM政府へ小型艇 「FSS Unity」の引渡し	FSM政府へ小型艇「FSS Unity」の引渡しを行った。
98	2012	7/2		入札:「供与小型艇等 への燃料供与業務委 託(ミクロネシア)」	「供与小型艇等への燃料供与業務委託(ミクロネシア)」について入札を行った。落札業者:南洋貿易株式会社

	年	月/日	場所	実施項目	概要
100	2012	7/11		「引渡式業務(ミクロネシア)」業務委託契約	「引渡式業務(ミクロネシア)」に関して、業務委託契約を締結した。委託業者:南洋貿易株式会社
101	2012	7/12- 13	日本	小型艇「KABEKEL M' TAL」(ROP)完成検査 海上試運転	山川・高橋がヤンマー造船大分工場に出張し、完成したROP向け小型艇「KABEKEL M'TAL」の完成検査及び海上試験を行うと共に、製造中のRMI向け小型艇RMIS LOMOR II 」の状況を確認した。
102	2012	7/19	日本	SPF羽生会長との打 合せ	山川・高橋が、SPF羽生会長と「FSMでの引渡式」に関して打合せを行った。
103	2012	7/20		入札公示:「供与小型 艇等への燃料供与業 務委託(パラオ)」	「供与小型艇等への燃料供与業務委託(パラオ)」について入札公示を行った。
104	2012	7/22- 27	米国	SPF羽生会長による地 域調整センター等に関 する米国政府関係者と の意見交換	羽生SPF会長が米国ワシントンDCを訪問し、国務省等の関係者と「地域調整センター」 等プロジェクトの今後の進め方について意見交換を行った。
105	2012	7/21- 25	FSM	FSMでの「引渡式」開 催に関する事前調整	8月に行われるFSMでの引渡式開催に向けて、NMC(中村・酒井)がFSMを訪問し、政府 関係者と式典の式次第等に関して打合せを実施。無線アンテナの工事状況についても 確認。
106	2012	7/23	日本	ROPへの小型艇 「KABEKEL M'TAL」の 船積み	横浜大黒ふ頭にて、FSMへの小型艇の船積みを行った。山川・髙橋が立会った。
107	2012	7/25	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・高橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)と「FSMでの引渡式」に関して打合せを行った。
108	2012	8/2	日本	日本財団杉浦氏との 打合せ	山川・松本経理部長・高橋が、予算費目に関する相談のため、日本財団杉浦氏と打合 せを行った。
109	2012	8/3		入札:「供与小型艇等 への燃料供与業務委 託(パラオ)」	「供与小型艇等への燃料供与業務委託(パラオ)」について入札を行った。落札業者:南 洋貿易株式会社
110	2012	8/7–11	ROP	ROPへの小型艇到着 の確認	ROP向け小型艇「KABEKEL M' TAL」のコロール到着(8月6日)に合わせてNMC(中村・酒井)がROPを訪問し、小型艇及び備品・交換部品並びに通信施設・機器(HFアンテナ等)資材の現地到着を確認するとともに、南洋貿易・ヤンマー及び古野電気による小型艇の初期作業(関連部品の取付・試運転、操作・メンテナンスの指導)を確認の上、同国のDivision of Marine Law Enforcementに引渡しを行った。また、10月の引渡式開催に向けた最終確認のためROP政府関係者と打合せを行った。
111	2012	8/10	ROP	ROP政府へ小型艇 「KABEKEL M'TAL」の 引渡し	ROP政府へ小型艇「KABEKEL M'TAL」の引渡しを行った。
112	2012	8/17	FSM	FSMにおいて小型艇等 の「引渡式」を開催	アッシャー法務大臣代理、イティマイ運輸・通信・インフラ大臣他FSM政府関係者並びに日本財団尾形理事長、海野常務理事、SPF羽生会長、JAMS中畑理事長、鈴木駐FSM大使及び海上保安庁高橋国際・危機管理官等の参加の下、FSM海上警察(Maritime Wing)敷地内の岸壁において、小型艇「FSS Unity」及び通信施設の引渡式を行い、同日夕にレセプションを開催した。(モリ大統領は不在、副大統領は前日の表敬訪問には対応したものの式典には出席できず。)
113	2012	8/20- 24		FSM及びROPでの通 信施設の完成検査	FSMでの引渡式終了後、山川・高橋によりFSMに設置した通信施設の完成検査を実施。続いてROPを訪問し同じく通信施設の完成検査を行った。
114	2012	8/21	FSM	FSM政府へ通信設備 の引渡	FSM政府へ通信設備の引渡しを行った。
115	2012	8/22	ROP	ROP政府へ通信設備 の引渡	ROP政府へ通信設備の引渡しを行った。
116	2012	8/30		入札公示:「引渡式業 務(パラオ共和国)」	「引渡式業務(パラオ共和国)」について、入札公示を行った。
117	2012	9/4		入札公示:「小型艇揚 降業務委託(パラオ共 和国)」	「小型艇揚降業務委託(パラオ共和国)」について、入札公示を行った。
118	2012	9/14		入札:「引渡式業務(パ ラオ共和国)」	「引渡式業務(パラオ共和国)」について、入札を行った。落札業者:南洋貿易株式会社
119	2012	9/19		入札:「小型艇揚降業 務委託(パラオ共和 国)」	「小型艇揚降業務委託(パラオ共和国)」について、入札を行った。落札業者:南洋貿易株式会社

	年	月/日	場所	実施項目	概要
120	2012	9/20	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)と「ROPでの引渡式と来年度の事業方針等」に関して打合せを行った。
121	2012	9/20	日本	SPF羽生会長との打 合せ	山川が、SPF羽生会長と「今後の事業方針等」に関して打合せを行った。
122	2012	9/20- 21	日本	小型艇「RMIS LOMOR Ⅱ」(RMI)完成検査 海 上試運転	渡部専務理事・高橋がヤンマー造船大分工場に出張し、完成したRMI向け小型艇 「RMIS LOMOR II」の完成検査及び海上試験を行った。
123	2012	9/28- 10/2	ROP	ROP独立記念式典に おける「KABEKEL M' TAL」での警戒業務に 同乗	ROPの独立記念式典に伴う、恒例のボートレース開催時に、「KABEKEL M'TAL」が、海上での警戒業務に出動する予定であったため、山川・高橋が同乗して、運航技能等を確認した。(レースは強風等による、気象海象悪化のため、スタート直前で中止された)
124	2012	10/12	ROP	ROPにおいて小型艇等 の「引渡式」を開催	トリビオン大統領他ROP政府関係者並びに日本財団海野常務理事、JAMS中畑理事長及び貞岡駐パラオ日本大使等の参加の下、ROP海上警察(DMLE)敷地内の岸壁において、小型艇「KABEKEL M' TAL」、通信施設及び非常用発電機の引渡式を行い、同日タにレセプションを開催した。
125	2012	10/17		入札公示:「供与小型 艇等への燃料供与業 務委託(マーシャル諸 島共和国)」	「供与小型艇等への燃料供与業務委託(マーシャル諸島共和国)」について入札公示を 行った。
126	2012	10/17		入札公示:「引渡式業 務(マーシャル諸島共 和国)」	「引渡式業務(マーシャル諸島共和国)」について、入札公示を行った。
127	2012	10/17	日本	SPF羽生会長との打 合せ	山川が、SPF羽生会長と「豪州出張に関する事前打合せ」を行った。
128	2012	10/24	豪州	豪州政府関係者との 地域調整センター等に 関する意見交換	山川がSPF茶野常務とともに、キャンベラを訪問。外務省をはじめとする政府関係者に本プロジェクトの概要・進捗状況を説明するとともに「地域調整センター」など今後の支援策の進め方について意見交換を行った。
129	2012	10/30	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・高橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)と「豪州出張報告」に関して打合せを行った。
130	2012	10/31		日本財団への助成申 請	「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援事業」(2013年度事業)として、日本財団へ助成申請を行った。
131	2012	10/31		RMIへの小型艇「RMIS LOMOR II 」の船積み	横浜大黒ふ頭にて、RMIへの小型艇の船積みを行った。山川・髙橋が立ち会った。
132	2012	10/31		入札:「供与小型艇等 への燃料供与業務委 託(マーシャル諸島共 和国)」	「供与小型艇等への燃料供与業務委託(マーシャル諸島共和国)」について入札を行った。落札業者:南洋貿易株式会社
133	2012	10/31		入札:「引渡式業務 (マーシャル諸島共和 国)」	「引渡式業務(マーシャル諸島共和国)」について、入札を行った。落札業者:南洋貿易株式会社
134	2012	11/7	SIN	山川・髙橋 NMCとの 打合せ	山川・髙橋が、シンガポールのNMCを訪問し、プロジェクトに関する打合せを行った。
135	2012	11/13	日本	外務省大洋州課への 報告等	山川・髙橋が、外務省大洋州課を訪問し、三好課長補佐(同席:新谷外務事務官)に「プロジェクトの進捗状況の報告」を行った。また、FSM,ROPの引渡式の記念DVDを現地大使館に送付していただくように依頼した。
136	2012	11/16		USCG 14管区との意見 交換	山川・髙橋・NMC(中村・酒井)が、RMIでの小型艇等引渡式に向かう途上でハワイにも立ち寄り、USCG 14管区のSparks大佐(本プロジェクトに関するUSCGの窓口)及びStegman大佐と打合せを実施(ALA MOANA HOTELの会議室を貸借)。プロジェクトの進捗状況を情報共有するとともに、地域調整センターや訓練・研修の実施など今後の方向性について意見交換。
137	2012	11/21	RMI	RMI政府へ小型艇 「RMIS LOMOR II 」の 引渡し	RMI政府へ小型艇「RMIS LOMOR II 」の引渡しを行った。
138	2012	11/21	RMI	RMI政府へ通信設備の 引渡し	RMI政府へ通信設備の引渡しを行った。

	年	月/日	場所	実施項目	概要
139	2012	11/23	RMI	RMIにおいて小型艇等 の「引渡式」を開催	モモタロウ大統領代理(財務大臣)他RMI政府関係者並びにJAMS中畑理事長及び加島 駐マーシャル諸島共和国臨時代理大使等の参加の下、MIMRAのULIGA岸壁において、 小型艇「RMIS LOMORI」」及び衛星通信装置の引渡式を行い、同日タにレセプションを 開催した。(RMIでは小型艇のマジュロ到着(11月15日)に合わせて、到着確認、初期研 修、引渡式を1回の滞在期間の中で実施。)
140	2012	12/11	日本	駐日パラオ共和国大 使館への説明	山川・髙橋が、駐日パラオ共和国大使館を訪問し、「引渡式の概要報告等」を行った。
141	2012	12/18	日本	海上保安庁国際・危機 管理官補佐への説明	山川・高橋が室田海上保安庁国際・危機管理官補佐と「専門家派遣研修等」について 打合せを行った。
142	2012	12/27	日本	外務省大洋州課への 報告等	山川・髙橋が、外務省大洋州課を訪問し、3国全ての引渡式が終了したことの報告を行った。また、RMIの引渡式の記念DVD及び、ROPの引渡式の記事が掲載された、日海防情報誌「海と安全」を現地大使館に送付していただくように依頼した。
143	2012	12/27	日本	SPF羽生会長との打 合せ	山川・高橋が、SPF羽生会長を訪問し、「第1フェーズの支援施設の引渡完了」の報告を行った。
144	2013	1/15	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・高橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)に「関係者会議(1/24日)にかかる資料の説明」を行った。
145	2013	1/16	ROP	SPF羽生会長とレメン ゲサウ・パラオ新大統 領との会談	SPF羽生会長がパラオを訪問(随行はSPF小栁氏のみ)し、就任式の前日にレメンゲサウ新大統領(大統領選でトリビオン前大統領を破り通算3期目)と会談。 ①南西諸島(ハトホベイ州)への燃料タンク設置、②ポリスアカデミーにおける海上保安研修の実施、という2項目の新たな要望を受け、調査団の派遣を約束。
146	2013	1/22	日本	SPF羽生会長との打合 せ	山川・高橋が、SPF羽生会長と「1月24日の会議」の打合せを行った。
147	2013	1/24	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・高橋・NMC(中村・酒井)が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)に「関係者打合せ会議(1/24日)にかかる資料の説明等」を行った。
148	2013	1/24	SPF	国内関係者打合せ会 議(NF、SPF、JCG、 チーム・ミクロネシア)	第1フェーズの小型艇等の引渡の完了及び羽生会長のパラオ訪問(大統領との会談)を踏まえて、今後の事業方針等を確認するために国内関係者による打合せ会議を開催。この結果、第1フェーズのフォローアップ事業(専門家の派遣による研修実施含む)と第2フェーズ事業(各国の要望を踏まえた更なる支援策の検討、そのための調査団の派遣、官民合同会議の開催)の二本立てで進めることとし、地域調整センター等のパラオ会議合意事項の残余項目については先送りすることとなった。
149	2013	1/24	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・高橋・NMC(中村・酒井)が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)と「2013年度以降の事業推進体制についての打合せ」を行った。
150	2013	1/24	日本	SPF小柳氏との打合せ	山川・髙橋が、SPF小柳氏と「第2フェーズの推進体制、パラオの調査内容等」の打合せを行った。
151	2013	1/28		今後の推進体制に関し て、日本財団と笹川平 和財団間での合意	日本財団・海野常務理事とSPF羽生会長との間で、本プロジェクトの今後の推進体制を整理し合意。 これにより第1フェーズのフォローアップはJAMSで、第2フェーズの調査はSPFで推進することとし、SPF小栁氏が、SPFでの担当者として指名され、「チーム・ミクロネシア」に正式参加。
152	2013	2/1	日本	日本財団海野常務理 事がJAMS理事長を訪 問	日本財団海野常務理事が、JAMS中畑理事長を訪問し、上記に関して会談を行った。
153	2013	2/18- 23	日本	SPF小栁氏によるパラ オ訪問と事前調整	1月16日の羽生・レメンゲサウ会談を踏まえ、SPF小柳氏がパラオを訪問し、第2フェーズに関する調査団の派遣日程等に関する調整を行った。
154	2013	2/28	日本	SPF羽生会長への出 張報告	SPF小柳氏(同席:山川、高橋)のROP出張結果を羽生会長に報告。ROP側から要望を受けていた「南西諸島(トビ島・ヘレン環礁)への燃料タンク設置」については、対応不可能として第2フェーズの対象としないこととし、この旨を山川がパラオを訪問して詳細説明を行うこととなった。その他の支援策(VHFリピーター用鉄塔の再建、リピーターの追加、職員増員のための支援等)についても議論。
155	2013	3/11- 14		FSMイティマイ運輸・通 信・インフラ大臣の来 日	SPFの招聘により、本件プロジェクトのFSMの窓口を果たしてきたイティマイ運輸・通信・インフラ大臣が来日。海上保安庁長官表敬、海上保安大学校訪問の他、羽生会長主催の夕食会などの日程。SPF小栁氏が全行程随行。 羽生会長よりヤップ島の研修施設支援について前向きな発言あり。調査団の派遣を約束。 また、山川、小栁が昼食に併せてイティマイ大臣と会談し、コーディネーション・センター先送りの意向をに伝えた。
156	2013	3/27- 30	ROP	第1フェーズのフォロー アップ	NMC(中村・酒井)の2名のみでパラオを訪問。海上警察、司法省、MSA及び日本大使館の担当者と面談し、第1次フェーズのフォローアップとして小型艇の使用状況、VHFリピーターの被害状況などを確認。併せてポリスアカデミーの情報収集を行った。また、ペリリュー州知事とも面談(日本丸の件)。

	年	月/日	場所	実施項目	概要
157	2013	4/1		山川がSPF特別研究 員兼務となる(1年間)	山川が、SPFの特別研究員兼務となる。(1年間)
158	2013	4/1		2013年度 ミクロネシ ア3国の海上保安能力 強化支援事業にかか る日本財団への助成 申請の承認	2013年度の事業として、日本財団へ助成申請を行っていたものについて、承認された。
159	2013	4/1-4	ROP	ROPとの意見交換	「南西諸島への燃料タンク設置は困難である」旨をROP政府関係者に伝達するため、山川・高橋がROPを訪問。 先方の了解を得た。 Sadang大統領首席補佐官、 Roe司法長官(公安局長兼務)、大統領補佐官(Billy Kuartei氏)等と面談。
160	2013	4/10	日本	SPF羽生会長への出 張報告	山川が、SPF羽生会長に出張報告を行う(同席:茶野常務理事・深井室長、SPF小柳主 任研究員)
161	2013	4/12	日本	明	山川・髙橋が、RMI大使館を訪問し、2012年12月に新しく着任した、駐日マーシャル大使(キジナー大使)へ、プロジェクトの概要や進捗状況を説明した。
162	2013	4/17	日本	日本財団海野常務理 <u>事への報告</u>	山川・高橋が、日本財団海野常務理事にプロジェクトに関する最近の動き、今後の予定、パラオのEEZ禁漁化計画に関する報告」を行った。同席:杉浦氏
163	2013	4/23- 28	ROP	ROPへの訪問調査	山川、高橋、NMC2名(中村、酒井)、SPF小柳でROPを訪問。ポリスアカデミーでの研修など第2フェーズに位置づけられる支援項目の要望把握、第1フェーズのフォローアップ等のため、政府関係者との面談を行った。なお、NMCは、ペリリュー島を訪問し、州知事と面談するとともに日本財団が寄贈した日本丸の被害状況の確認等も実施。
164	2013	5/7	日本	SPF羽生会長への出 張報告	山川が、SPF羽生会長と「第2フェーズ支援に関するパラオ出張結果の報告と今後の対応等」について打合せを行った。同席:茶野常務理事・小栁副室長
165	2013	5/17	日本	日本財団海野常務理 事への報告	山川・髙橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)に「プロジェクトに関する最近の動き、今後の予定等の説明」を行った。
166	2013	5/31	日本	SPF羽生会長との打合 せ	山川(同席:小柳副室長)が、SPF羽生会長と「第2フェーズの支援内容」について打合せを行った。
167	2013	6/4	日本	第2フェーズ打合せ	山川・髙橋(同席: NMC白﨑新所長)と、NF海野常務・杉浦氏、SPF羽生会長、茶野常務・小栁副室長、とで「パラオ海上保安能力強化計画(第2フェーズ)」に関する打合せを行った。
168	2013	6/11- 16	FSM	ヤップ島支援内容現地 調査	山川・髙橋・NMC酒井・SPF小栁でヤップ島を訪問。イティマイ運輸通信インフラ大臣の 案内のもと、研修訓練に関する支援の可能性について調査するため漁業海事専門学 校(FMI)との意見交換を行った。
169	2013	6/20	日本	SPF羽生会長への出 張報告	山川・髙橋・SPF小栁副室長より、SPF羽生会長へ「ヤップ出張の出張報告」を行った。
170	2013	6/28		入札公告:「専門家派 遣研修業務委託(ミク ロネシア連邦)」	「専門家派遣研修業務委託(ミクロネシア連邦)」に関して入札公示を行った。
171	2013	7/1		NMC所長交代(中村→ 白崎)	
172	2013	7/3	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・髙橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)と「ROP大統領府への説明内容」 に関する打合せ行った。
173	2013	7/3	日本	SPF羽生会長との打合 せ	山川・髙橋が、SPF羽生会長に「ROP大統領等への説明内容」に関する打合せを行った。
174	2013	7/10	日本	日本財団監査	2012年度事業の監査
175	2013	7/6-10	ROP	パラオとの意見交換	山川・高橋が、パラオへの第2フェーズの支援項目の基本合意をするために、ROP大統領等と会合を行った。
176	2013	7/16		入札:「専門家派遣研 修業務委託(ミクロネシ ア連邦)」	「専門家派遣研修業務委託(ミクロネシア連邦)」の入札を行った。 落札業者:南洋貿易株式会社
177	2013	7/17	日本	海上保安渉外官への 報告	山川・髙橋が、榎本海上保安渉外官(新)と馬渕補佐に「プロジェクトの進捗状況報告」 を行った。
178	2013	7/17	日本	山川とSPF小柳氏の打 会せ	山川・高橋とSPF小柳氏が、打合せを行った。
179	2013	7/22	日本	SPF羽生会長との打合 せ	山川・髙橋・小栁副室長が、SPF羽生会長へ「パラオ出張の結果報告等」を行った。
180	2013		日本	外務省大洋州課への 進捗報告	山川・髙橋が、外務省大洋州課、三好地域調整官(同席:新谷外務事務官)へ「プロジェクトの進捗報告」を行った。
181	2013	7/29- 8/2	FSM	「FSS Unity」の納入1 年後の定期整備	「FSS Unity」の納入1年後の定期整備を行った。 対応業者:南洋貿易株式会社
182	2012	7/30- 8/9	FSM	「FSS Unity」の納入1 年後の定期整備 (FSM)立会	山川・高橋・白崎・酒井により、FSMを訪問し、定期整備の実施状況を調査することとした。法務大臣、在ミクロネシア日本大使、米国大使、豪州大使との打合せを行った。また、山川・高橋により、追加支援の可能性の調査を行うため、チューク州を訪問し現地調査を行った。

	年	月/日	場所	実施項目	概要
183	2013	8/6- 8/7	FSM	専門家派遣研修(ミクロネシア連邦)実施	FSMにて、操船研修(専門家派遣研修)を実施した
184	2013	8/12	日本	新・在パラオ日本国大 使(田尻大使)への説 明	新・在パラオ日本大使(田尻大使)の赴任前に山川・髙橋が外務省を訪問し、プロジェクトの説明を行った。
185	2013	8/13	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・髙橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)と「FSM出張報告及びパラオ第2フェーズ(調印式等)」に関する打合せを行った。
186	2013	8/21	日本	SPF羽生会長との打合 せ	山川が、SPF羽生会長と「FSM出張報告及びパラオ第2フェーズ(調印式等)」に関して 打合せを行った。
187	2013	9/4	日本	日本財団・杉浦氏との 打合せ	山川・髙橋が、日本財団・杉浦氏と「調印式等の今後の対応」に関して打合せを行った。
188	2013	9/24	日本	日本財団・杉浦氏との 打合せ	山川・髙橋が、日本財団・杉浦氏と「調印式等」に関して打合せを行った。
189	2013	9/11- 19	ROP	「KABEKEL M'TAL」の 納入1年後の定期整備	「KABEKEL M'TAL」の納入1年後の定期整備を行った。 対応業者: 南洋貿易株式会社
190	2013	9/28- 10/7	ROP FSM	ROP、FSM訪問	山川が、調印式の日程調整等のため、ROP大統領と会合。 また、ROPでの独立記念式典等に参加。 FSMでは、釣りトーナメント開催時の「FSS Unity」による警戒業務に同乗。
191	2013	10/11	日本	日本財団海野常務理	山川・髙橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)と「ROP,FSM出張報告及び調印
192	2013	10/11	日本	事との打合せ SPF深井室長との打合 せ	式等に関する打合せ」を行った。 山川・髙橋が、SPF深井室長(同席:小柳副室長)と「今年度のSPFミクロネシア事業の 実施に関する打合せ」を行った。
193	2013	10/22	日本	SPF小柳氏との打合せ	山川・髙橋が、SPF小柳副室長と「今年度のSPFミクロネシア事業(ROPの研修)等に関する打合せ」を行った。
194	2013	10/26	日本	RMI法務大臣の来日歓 迎夕食会で意見交換	高橋が、来日中のRMIハイネ法務大臣の歓迎夕食会へ参加し、意見交換を行った。
195	2013	10/30	日本	SPF羽生会長との打合 せ	山川・髙橋が、SPF羽生会長(同席:小栁副室長)と「調印式、及び第2フェーズの人材育成の具体化等に関する打合せ」を行った。
196	2013	10/31		日本財団への助成申 請	「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援事業」(2014-2016年度事業)として、日本財団へ助成申請を行った。
197	2013	11/1	日本	日本とミクロネシア連 邦 国交25周年記念レ セプション	都内で、「日本とミクロネシア連邦 国交樹立25周年記念式典」が開催され、レセプションに、JAMS中畑理事長・山川・髙橋が参加した。
198	2013	11/1	日本	駐日パラオ大使との打 合せ	山川・高橋が駐日ROP大使館を訪問し、新しく着任した駐日パラオ大使への挨拶と、調印式の説明をした。
199	2013	11/5	日本	海上保安渉外官への 説明	山川・髙橋が、榎本海上保安庁渉外官(同席:馬渕補佐)に「調印式への協力願い」に ついて説明を行った。
200	2013	11/6	日本	日本財団・杉浦氏との 打合せ	山川・髙橋が、日本財団・杉浦氏と「調印式」に関して打合せを行った。
201	2013	11/18	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・髙橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)と「調印式に関する打合せ」を 行った。
202	2013	11/19- 24	ROP	ROP訪問	山川・高橋・白崎・酒井が、調印式の詳細について、ROP国務大臣と打合せを行った。また、公安局長と人材育成関連等の打合せを行った。 駐パラオ日本大使、コロール州リサイクルセンター藤氏、スマイルエア稲垣氏を訪問し、 打合せを行った。
203	2013	11/27	日本	SPF羽生会長との打合 せ	山川・髙橋・SPF小柳副室長が、SPF羽生会長へ「パラオの出張報告(第2フェーズの人材育成関係)、調印式に関する打合せ」を行った。
204	2013	11/30- 12/4	日本	ROP大統領、第2 フェーズの調印式のた め来日	ROPのレメンゲサウ大統領ほか4名が、プロジェクトの第2フェーズの調印式のため来日。笹川会長との会談のほか、総理大臣表敬等を行った。
205	2013	12/1		日本財団への助成申 請(第2フェーズ)	「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援事業(第2フェーズ)」(2013年12月~2015年3月の2か年事業)として、日本財団へ助成申請(2013年度緊急助成申請)を行った。
206	2013	12/2	日本	ROPに対する第2 フェーズの調印式	ROPに対する第2フェーズの調印式を実施。レメンゲサウ大統領と笹川会長が調印文書に署名した。
207	2013	12/4-6	FSM	「FSS Unity」のクラッチ 板不調による修理	「FSS Unity」のクラッチ板不調による修理を行った。 対応業者:南洋貿易株式会社
208	2013	12/7- 16	RMI	「RMIS LOMOR II」の 納入1年後の定期整備	「RMIS LOMOR II 」の納入1年後の定期整備を行った。 対応業者: 南洋貿易株式会社

	年	月/日	場所	実施項目	概要
209	2013	12/10- 17	RMI	「RMIS LOMOR II」の 納入1年後の定期整備 立会等のためRMIを訪 問	山川・高橋・白崎・酒井が、納入1年後の定期整備立会等のためRMIを訪問した。滞在中、法務大臣、駐日マーシャル日本大使館、MJCCを訪問し打合せを行った。
210	2013	12/18	日本	駐日パラオ大使館訪 問	山川・髙橋が、駐日パラオ大使館を訪問し、大使とプロジェクトの進捗状況に関する打合せを行った。
211	2013	12/19	日本	SPF小柳氏との打合せ	山川・髙橋が、SPF小栁副室長と打合せを行った。
212	2013	12/24		化支援事業(第2フェーズ)の助成申請の承認	2013年12月〜2015年3月(2か年事業)の事業として、日本財団へ緊急助成申請を行っていたものについて、承認された。
213	2014	1/9	日本	海上保安渉外官への 説明	山川・髙橋が、榎本海上保安庁渉外官(同席:馬渕補佐)と、プロジェクトの進捗状況及 び総理の動き等についての打合せを行った。
214	2014	1/14		入札公示:「小型パトロール艇購入及び保守(パラオ)」	ROPへの第2フェーズ支援にかかる「小型パトロール艇購入及び保守(パラオ)」の入札公示を行った。
215	2014	1/14		入札公示:「通信設備 改善工事(パラオ)」	ROPへの第2フェーズ支援にかかる「通信設備改善工事(パラオ)」の入札公示を行った。
216	2014	1/17	日本	SPF羽生会長との打合 せ	山川・髙橋・SPF小栁副室長が、羽生会長と「第2フェーズの人材育成関係、事業の現状等の報告・打合せ」を行った。
217	2014	1/17		RMIの小型艇「RMIS LOMOR II」、減速逆転 機不具合の修理業務 発注	RMIの小型艇「RMIS LOMOR II」にて、減速逆転機の不具合があったため、修理発注をした。 契約業者:南洋貿易株式会社
218	2014	1/21	日本	外務省大洋州課への 報告	山川・髙橋が、外務省大洋州課、小野外務事務官(新)へ「プロジェクトの進捗報告」を 行った。
219	2014	1/22	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・髙橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)に「プロジェクトの進捗状況報告等」を行った。
220	2014	1/27- 29	SIN	NMC(シンガポール) との打合せ	山川・高橋が、シンガポールを訪問し、NMCと「今後のプログラムの対応方針等」の打合せをした。また、「フルノINSトレーニングセンター」を見学した。
221	2014	1/31	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・髙橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)に「安倍総理のROP訪問時のサイドイベント、RMI大統領来日に関する打合せ」を行った。
222	2014	2/1-3	RMI	RMIの小型艇「RMIS LOMOR II 」、減速逆転 機不具合の修理実施	RMIの小型艇「RMIS LOMOR II 」にて、減速逆転機の不具合があったため、修理を実施した。 対応業者:南洋貿易株式会社
223	2014	2/3		駐日マーシャル諸島大 使館訪問	山川・高橋が、駐日マーシャル諸島大使館を訪問し、「RMI大統領来日に関する笹川会長との会談スケジュール等」についての打合せを行った。
224	2014	2/7		入札:「小型パトロール 艇購入及び保守(パラオ)」	ROPへの第2フェーズ支援にかかる「小型パトロール艇購入及び保守(パラオ)」の入札を行った。 落札業者:南洋貿易株式会社(2/10付契約)
225	2014	2/7		入札:「通信設備改善 工事(パラオ)」	ROPへの第2フェーズ支援にかかる「通信設備改善工事(パラオ)」の入札を行った。 落札業者:古野電気株式会社(2/10付契約)
226	2014	2/10		「専門家派遣研修業務 委託(機関整備:マー シャル)」契約	「専門家派遣研修業務委託(機関整備:マーシャル)」について契約した。契約業者:南 洋貿易株式会社
227	2014	2/10		「小型艇改修及び整備 指導」(FSM)業務委託 契約	FSMの小型艇「FSS Unity」へのオートパイロット装置設置、プロペラ交換等及び整備指導の業務委託契約。 契約業者:南洋貿易株式会社
228	2014	2/10		「HF通信設備改善工事 (パラオ)」業務委託契 約	現地(ROP)より強い要請があった、小型艇「KABEKEL M'TAL」との通信を行うHF通信 設備の改善工事のため、業務委託契約した。契約業者:古野電気株式会社
229	2014	2/10		「AIS受信装置設置工事(ミクロネシア)」の業務委託契約	FSMの海上保安業務改善のため、AIS受信装置設置の業務委託契約をした。契約業者: 古野電気株式会社
230	2014	2/11- 14	ROP	ROP訪問	山川・高橋・白崎・酒井が、第2フェーズ支援MOU、人材育成研修MOU内容の説明等のため、ROPを訪問し、国務大臣、公安局長等と打合せをした。現状報告を兼ねて、在パラオ日本大使館も訪問した。また、民間航空機活用事業についての情報収集のため、スマイルエア稲垣氏、SPLASH米沢氏、BTAを訪問した。

	年	月/日	場所	実施項目	概要
231	2014	2/12- 16	日本	RMI大統領来日	ロヤックRMI大統領が、「実務訪問賓客」として来日。日本財団・笹川会長と会談し、「これまでの支援への謝意と、2隻目の支援要請」があった。
232	2014	2/18	日本	SPF羽生会長との打合 せ	山川・髙橋が、SPF羽生会長(同席:SPF小栁副室長)へ「ROP出張報告等」を行った。
233	2014	3/10	日本	SPF羽生会長との打合 せ	山川・髙橋が、SPF羽生会長(同席:SPF小栁副室長)へ「来年度のスケジュール報告等」を行った。
234	2014	3/11- 14	ROP	ROP訪問	山川・高橋・白﨑・酒井、小柳が、ROPを訪問し、第2フェーズ支援MOU、及び第2フェーズの人材育成事業(SPF事業)のMOUについて、内容を協議するとともに、法務大臣の署名を得た。
235	2014	3/13- 15	FSM	AIS受信装置設置(ミクロネシア連邦)	FSMのAIS受信装置の設置工事を実施。 委託業者:古野電気株式会社
236	2014	3/17- 18	ROP	HF通信設備改善工事 (パラオ)	ROPのHF通信設備の改善工事を実施。 委託業者:古野電気株式会社
237	2014	3/17- 20	FSM	オートパイロット装置設 置等(ミクロネシア連 邦)	FSMの小型艇「FSS Unity」にオートパイロット設置、プロペラ交換等を実施。 委託業者:南洋貿易株式会社
238	2014	3/18- 23		FSM訪問	山川・高橋が、FSMを訪問し、小型艇改修・整備研修立会、AIS装置設置立会を行うと 共に、法務大臣、運輸通信インフラ大臣との打合せを実施した。
239	2014	3/21- 22	FSM	機関整備研修実施(ミ クロネシア連邦)	FSMにおいて、機関整備研修を実施。 委託業者:南洋貿易株式会社
240	2014	3/25- 26	RMI	専門家派遣研修(機関 整備:マーシャル)実施	RMIにおいて、専門家派遣研修(機関整備:マーシャル)を実施。 委託業者:南洋貿易 株式会社
241	2014	3/26	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・髙橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)に「プロジェクトの進捗状況報告等」を行った。
242	2014	4/10	日本	SPF羽生会長との打合 せ	山川・木村(新・NMC所長代理)が、SPF羽生会長へ木村氏の紹介と挨拶を行った。
243	2014	4/10	日本	外務省大洋州課との 打合せ	山川・髙橋が、外務省大洋州課へ行き、「2013年度事業報告の配布と進捗状況報告 等」を行った。
244	2014	4/13	SIN	NMC所長代理交代(酒 井→木村)	
245	2014	4/16	日本	海上保安庁との打合 せ	山川・髙橋が、海上保安庁へ行き、「2013年度事業報告の配布と進捗状況報告等」を 行った。
246	2014	5/2	日本	太平洋諸島センターと の打合せ	山川・髙橋が、国際機関 太平洋諸島センター(PIC)を訪問し、PIC次長から「イバイ島に関する情報」について提供いただいた。
247	2014	5/9	日本	新・ミクロネシア連邦日 本大使との打合せ	山川・髙橋が、外務省において、新・ミクロネシア連邦日本大使(坂井眞樹氏)への挨拶とプロジェクト概要の説明を行った。
248	2014	5/10- 14	ROP	ROP訪問	山川・矢沢・白崎・木村が、BTA JAPANを訪問し、航空機活用に関する調査、打合せを 実施した。
249	71114	5/12- 23	FSM	「FSS Unity」の納入2 年後の定期整備	「FSS Unity」の納入2年後の定期整備を行った。 対応業者: 南洋貿易株式会社
250	2014	5/25- 6/1	RMI	RMI(イバイ島)訪問	山川・白﨑・木村が、RMIイバイ島を訪問し、RMI第2フェーズにかかる、現地調査を実施した。
251	2014	6/4		入札公示:「高速救難 艇購入(パラオ)」	ROPへの第2フェーズ支援にかかる「高速救難艇購入(パラオ)」の入札公示を行った。
252	2014	6/4	日本	小型パトロール艇 「BUL」海上試運転実 施	小型パトロール艇「BUL」の海上試運転が、ヤンマー東日本ボートセンター(横浜市)で 実施された。
253	2014	6/4	日本	読売新聞記者との打 合せ	読売新聞の梁田記者が来訪され、「パラオ等の海洋安全保障に関する情報」について 山川が質問を受けた。
254	2014	6/5	日本	日本財団海野常務理 事への挨拶(NMC木 村)	NMC木村が、海野常務理事へ赴任の挨拶を行った。
255	2014	6/5	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・髙橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)へ「プロジェクトの進捗状況報告及び小型パトロール艇2隻目の引渡式日程等の調整」を行った。
256	2014	6/10	日本	SPF羽生会長との打合 せ	山川・髙橋が、SPF羽生会長(同席:小柳氏)へ「RMIイバイ島の出張報告」を行った。
257	2014	6/11	日本	海上保安庁との打合 せ	山川・髙橋が、海上保安庁へ行き、「進捗状況報告及び研修に関しての打合せ」を行った。

	年	月/日	場所	実施項目	概要
258	2014	6/16	日本	山川がSPF特任研究 員となる	山川が、JAMS調査役→SPFの特任研究員となる。
259	2014	6/18	日本	フジテレビとの打合せ	フジテレビ関係者が来訪され、パラオを題材にした終戦特番ドラマの進捗報告をいただいた。
260	2014	6/23	日本	入札:「高速救難艇購 入(パラオ)」	ROPへの第2フェーズ支援にかかる「高速救難艇購入(パラオ)」の入札を行った。 落札業者:南洋貿易株式会社(6/23付契約)
261	2014	6/23	日本	笹川平和財団 島嶼国 基金室長との打合せ	山川、高橋が、SPF島嶼国基金室長(同席:小栁氏)と今後の体制について打合せを 行った。
262	2014	7/5- 7/9		小型パトロール艇 「BUL」現地での海上 試運転	山川・白崎・木村が、ROPを訪問し、2隻目である小型パトロール艇「BUL」の海上試運転に立ち会った。
263	2014	7/7	ROP	小型パトロール艇 「BUL」現地引渡し	ROP小型パトロール艇2隻目「BUL」の現地引渡しを行った。
264	2014	7/16	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・髙橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)へ「プロジェクトの進捗状況報告及び小型パトロール艇2隻目の引渡式日程等の調整」を行った。
265	2014	7/22	日本	SPF羽生会長との打合 せ	山川・髙橋が、SPF羽生会長(同席:前川室長、小柳氏)へ「プロジェクトの進捗状況報告及び小型パトロール艇2隻目の引渡式日程等の調整」を行った。
266	2014	8/13	日本	ニ 海上保安庁との打合 セ	山川・髙橋が、海上保安庁へ行き、「進捗状況報告及び研修に関しての打合せ」を行った。
267	2014	9/2	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・髙橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)と、「小型パトロール艇2隻目の 引渡式日程等の調整」を行った。
268	2014	9/3-12	ROP	「KABEKEL M'TAL」の 納入2年後の定期整備	「KABEKEL M'TAL」の納入2年後の定期整備を行った。 対応業者: 南洋貿易株式会社
269	2014	9/9-12	ROP	ROP訪問	山川が、小型パトロール艇「KABEKEL M'TAL」の定期整備立会、及び、引渡式に関して、国務大臣等と現地での打合せを行った。
270	2014	9/16	日本	高速救難艇完成検査 立会	山川が、高速救難艇の完成検査立会のため、ニシエフエ場(山口県下関市)を訪問した。
271	2014	9/18	日本	日本財団海野常務理 事との打合せ	山川・髙橋が、日本財団海野常務理事(同席:杉浦氏)と、「小型パトロール艇2隻目の 引渡式」について打合せを行った。
272	2014	9/18	日本	SPF羽生会長との打合 せ	山川・髙橋が、SPF羽生会長(同席:小柳氏)へ「プロジェクトの進捗状況報告及び小型パトロール艇2隻目の引渡式の詳細説明」を行った。
273	2014		口平	駐日パラオ大使館訪 問	山川・髙橋が、駐日パラオ大使館を訪問し、大使とプロジェクトの進捗状況及び引渡式 の予定に関する説明を行った。
274	2014	9/25- 10/3	RUP	ROP訪問 (引渡式対応)	山川・白﨑・木村が、パラオで開催される小型パトロール艇「BUL」等の引渡式対応のためROPを訪問した。
275	2014	10/1		開催	レメンゲサウ大統領他ROP政府関係者並びに日本財団海野常務理事、及び在パラオ日本大使等の参加の下、独立記念式典会場において、小型艇「BUL」等の引渡式を行った。
276	2014	10/3	日本	入札公示:「操船シミュレータ購入(ミクロネシア連邦)」	FSMへの第2フェーズ支援にかかる「操船シミュレータ購入(ミクロネシア連邦)」の入札公示を行った。
277	2014	10/17	日本	入札:「操船シミュレー タ購入(ミクロネシア連 邦)」	FSMへの第2フェーズ支援にかかる「操船シミュレータ購入(ミクロネシア連邦)」の入札を行った。落札業者:株式会社マリックス(10/17付契約)
278	2014	10/29	ROP	高速救難艇現地引渡	ROPへ高速救難艇を引き渡した。
279	2014	11/1	日本	田中育子氏着任	高橋の後任として、田中育子氏が着任した。
280	2014	11/4-5	日本	FSM法務大臣等へ研 修実施	他用により来日したFSM法務大臣等へ研修を実施した。主な内容は、海上保安施設見 学等。
281	2014	11/27- 12/5	RMI	「RMIS LOMORII」の 納入2年後の定期整備	「RMIS LOMOR II」の納入2年後の定期整備を行った。 対応業者:南洋貿易株式会社
282	2014	11/30- 12/6		RMI訪問 (定期整備海上試運転 対応)	山川・田中が、「RMIS LOMOR II」の納入2年後の定期整備の海上試運転及び現地関係者との打合せのためRMIを訪問した。
283	2014	12/13- 17		ROP訪問	山川・田中がプロジェクトの取材対応等のため、パラオを訪問した。
284	2015	2/3/-8	ROP	VHFリピータ完成検査	山川・田中がVHFリピータの完成検査を行った。対応業者:古野電気株式会社
285	2015	2/18		入札公示:「小型パトロール艇購入及び保守(マーシャル)」	RMIへの第2フェーズ支援にかかる「小型パトロール艇購入及び保守(マーシャル)」の入札公示を行った。

	年	月/日	場所	実施項目	概要
286	2015	3/10- /15		操船シミュレーター完 成検査	山川・田中が操船シミュレーターの完成検査を行った。対応業者:マリックス
287	2015	3/12		入札:「小型パトロール 艇購入及び保守(マー シャル)」	ROPへの第2フェーズ支援にかかる「小型パトロール艇購入及び保守(マーシャル)」の入札を行った。落札業者:南洋貿易株式会社3/12付契約)

# 【ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト】 2015年度:年間計画(案)

備考					当年	十四								通件(SDF重整)	(米中19c)十国	(SPF事業)		2016年12月頃完了 目途							2014年2月契約		
3月						\								1				アクションプ 2 ラン策定									
2月	期末報告										運用状況調査	実働訓練 (新日本丸も)						11									
2016年 1月																									運用状況調査		
12月																		最終報告									
11月			FSM:11/1:独 立記念日								訓練実施													定期整備 (11/29-12/9)	引渡式	小型艇 整備研修	
10月			ROP:10/1:独立 記念日 ROP:10/1:組織 改編?														法務大臣招へい	計画策定					法務大臣招へい	整備契約	現地納入 (月末)		法務大臣招へい
旨6	中間報告											実働訓練 (新日本丸も)				上級					運用状況調査				乗組員研修 (運航)		
8月							定期整備 (8/16-26)											国際会議							乗組員研修 (整備)	2隻目乗組員 研修(整備)	
7月							整備契約		操船訓練		支援制度策定							現地調査							乗組員研修 (運航)		
6月								定期整備 (6/28-7/7)		運用状況調査			小型艇 整備研修			初級				運用状況調査							
5月			5/22,23: PALM7:福島 県いわき市 FSM:5/17?: 大統領交代?					整備契約			現地調査							予備調査	定期整備 (5/31-6/10)			小型艇 整備研修		運用状況 調査			
2015年 4月			ROP:4/8,9: 天皇の訪問 FMI: 4/28JICA貨物 船引渡式			1				引渡式?					/				整備契約	引渡式?					乗組員研修 (整備)		
支援項目 \ 月	日本財団(予算)関係	国内委員会	関連行事	ア刈か、オーストラリア対応	運用経費支援	<u>ئ</u>	小型パトロール艇(1隻目)	小型パトロール艇(2隻目)	高速救難艇(浅海用)	通信施設整備	航空機活用 (時間借り方式)	海上訓練	専門家派遣研修	研修支援費	(5名、1年間)	海上保安研修	招へい研修	PHASE3支援計画	小型パトロール艇	操船練習機	通信施設整備	専門家派遣研修	招へい研修	小型パトロール艇(1隻目)	小型パトロール艇(2隻目)	専門家派遣研修	招へい研修
国別	1			[	四: #	黒		ペラヤ						11	100	ı <b>⊹</b> ∖	アア連	マーシャル諸島									

### Memorandum of Understanding

In effecting the following support measures, we, the representatives from the Government of the Republic of Palau and The Japan Association of Marine Safety, understood as follows:

- 1. With The Nippon Foundation's support, The Japan Association of Marine Safety (hereinafter referred to as 'JAMS') will conduct support measures such as providing a small patrol craft, communication facilities, etc., to the Government of the Republic of Palau (hereinafter referred to as 'the Government') as the second phase assistance on The Nippon Foundation Group's project for the improvement of the coast guard capability in the Micronesian region. The details and specifications of the support items are as stated in Annex 1.
- 2. The Government shall operate the small patrol craft and other facilities appropriately with the understanding of the purpose of the support measures.
- After the handover of the small patrol craft and other facilities, the Government shall bear all the expenses for their operation, maintenance and repair, except as expressly stated in Annex 2, which will be borne by JAMS with The Nippon Foundation's support.
- 4. The venue and timing of the handover of the small patrol craft and other facilities will be decided through consultations to be held between the two parties.
- 5. Any other matters which are not dealt with in this Memorandum will be decided through consultations to be held between the two parties.

This Memorandum of Understanding is executed by the representatives' undersigned.

Signed on

Hon. Antonio Bells

Minister

Ministry of Justice

For and on behalf of the Government of

the Republic of Palau

( .P. A-A

Signed on Mark 10, 2014

Yoshio Nakahata

President

For and on behalf of

The Japan Association of

Marine Safety

### Memorandum of Understanding - Annex 1

### Details and specifications of the support items

### 1. A small patrol craft

Specifications of the small patrol craft and its onboard equipment which will be provided to the Government of the Republic of Palau will be as follows,

- 1) Basic specification of the small patrol craft
  - Size: 15-meter size boat
  - Material of Hull: Single skin FRP
  - Gross tonnage: approx. 12 Tons
  - Maximum number of people onboard: approx. 14 persons
  - Engine:

Maximum power: approx. 450kW (650PS)

Number of Engine: 1

Number of propeller shaft: 1(Fixed Pitch)

- Maximum Speed: approx. 30 knots
- Normal Cruising Speed: approx. 20knots
- Capacity of fuel tank: approx. 1,300 liters
- Cruising Distance: approx. 400miles (at 2/4 output) \*
  - \* Estimated theoretical fuel consumption
- 2) Onboard equipment for the boat
  - Radar
  - Electric chart
  - Echo Sounding device
  - GPS Receiver, AIS Receiver
  - Integrated navigational device (NAVNET etc.)
  - HF/VHF radio communication device
  - Satellite communication system
  - Safety & Firefighting equipment including life jackets, EPIRB, Radar Transponder, fire extinguisher
  - Anchor and anchor winch
  - Emblem of the Marine Law Enforcement Division, Bureau of Public Safety, Ministry of Justice
  - Flash warning light
  - Search light
  - Loud speaker system

as

(N.)

- Binoculars
- Mooring equipment including ropes, fenders
- Medical & Rescue set
- Lifting Cradle and slings
- 3) Initial basic instruction for operating the small patrol craft

At the time of handover of the small patrol craft, the small craft maker will provide following initial basic instruction to personnel of the recipient government

- i. Basic instruction and training for maneuvering the small craft
- ii. Basic instruction for maintenance of the small craft and its engine
- iii. Basic instruction in use of lifting cradle and sling

### 2. A fast rescue rubber boat

Specifications of the shallow-water-use fast rescue rubber boat which will be provided to the Government of the Republic of Palau will be as follows,

- 1) Basic specification of the rubber boat
  - Size: approx.7 meters
  - Hull: floating-compound FRP and poly-ethylen-foam-compound toughened floating rubber
  - Weight: approx. 1.5 Tons
  - Maximum number of people onboard: approx. 10 persons
  - Engine:

Type: out-board Number of Engine: 2 Fuel type: gasoline

Maximum power: approx. 110kW x2 (150PSx2)

- Maximum Speed: approx. 30-40 knotsCapacity of fuel tank: approx. 170 litters
- Cruising Distance: approx. 100miles (at 38 knots)
- 2) Towing facilities
  - · Trailer suitable for the rubber boat
  - Towing vehicle

### 3. Out-board engine

Two sets of out-board engines, namely YAMAHA 85HP, with the fully fitting accessories will be provided to the government of ROP for being fitted to the multi-use small motor boat owned by the Division of Marine Law Enforcement.

ap

(N)

### 4. Forklift

One forklift with the lifting capacity of 3,000 kg, diesel engine type, will be also provided to the government of ROP for lifting and transporting heavy materials in the Division of Marine Law Enforcement.

### 5. Floating devices "Aqua-lifter"

Floating devices, namely "Aqua-lifter", with two sets of floating capacity of 1,000kg and two sets of floating capacity of 500kg, will be provided to the government of ROP for the rescue missions especially for keeping the buoyancy of damaged/sinking boat.

### 6. Upgrading Communication Capability

Following support measures will be conducted for upgrading communication capability of the Division of Marine Law Enforcement.

- Restore of the VHF Repeater system for the coverage of Southern Area of ROP
  - Constructing a new antenna tower for the substitute of the old antenna tower that was broken down by the typhoon
  - Setting up the repeater antenna on the newly constructed tower and repeater system on the ground
  - Setting up the communication link between the operation room in the base of the Division of Marine Law Enforcement and the Repeater station
- Construction of the VHF Repeaters system for the coverage of Northern Area of ROP
  - Constructing a new antenna tower for the VHF Repeater system on the top of the designated point/hill in the northern area of ROP for the wider VHF communication coverage of Northern sea area
  - Setting up the communication link between the operation room in the base of the Division of Marine Law Enforcement and the Repeater station

### 7. Cost support for the time charter of small aircraft

Recognizing the effectiveness of the air observation/search on the guard and rescue missions executed by the Division of Marine Law Enforcement, the cost support for the time charter of the small aircraft that are stationed in ROP will be

ab

< N

provided to the government of ROP.

Details such as the amount of cost support, the date of beginning of this support, the way of payment and other specific procedures, will be informed by JAMS at the later date.

ab

(N)

### Memorandum of Understanding - Annex 2

# Support measures for the operation and maintenance of the support items whose expenses will be borne by the Japanese side

Following support measures will be provided at the expense of The Japan Association of Marine Safety (JAMS) in order to secure and facilitate law enforcement activities and other coast guard activities by the Division of Marine Law Enforcement, Bureau of Public Safety.

### 1. Provision of spare parts and support of maintenance for the small patrol craft

- 1) Spare parts will be provided based on the standardized periodical maintenance plan made by the small craft maker
- 2) JAMS will provide technical instruction and training for maintenance of the small craft in ROP on the occasion of annual heavy maintenance work.
- 3) The above-mentioned support will be provided from the day of handover of the small craft until the end of March 2020.
- 4) The above-mentioned support will be conducted by a designated company under the contract with JAMS
- 5) Except for above-mentioned support measures, the daily check and periodical maintenance including the pre-departure check shall be duly conducted by the crewmembers/personnel of the Division of Marine Law Enforcement, Bureau of Public Safety based on the "Check and maintenance manual" made by the small patrol craft maker.
- 6) The repair cost for the damages caused whether intentionally or negligently, will not be covered by JAMS.

### 2. Fuel cost support for the small patrol craft

- 1) JAMS will bear the cost of fuel for the small patrol craft to an agreed amount.
- 2) Budget for fuel cost support is 4,000,000 Japanese Yen per year (JAMS's fiscal year which starts in April to next March every year). This amount of cost is calculated based on the predicted annual fuel consumption of 36kl.
- 3) The above-mentioned support will be provided from the day of handover of the small craft until the end of March 2020
- 4) The way of payment of fuel cost will be informed by JAMS at the later date.
- 5) The Division of Marine Law Enforcement, Bureau of Public Safety shall record the daily activities of the small patrol craft in the designated form and

Cub

Y.1V

report to JAMS every beginning of the following month, based on the previous month record.

6) JAMS will send their personnel for auditing purposes at least once a year.

ap

1

# 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」パラオ共和国で小型パトロール艇「BUL」の「引渡式」を実施(1)

月日:2014年10月1日(水)1000~

場所:パラオ共和国

ニワル州イメカン港 岸壁



会場の様子



会場沖に小型パトロール艇2隻を係留



レメンゲサウ大統領の挨拶



日本財団・海野常務理事の挨拶



主要参列者(左から、日本大使、外務政務官、海野常務、大統領、国務大臣)



2隻目の引渡を祝し、レメンゲサウ大統領と握手

# 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」 パラオ共和国で小型パトロール艇「BUL」の「引渡式」を実施(2)

月日:2014年10月1日(水)1000~

場所:パラオ共和国

ニワル州イメカン港 岸壁



記念撮影



鏡割り



日本財団からパラオ政府へ「BUL」のパネルの贈呈



パラオ政府から日本財団へ「ストーリーボード」の贈呈



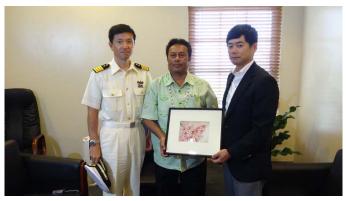
凛々しく並ぶパラオの警察職員



「BUL」で体験航海(外務政務官一行)

# 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」 パラオ共和国大統領・国務大臣を表敬訪問

月日:2014年10月1日(水)1400~ 場所:パラオ共和国 首都メルキョク



レメンゲサウ大統領表敬訪問



クアルテイ国務大臣表敬訪問

### パラオ共和国副大統領主催の食事会



食事会の様子



副大統領へ「BUL」の写真パネル贈呈

### パラオ共和国独立記念式典に参加



式典で挨拶する大統領



式典参加者(右前が海野常務理事)

# 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」 パラオ共和国法務省海上法令執行部を訪問

月日:2014年9月30日(火)1500~ 場所:パラオ共和国 コロール



海上法令執行部長との会談



トウッティー海上法令執行部長と記念撮影



海上法令執行部岸壁で並ぶ小型パトロール艇2隻



海上法令執行部岸壁にて



体験航海に出発



高速で左旋回する「BUL」



press conference.

Palau to receive new patrol boat

by the Nippon Foundation for the improvement of Palau be called "Bul" was donated government's maritime sur-The patrol boat which will veillance capability.

dation donated a similar boat called "Kabekel Metal" which is currently on commission Earlier, the Nippon Founpatrolling Palau's waters.

The small patrol boat is also expected to be utilized in it will become possible to strengthen the maritime surveillance capacity from with-Through this project, n zero to 12-miles offshore. emergency situation.

ice has hired several people "The foundation gave us Kuartei. The Ministry of Juslice academy to man the new are giving give us Bul," said Kabekel Metal and now they

on October 1 Independence

As a separate activity

ernment will receive a new patrol boat from the Nippon

Day celebrations, Palau gov-

Foundation at Imekang Dock n Ngiwal State.

Representatives of the Nippon Foundation including its executive director will be Kuartei in last Wednesday's handing over the small patrol boat in an official ceremony to President Remengesau, said Minister of State Billy

"The training is ongoing at the moment, which includes operating, mainte-Kabekel Metal and Bul nance, the use of its equipments," Kuartei added

will be split with one patrolling the northern and other patrolling the southern part of Palau's main island.

Nippon Maru 2

Minister Kuartei also dis-Nippon Maru, which was damaged by Super Typhoon will come in November with the handover scheduled for for the Peleliu State boat Bopha in December of 2012, closed that a replacement December 15.

The new boat will be called Nippon Maru 2.

Boat operators from the government agency to mannel hired to operate patrol boat Bul. Authority, which is the state age and operate the boat, training as the new person-Peleliu Marine Transport

New patrol boat docking at marine law complex.

### 産経新聞(朝刊):9面 20141002(木)

まったパラオに日本から小型パトロ 輔】天皇、皇后両陛下のご訪問が決 支援プロジェクトを推進する日本財 念日の1日、 ル艇が寄贈された。パラオ独立記 マルキョク(パラオ) ニワル州イメカン港で

行われた。

シャル諸島の3カ国は計約600万

パラオとミクロネシア連邦、

# 日本財団が寄贈



艇

体制が確立されていない。

日本財団

水域を有するが、

国力が乏しく監視

は各国に小型パトロール艇と運用で

ル

燃料費を供与してきた。

今回寄贈された船は全長15以、

650馬力で、最先端のナ

ブル

団からパラオ政府への引き渡し式が ||佐野慎 型 れた。 さ12トン、 ビと衛星通信装置を備え、

保のためブルを活用していく」と応 法操業は目の前の海で起きている」 食での死亡事故を例に、 が活躍する場面は一層増える」 や乱獲の増加、 常務理事は 「外国船による不法操業 財産である漁業資源、 伝投棄などによる海の汚染に小型艇 引き渡し式で日本財団の海野光行 中国漁船の不法操業をめぐる捜 レメンゲサウ大統領は 船舶からのゴミの不 海洋資源の確 パラオの

ネルを受け取るパラオのレメンゲサウ大統1日、小型パトロール艇の引き渡し式でパ

=ニワル州イメカン港 (日本財団提供)

平方が以と世界第3位の排他的経済

(現地語で保護の意味)と名付けら

### 20141003(金) 日本海事新聞:2面

### ■日本財団

# パラオに2隻目の小型警備艇供与

日本財団は1日、パラオ政府に対する小型パトロール艇の引き渡し式を同国内で行った。 2012年の1隻目に続き、2隻目の供与となる。

同事業は、日本財団が日米豪3カ国の海上保 安機関と協力して進めるミクロネシア3カ国 (パラオ、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島) 向け「海上保安能力強化支援プロジェクト」の 一環。

式典で日本財団の海野光行常務理事は「今後は2隻の小型パトロール艇が効果的に協力して、パラオの海を守ってくれると思う。パラオが他の2国との連携をさらに促進し、総合的な海上保安体制を構築してほしい」と述べた。

これに対して、パラオのトミー・レメンゲサウ大統領は「日本からは官民、特に日本財団から多大な協力を頂いてきた。海はパラオ国民にとって最大の資源であり、文化を育む伝統的な生活の場である。この重要な海を監視・管理する船や人員は必要であり、今回の手助けがその力となることと確信する」と謝辞を述べた。

引き渡された小型艇はパラオ語で「環境保護」 を意味する「BUL」。全長15~に、速力30~、航続 距離400%。

るレメンゲサウ大統領から小型艇の鍵を受け取式典で海野常務理事(右



### 日本財団が新たな警備艇を引渡し

### (2014年10月3日付 Island Times)

海洋開発の促進とパラオの海洋資源の密漁からの保護を支援するため、日本財団は 新たな警備艇をパラオ共和国に引き渡した。

パラオの第 20 回目の独立記念日を祝う中、引渡式典が 10 月 1 日実施された。式典は、ニワル州のイメカン岸壁にて行われた。この式典には、日本財団海野光行常務理事、トミー・レメンゲサウ Jr.大統領、アントニオ・ベルス副大統領、閣僚、各大臣、各議員、上院のフィリップ・レクライ副議長をはじめとする上院議員、田尻和宏日本大使及び公安局イスマエル・アグオン局長をはじめとする公安局員が参加した。

「パラオはかつて貴重な海洋で密漁を行う外国漁船の増加する事案に苦しんできた。国内的に、家庭ゴミの排出や船舶からの違法なゴミの排出は美しい海を汚染してきた。パラオ政府と警備艇の取組みにより、これら問題への対処は改善されてきた。日本財団のパラオへの継続的な協力として、この美しい海を保護するために「Bul」と命名された2隻目の小型警備艇をパラオに提供するということを発表でき、大変嬉しく思う。この船名はレメンゲサウ大統領のパラオ国民とパラオの海への温かい想いを反映したものであると考えている。」と日本財団海野光行常務理事は語った。

また同氏は、小型警備艇「Bul」が日本財団により寄贈された 1 隻目の小型警備艇「Kabekel M'tal」とともに、より一層パラオの保護活動、緊急事態対応及び台風 Haiyan のような自然災害対応を強化するだろう、と語った。

「これは自然災害の影響に対処するための不可欠な支援となる。観光ダイバーの増加につれ、人命救助活動は増加することから、この警備艇はパラオの積極的な姿勢と海洋保護活動に役立つものである。また、パラオは、より広く包括的な海洋の警備と安全を確立するために他のミクロネシア 2 国とのより強い結びつきを推進することを強く期待する。」と海野氏は強調した。

一方、トミー・レメンゲサウ大統領は、日本財団へ寄贈に対する感謝を述べるとと もに、特にパラオが排他的経済水域での商業漁業を終了させようと計画していること からも、この小型警備艇は大きな助けになるものである、と保証した。

新しい警備艇により、パラオは資源、領域及び今日のパラオの人々だけでなく、次の世代の人々をも保護する事ができる、と大統領は強調した。

日本財団は民間で非営利の財団であり、競艇の収益を活用して慈善活動を実施する目的で 1962 年に設立された。この財団の総合的な目的として、人道的活動及び地球的海洋開発の支援が挙げられる。その博愛の思想は社会の発展と社会自給に帰依し、公共福祉の増進、教育、貧困軽減、飢餓の廃絶及び障害者支援のための活動を行う事により、その原則を追及している。



### Nippon Foundation hands over new patrol boat

WRITTEN BY PETER ERICK MAGBANUA FRIDAY, 03 OCTOBER 2014 14:48

With the aim of promoting maritime development and to help Palau in protecting its maritime resources from illegal poachers, the Nippon Foundation handed over a new patrol boat to the Republic of Palau.

The ceremony was held last October 1, in the celebration of Palau's 20th Independence Day. The hand over was held at the Imekang Dock in Ngiwal State. The event was attended by The Nippon Foundation executive director Mitsuyuki Unno, President Tommy Remengesau Jr., Vice President Antonio Bells, members of the cabinet, ministers, members of the House of Delegates, members of the Senate led by Senate Vice President Phillip Reklai, traditional leaders of Ngiwal State, Japan Ambassador Kazuhiro Tajiri and members of the Bureau of Public Safety led by its director Ismael Aguon.

"In past Palau has suffered from increased incidents of foreign fishing vessels illegally operating in the area to poach precious marine. Domestically, the dumping of household garbage and illegal disposal of waste from vessels has also polluted the beautiful oceans. With the efforts of the government of Palau and the patrol boat, measures to deal with these issues have seen to progress. As the Nippon Foundation's continuous cooperation with Palau, it is my pleasure to announce that we are providing a second small patrol craft called 'Bul' to protect the ocean. I think the name reflects President Remengesau's warm consideration for the people of

Palau and its ocean," said The Nippon Foundation executive director Mitsuyuki Unno.

He added that small patrol boat "Bul" together with the first small craft patrol boat donated by The Nippon Foundation "Kabekel M'tal" will further strengthen Palau's conservation efforts and response to emergencies and natural disaster such as like of Typhoon Haiyan.

"It will be a vital help for managing the impact of natural disasters; human rescue operations will be increasing with the rise of tourist divers and it can be useful for Palau's proactive stance and action for ocean conservation. I also strongly expect that Palau will further promote its partnership with the two other Micronesian countries to establish wider and more comprehensive ocean security and safety," Unno stressed.

On the other hand, President Tommy Remengesau Jr. thank The Nippon Foundation for their donation and assured them that the small patrol boats will be of big help especially as Palau is planning to close its Exclusive Economic Zone (EEZ) from commercial fishing.

He stressed that with the new patrol boat, Palau will be able to protect its resources, borders and people not only for Palauans today but also for the future generations to come.

The Nippon Foundation is a private, non-profit foundation established in 1962 for the purpose of carrying out philanthropic activities, using revenue from motorboat racing. The foundation's overall objectives include assistance for humanitarian activities and global maritime development. Its philanthropic ideals embraces social development and self-sufficiency, and it pursues these principles by working to improve public health, education, alleviate poverty, eliminate hunger and help the disabled.



(NANYO BOEKI KAISHA, LTD) Katsuta Bldg. 5F, Mita, 1-3-39, Minato-Ku, Tokyo, Japan 108-0073 TEL: 81-3-5419-2678 FAX: 81-3-5419-2680 E-mail:kuri@nbk.co.jp

2014年5月26日

東京都港区虎ノ門1丁目1番3号 TEL03-3502-2231 公益社団法人 日本海難防止協会 理事長 中畑 美男 様

> 東京都港区三田 1-3-39 TEL 03-5419-2678 南洋貿易株式会社 企画開発部 米田

# 業務完了届

「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」における、供与小型 艇「FSS Unity」の納入2年後定期整備及び整備指導(研修含む)(ミクロネシア 連邦)の委託契約書(2014年4月21日)第5条(業務完了届)に基づき、委託業 務を完了した事を届けます。別添、業務実施報告書を参照ください。

以上

2014年5月26日

公益社団法人 日本海難防止協会 御中

南洋貿易株式会社 (企画開発部 米田 港区三田1-3-39勝田ビル5F TEL:03(5425)1939

### 業務実施報告書

「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」における、供与小型艇「FSS Unity」の 納入 2年後定期整備及び整備指導(研修を含む)(ミクロネシア連邦)に関して、仕様書5-(6)に基づき、業務 実施状況の報告を致します。

### (業務実施内容)

1、実施場所: 供与小型艇「FSS Unity」(ミクロネシア連邦)

2、実施期間: 2014年5月12~5月23日

3、整備指導業務に携わった技術者: ヤンマー株式会社マリン事業部 橋本和浩氏 ヤンマー舶用システム株式会社 小川 徹氏

4、装置品等、納品物は、別紙1装置品等の写真を参照。

5、整備指導については、別添"JOB REPORT (Maintenance of the 2nd year and Training)"及び別紙2作業の写真を参照。

6、整備指導を受けた技術者 : Mr. Rickey Etse (Deck Hand)

Mr.Marbin Obispo (Deck Hand)
Ms.Youraleen Mathew (Deck Hand)
Mr.David Tewodrose (Engineer)
Mr.Willieboy Ionais (Deck Hand)

Mr.Aser Lucas (Base Techinical Officer) \*Attachment(3)の参加者リスト参照

7. 整備指導者からの所見: 別紙「技術報告書」を参照。

以上

### 南洋貿易株式会社 御中

尼崎市塚口本町5丁目3番1号 ヤンマー株式会社 マリン事業部 営業部 技術Gr

承認	審査	作成
明		魯

# 技 術 報 告 書

貴社益々御隆盛のこととお慶び申し上げます。 下記の通りご連絡致しますので、宜しくお願い申し上げます。

						THE RESERVE THE PERSON NAMED IN COLUMN TWO IS NOT THE OWNER.		
出張目的	2年	2年目定期整備工事と技術トレーニングの実施						
出張期間	2014年	5月 12	28 ~	2014	年 5月	23日		
出張場所	ミクロネ	シア連邦	ポンペイ					
出張者	ヤンマー	マリン事業	部 橋本 和	□浩、ヤン	マー舶用シ	ステム	リ川 徹	
			対	象機				
船体	船体番号	搭載	機関	機関番号	減速这	並転機	減速逆転機番号	
ヤンマー EX46.FB	5026	6 6HYM-WET 1794 YXH-130-5 00776						
船名	船籍港	船体所有都	Š					
FSS Unity	FSS Unity Pohnpei MARITIME WING NATIONAL POLICE OF FSM							
船体用途納入年月日使用時間								
パトロール船 平成24年 6月 559HR								
1、状況(実施事項) 2、所見 3、その他								

### 1、状況(実施事項)

ミクロネシア連邦納入艇の2年目定期整備工事の実施。

(定期整備項目に基づき実施:詳細は別紙参照下さい。)

座学、及びOJTによる技術研修、技術指導の実施。

(船体設備の説明。電装品の説明、及びOJTによる操作実施。電装品の説明と操作方法、 故障時の対応説明。共同作業による点検項目の説明、及び整備項目の実施。

故障診断の実施、及び緊急時の対応説明、他)

#### 2、所見

ミクロネシアにおいて、定期整備工事を担当するのは今回が初めてであったが、若いスタッフが多く(経験のない)、ほとんどが何をしたらいいのかが分からない、支持待ち状態であり全てのスタッフを効率よく作業させるのはとても困難であった。

少し厳しい事を言えば、船体設備の仕組に関しても、ほとんど理解しておらず、スイッチを入り切りするだけであり、不具合が発生した場合においても、何が正常か何が異常かを判断出来るレベルには達しておらず、現在の彼らに船体を任せるのはとても危険であると感じた。船体の上架場所は広々としており、ワークショップとも近く、とても効率は良いが、今回はほとんど毎日と言っていいほど、雨(豪雨)が降り、この事も少なからず効率を下げる原因になったものと思われる。

しかしながら、彼等も今後経験を積む事により、色々な知識を吸収し、レベルが高くなるものと思われるが、研修等による継続的な支援が不可欠と思われます。

技術研修、及び現場での各機器の操作説明等は真剣に実施しており、研修実施後、船体設備についてはある程度理解出来たものと思われます。

#### 3、その他

整備点検において、クラッチ点検時に内部の不具合を発見し部品を交換しております。また、船底のアース板を固定しているFRPの補修を実施しました。

今回、エンジンルームにLED照明を2箇所(右舷・左舷)取り付けましたが、非常に明るく、 乗組員が点検時にとても便利であり、今後他の艇にも取り付けの検討をお願いします。

今回の2年目定期整備工事において、多大なるご協力を頂きありがとうございました。

#### **JOB** REPORT

#### Work number:

**Maritime Wing** 

**User Name: National Police of FSM** 

**Vessel Name: FSS Unity** 

Boat type: EX46.FB S/# 5026

Engine type: 6HYM-WET(L) E/# 1794

**Running Hours: 559** 

Lub.Oil Type: #40

Fuel.Oil Type:Diesel

### YANMAR CO.,LTD.

Marketing&Sales Dept. Marin Operations Div.

5-3-1, Tsukaguchi-Honmachi, Amagasaki-City, Hyogo

Japan 661-0001

Tel:+81-6-6428-3261 Fax:+81-6-6421-2202

Date: 23th May 2014

Place: **Pohnpei** 

Service Engineer: K, Hashimoto, T, Ogawa

Trial Run Completion day: 21th May 2014

tem	Description
Su	bject: Maintenance of the 2nd year and Training
	①Condition ②Job Comments ③Result ④Comments ⑤Remark
1	We carried out 2nd year maintenance of the boat, the engine, and all equipment
	Almost all equipment is kept good condition.
2	Additional job is the following.
	(1) We replaced the "Case plate"and "Input shaft" of the gear box.
	(2) We replaced the "Control unit" of the Auto-pilot system.
	(Because software is renewed.)
	(3) We repaired earth plate of the hull by FRP.
	(4) We installed two LED lightings on engine room.
3	The repair job and sea trial finished without trouble.
	Please refer to the our job report.
4	We carried out technical training.
	Details as below.
	(1) Explained each equipment of the boat.
	(2) Explained how to operate each equipment by on the job training.
	(3) Explained electric wiring and electric device.(one by one checked.)
	(4) Explained engine maintenance and troubleshooting.
	(5) Explained emergency action.
	I think your staff understand about all system of the boat more than before.
	Woulding Date

**Working Date** 

From To 12th May 2014 23th May 2014

(Attention) Accept the construction article

**Comfirmation day** 

Signature of Customer

# **EX46FB 2nd year Maintenance**

# Vessel

	Item	Date	Done	Remark
Vessel				
	Clean the hull outside	5/14	レ	
	Bottom paint coating	5/16	レ	
	Replace zinc anode plates	5/13	レ	
Engine Roo	om			
	Inspection of vibration isolating rubber foundation bolts	5/16	レ	
	Inspect the exhaust flange attachment bolts	5/16	レ	
	Inspection of vibration isolating rubber (Measuring the height of the vibration isolating rubber)	5/16	V	
	Inspection or replacement of the exhaust rubber hose	5/19	レ	Inspected
	Inspection or replacement the main engine front drive belt	5/19	V	Replacement
	Inspect the stern tube gland packing	5/19	レ	
	Inspection or replacement the stern tube seal	5/13	レ	Replacement
	Inspect the carbon brush	5/21	レ	
	Clean the sea water strainer	5/17	レ	
Fuel Tank				
	Inspect the fuel tank installation condition	5/20	レ	T
	Inspection or replacement of the filling rubber hose	5/20	レ	Inspected
Stern Arra	ngement Parts			
Occili Aira	Remove the propeller, Inspection, Install	5/13	レ	
	Inspect the propeller shaft	5/13	レ	
	Inspection or replacement of the cock board of the shaft bracket	5/13	V	Replacement
	Inspect rudder fixed bolt	5/21	レ	
	Remove the rudder and inspect the rudder bearing	5/18	V	
	Inspect hydraulic cylinder fixed bolt.	5/20		
			1.	
	Apply grease to parts  Replace zinc anodes of the propeller shaft	5/20 5/13		
Steering D		0/10		1
Ottoering D	Inspect the helm pump installation bolt	5/20	レ	
	Operation confirmation of steering device,		ļ	
	check or replacement of the hydraulic oil,	5/21	レ	
Electric De				
Licoti lo De	Inspect the wiper blade	5/20	V	T
Other	Tarispose and ripor stado	J, <b>2</b> 0		
0 01101	Inspect the leakage of each parts	5/20	V	
	Apply grease to parts	5/22	1	
	Re-tightened the hose clamps	5/20	レ	
	TITO GETTOTION GIO HOST CIAITIDS	0/20		

# EX46FB 2nd year Maintenance

Engine

	Item	Date	Done	Remark
Fuel System				
	Drain fuel-water separator deposit and	5/20	V	
	water			
	Replace fuel filter and fuel-water	5/20	L	
	separator			
_ubrication :				
	Replace oil filter	5/16	レ	
	Clean oil cooler	5/16	レ	
	Replace oil (Engine only)	5/17	レ	
Cooling Sea	Water System			
	Replace seawater pump impeller	5/17	レ	
	Inspect sea water pump	5/16	レ	Replace the mechanical seal
	Replace zinc anodes	5/16	レ	
	Clean seawater system	5/16	レ	
Coolant Wat				
	Replace coolant water	5/17	レ	
	Clean coolant system	5/16	レ	
	Inspect the thermostat	5/17	レ	
Fuel Injectio	n Pump and Fuel Injection Nozzle			
	Check injection timing	5/19	レ	
	Replace the injection nozzles	5/16	レ	And adjusted pressure
Cylinder Hea				
	Check valve clearance	5/16	レ	
Furbocharge	r and Air Duct			
	Clean the air cooler	5/17	レ	
	Clean and replace the air filter	5/17	- I	
Control Devi				
	Checking and adjustment of the remote	= /0.1	Π.	
	control handle	5/21		
	Checking or replacement of the remote	- /- /		
	control cable	5/21		
Piping				
	Re-tighten hose clips	5/19	l v	
	Checking or replacement of the rubber		1	
	hoses	5/19		Replacement
lectric Devi				
	Check battery electrolyte level	5/20	1.	
	Check wire-harness	5/21	1.	
	Check alternator drive belt tension	5/17		
	Chook dicornator drive beit tension	3/17		
Gear Box				
ubrication S	System			
abrication	Replace the lub. Oil	5/20	V	T
	Replace lub. Oil filter		V	
	Clean the lub.oil suction strainer	5/20		
		5/20	レ	
Cooling Co-	Check and clean the magnet plug	5/20		
Jooling Sea	Water System	F // 0		
	Replace zinc anodes	5/19	<u> </u>	
	Check the lub.oil cooler	5/19		
Control Devi				
	Checked remote control cables	5/21	レ	

# **EX46FB 2nd year Maintenance**

# Boat Accessories

	Item	Date	Done	Remark
Air Condit	ioner			
Compress	or			
	Inspect installation bolts	5/19	レ	
	Inspect the high pressure pipe	5/22	レ	
	Inspect the terminal bolt	5/21	レ	
Cooling Ur	nit			
	Inspect the indoor unit installation bolts	5/21	レ	
	Replace the air filter for the indoor unit	5/15	レ	
	Check or replace the seawater pump	5/15	レ	
	Clean the sea water filter	5/17	レ	
	Inspect the hose clips	5/21	レ	
Marine To				
Pump				
	Inspect the installation bolt	5/19	レ	
	Check the wiring and piping	5/19	<u>ا</u>	
	Operation confirmation	5/21	V	
Fresh Wat		0/21		
Fresh Wat				
	Inspect the installation bolt	5/20	レ	.
	Check the water tank and piping	5/20	レ	Replace the hose clip
	Operation confirmation	5/21		Treplace the flose clip
Sea Water		5/ 21		
Sea Water				
Oca Water	Checking or replacement of the sea water			T
	impeller	5/16	レ	
	Check the Kingston valve and 3way valve	5/21	レ	
	Check the sea water hose and joint	5/21	レ	
Electric De		-		
Breaker Pa	anel and Switch Panel			
	Check the each fuse and breaker	5/19	レ	
	Check the each wiring	5/22	レ	
	Check the button of the switch panel	5/19	レ	
Lighting D	evi <u>ce</u>			
	Check the Navigation light and other	5/19	レ	
	Operation confirmation of the patrol light	5/20	1.	
	and search light	5/20		
	Check the room light	5/20	レ	
Remote Co	ont <u>rol Device</u>			
	Inspect the electric magnetic valve of the steering system	5/22	レ	
	Inspect the rudder indicator	5/21	1.	
	Inspect the engine remote control device	5/21	1.	
	Operation confirmation of the steering	***************************************	レ	
	device of FB	5/21	レ	
	Operation confirmation of the auto pilot system	5/21	レ	

# **Trainning & Working Report**

To M/s Maritime Wing, National Police of FSM.

We would like to make a report on implementation of trainning and working for 2nd year maintenance Unity II as follows;

FSS

Date	W	Contents	Date		Contents	
	T	Introduction of person in charge and			Launched the Vessel	
		meeting of schedule.			Cleaned the deck and hull.	
	a.m.	Preparation for maintenance parts.		a.m.	Adjusted belt tension of engine PTO	
12th May		Lift-up the boat	19th May		Disassembled the gear box	
2014		Preparation for dock the boat.	2014		Inspected marine toilet	
		Cleaned the hull outside.			Inspected lighting device	
	p.m.	Removed the rudder, propeller and		p.m.	Refer to maintenance of the 2nd year.	
		propeller shaft			There is manifestation of the zina year.	
		Refer to maintenance of the 2nd year.				
	-	Cleaned the hull outside.			Repaired gear box	
		Removed "Nippon Foundation" sticker			Replaced the oil filter	
	a.m.	Replaced the bearing of the shaft bracket		a.m.	Cleaning in cabin.	
13th May		Replaced the seal sturn tube	20th May		Installed the LED lighting in engine room	
2014	-	Installed the propeller shaft and coupling.	2011 Way			
2014		Installed the propeller zinc	2014		Replaced the control unit of auto-pilot sys Engine start	
	n m	Removed the LO cooler of gear box		n m		
	p.111.	Removed the sea water strainer		p.m.		
					Refer to maintenance of the 2nd year.	
		Refer to maintenance of the 2nd year.		<u> </u>	Fach and the sheet	
		Disassembled air cooler and cleaned			Each part checked.	
14th May	a.m.	Removed the fuel injection nozzle	Odth May	a.m.	Started the engine and checked all device	
14th May 2014		Put a "The Nippon Foundation" sticker	21th May		Rechecked capacity of oil and fresh water.	
2014	-	on the hull.	2014		and supply.	
		Disassembled LO cooler of the engine				
		and removed the core		p.m.	Sea trial	
	p.m.	Removed the sea water pump			Annes de la company de la comp	
		L			Refer to maintenance of the 2nd year.	
Control Value of the Control V	-	Refer to maintenance of the 2nd year.		-		
	a.m.	Removed the fuel injection valve and		a.m.	Technical training	
		Adjusted fuel injection pressure			Explained equipment of the boat	
450 84			22th May 2014		Explained each device	
15th May					Explained how to operate each device	
2014		Disassembled sea water pump and replace			Explained remote control system	
		the oil seal, mechanical seal, bearing and			Explained emergency action	
	p.m.	impeller		p.m.	Operation practice	
		Repair the hull (FRP)				
		Refer to maintenance of the 2nd year.			Refer to maintenance of the 2nd year.	
		Repair the hull (FRP)			Technical training	
	a.m.	Painted the bottom of vessel.		a.m.	Maintenance of the boat	
		Installed the fuel injection nozzle and			Maintenance of the accessory	
16th May		adjusted valve clearance.	23th May		Maintenance of the engine and gear	
2014		Assembled and installed the fresh water	2014		Periodical maintenance	
		tank and LO cooler			Troubleshooting	
	p.m.	Inspected the gear box		p.m.		
		Refer to maintenance of the 2nd year.				
					Refer to maintenance of the 2nd year.	
		Assembled and installed the air cooler			23th May 2014	
	a.m.	Replaced the V-belt of the engine alternator	Conf	irmed	by: W	
		Replaced the V-belt of the engine PTO	01			
17th May		Replaced the sea water filter of A/C	Ste	zw?	wa reter	
2014		Exchange the oil and coolant water	Man	ufactu	rer	
		Installed the sea water pump	Marin	пе Ор	erations Div.	
	p.m.	Replaced the fuel filter	Yanı	mar C	Co., Ltd	
		Refer to maintenance of the 2nd year.	KAZUHIRO HASHIMOTO			
			_	7/.	7/ 1//	
			l.	C	HUSTINOLO	
			-		Marine Marine and the second s	





Katsuta Bldg. 5F 1-3-39 Mita Minato-ku Tokyo, Japan 108-0073

May 23 2014

# Name of the list for the participant for annual maintenance work and on the job training of FSS Unity

No.	Print Name	Title
	RICKY ETSE	DECK HAND
	Marvin Obispo	Deck Hand
	Youraleen Mathew	Deck Hand
	David Tewodrose	Engineer
	Willie boy loanis	Deck hand
	)	
	Aser Lucas	Base Techinical Officer

Isami Komeda

Manager/ NBK Corporation Commander

Steward Peter /

Maritime Wing, FSM National Police

# Completion Certificate

# for annual maintenance work (second year) and job training for the FSS Unity in Micronesia

May 23, 2014

TO: The Japan Association of Marine Safety

This is to certify that annual maintenance work(second year) and on the job training for the crew of FSS Unity has been surely conducted by NBK Corporation.

Contractor: NBK Corporation

Name of project Manager: Isami Komeda / NBK Corporation

Name of Engineer: Kazuhiro Hashimoto / YANMAR

Details for maintenance work and job training: As per attached list

Period of the work: May 12 2014 to May 23 2014

Annex: List of Participant

Isami Komeda/ NBK Corporation

Kazuhiro Hashimoto / YANMAR

Approved by

Date

Steward Peter/ Commander

Maritime Wing, FSM National Police

# Acknowledgement of Receipt

(Equipment for "FSS UNITY")

TO: The Japan Association of Marine Safety

I, hereby, acknowledge that the equipment for the small patrol craft "FSS Unity" stated as per attached list are exactly received by the Government of Federated States of Micronesia on the occasion of the annual maintenance work and training of "FSS UNITY".

Date: MAY 23, 2014
Signature
Name Steward Peter
Job Title Commander Maritime Wing
Organization Department of Justice FSM National Police



Head office Katsuta Bldg. 5F 1-3-39 Mita Minato-ku Tokyo, Japan 108-0073

#### May 23 2014

# List of delivery goods for FSS Unity

ITEM NO	区分	名称	仕様 及び 用途	Description	Qty
1	船用品	船体ロゴ	日本財団ロゴ(左舷、右舷、船尾)	New Logo (Nippon Foundation)	1
2	船用品	船底塗料	CMDホワイトペイント DXシロ(4kgx3缶/ctn)	Paint White (4kg x3 tin/ctn)	2
3	舶用品	クラッチ用オイル	クラッチ用オイル SAE-30 24L 分	Cruch oil SAE-30 24L	1
4	舶用品	エンジン用オイル	エンジン用オイル SAE-40 12OL分	Engine oil SAE-40 120L	1
5	舶用品	給油用ポンプ	ポリプロピレン製	Pump for fuel supply	2
6	舶用品	海水ポンプ	エアコン用	Seawater pump for Aircon	1
7	舶用品	海水コシキ用フィルター	エアコン用	Filter for Seawater pump	1
8	舶用品	コシキ用ゴム	エアコン用ゴムパッキン一式	Packing for Seawater pump	1
9	舶用品	船体亜鉛	防食亜鉛 70mm (1.5kg/pc)	Zinc for boat&Shaft	24
10	舶用品	プロペラ亜鉛	防食亜鉛	Zinc for propella	12
11	舶用品	シールスタン用部品	メンテ部品、グランドパッキン1巻、芯出し治具一式	Sealstan Spare parts set	1
12	舶用品	ブラケット支面材用部品	抜出•挿入治具	Bracket Spare parts set	1
13	舶用品	ワイパーアーム	フロント窓用	Wiper arm	2
14	舶用品	プロペラ用キー	プロペラ取付用	Propeller Key	1
15	舶用品	交換バルブ	サーチライト用	Valve for serch light	2
16	舶用品	FBステアリングホイール用グリップ	スピンナーハンドグリップ	Hand crip for FB steering	1
17	舶用品	プラスチックハッチロック	ハッチのカギ	Key rock for Hatch	2
18	舶用品	LEDライト	機関室追加証明	LED Light	2
19	舶用品	エンジン用部品プレフィルター	部品番号#119593-18880	Spare Parts Prefilter	4
20	舶用品	エンジン用部品亜鉛プラグ	部品番号#122780-09320	Spare Parts Zinc Plug	4
21	舶用品	配線用圧着プラグ	配線接続用Bタイプターミナルキット	Wiring Crimp Plug	1
22	舶用品	シャフト用ゲージ	マグネットベースゲージとダイヤルゲージセット	Shaft gause	1
23	舶用品	ステンレス直尺	1Mステンレス製	Stainless still bench rule	1
24	舶用品	両頭ハンマー	プロペラ交換用	The double-headed hummer	1
25	舶用品	充電式ドライバー	メンテナンス用	Cordless tool set	1
26	舶用品	半田ごて コード式	メンテナンス用 Soldering iron	Soldering iron	2
27	舶用品	半田 フラックス入り	メンテナンス用 Soldering lead	Soldering lead	2
28	舶用品	ビルジポンプ	船体据付用	Bilge pump	1
29	舶用品	ぼろ布	エンジンルーム用	Rag	2
30	業務用品	防水カメラ	船底確認及び警備用	Waterproof Camera	1
31	業務用品	水中ライト	船底確認及び警備用	Underwater light	1
32	業務用品	ホース	給水用	Hose	2
33	業務用品	スキャン付プリンター	整備室用	Printer w/scan	1

別紙1 装置品等の写真 ①船体ロゴ



③クラッチ用オイル





④エンジン用オイル



⑤給油用ポンプ





⑥海水ポンプ



⑧コシキ用ゴム



### 9船体亜鉛



⑪シールスタン用部品



③ワイパーアーム



⑤交換バルブ サーチライト用



⑪プロペラ亜鉛



⑩ブラケット支面材用部品



14プロペラキー



16FBステアリングホイール用グリップ



①プラスチックハッチロック



19エンジン用部品プレフィルター



② エンジン用部品亜鉛プラグ

18LEDライト機関室用



② 配線用圧着プラグ





**B2N KIT** 

②シャフトゲージ







24両頭ハンマー



② 充電式ドライバー



18半田ごてコード式、20半田 フラックス入りリード



28 ビルジポンプ



29 ぼろ布



30防水カメラ



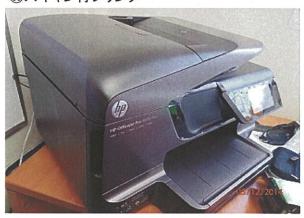
③水中ライト



③ホース



③スキャン付プリンター



別紙2 作業の写真 上架作業 5月12日



5月12日 船底掃除前

船底掃除後、シャフト抜出後、舵抜出後5月12日





上架作業 5月12日









### プロペラ設置前に必要工具をマニュアル本で確認作業 5月13日 プロペラ取付 5月13日





エアコン用、エンジン用海水フィルター取外し5月13日 海水フィルター分解、清掃の指導 5月13日





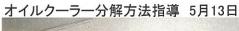
ギアボックスのオイルク -取外し 5月13日



オイルクーラー分解と清掃方法の指導 5月13日

海水フィルター分解、清掃指導 5月13日







整備工程の確認及び復習 5月14日



ロゴの貼付 5月14日



インタークーラー取外し 5月14日



交換前の船体亜鉛と新品の船体亜鉛 5月15日



ハルの清掃 5月14日



ロゴの貼付 5月14日



燃料フィルター取外し 5月14日



燃料フィルター掃除 5月14日



廃棄パイプの掃除 5月15日



舵の差し込み(ラダーマウント)の清掃 5月15日



エアーダクトの清掃 5月15日



海水ポンプ分解指導 5月15日



エンジンオイルクーラーコアの取外し5月15日



プロペラ亜鉛の取付 5月15日



エンジンオイルクーラーの清掃指導 5月15日



海水ポンプ メカニカルシール取外し5月15日



海水ポンプインペラ取外し 5月15日



海水ポンプ組付け 5月15日



油水分離機取外し 5月16日



ペイント前の小型艇 5月14日



海水ポンプ ベアリング抜出の指導 5月15日



プロペラ亜鉛取付後 5月15日



船底塗付作業 5月15日



ペイント後の小型艇 5月15日



# ギアボックスのフィルターと調圧弁取外し 5月16日



摩擦板点検 5月15日



インタークーラー分解指導 5月16日



海水ポンプ インペラ点検 5月16日



入力軸摩擦板分解点検 5月16日



ケースプレート取り外し 5月16日



ギアボックスオイルクーラー組付け 5月16日



ベルト取外し指導 5月16日



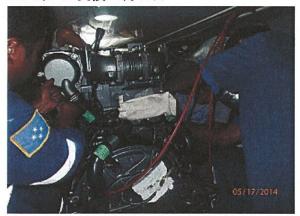
# エンジンオイルクーラーの取付 5月16日



整備作業内容の確認 5月17日



ゴムホース交換 5月17日



エアコン海水フィルター取付



燃料高圧パイプ取付 5月16日



ケースプレートの掃除 5月17日



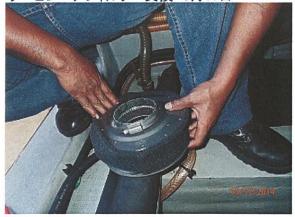
エアダクト組付け 5月17日



ベルトの取付 5月17日



タービンエアフィルター交換 5月17日



整備作業内容の確認 5月17日



下架作業 5月19日



下架中に舵の取付 5月19日



燃料フィルター取付 5月17日



マニュアル本を利用しながら座学研修5月17日



下架作業 5月19日



下架中に架台部分の船底清掃&塗付 5月19日



下架前の舵とプロペラ 5月19日



サポート軸 分解点検 5月19日



サポート軸組付け 5月19日



ギアボックス組付け 5月19日



ギアボックスベアリング 抜出 5月19日





サポート軸ベアリング 焼いて広げる 5月19日



ケースプレート取付 5月19日



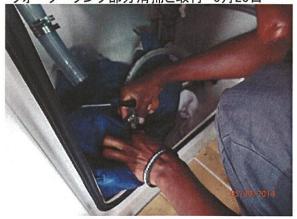
### 整備内容の確認と復習 5月20日



燃料タンクの据付確認 5月20日



ウォータータンク部分清掃と取付 5月20日



ステアリング取付ボルトの確認 5月21日



ワイパーアーム清掃 5月20日



ギャレーのポンプ (ホースバンド交換) 5月20日



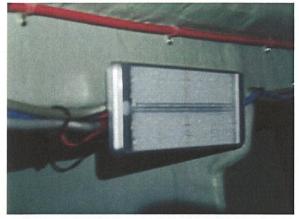
クラッチオイルクーラー取付 5月20日



ステアリング取付ボルトの確認 5月21日



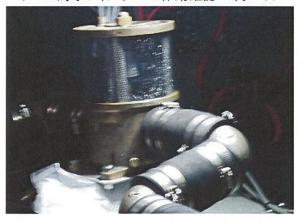
エンジンルームにLEDライト取付 5月21日



ギアボックス 調圧弁取付 5月20日



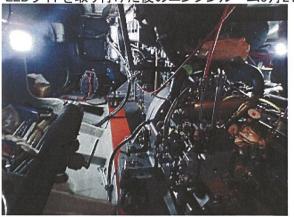
エアコン海水フィルターの作動確認 5月20日



海水ホース、清水ホース使用方法の確認5月20日



LEDライトを取り付けた後のエンジンルーム5月21日



エアコンポンプのカーボンブラシの確認 5月20日



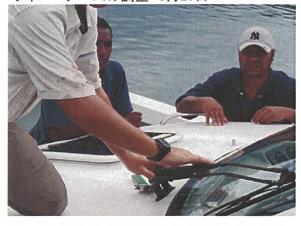
海水ホースの電源の入れ方指導 5月20日



ホースの保管の確認 5月20日



ワイパーアームの調整 5月20日



マニュアル本を利用しての座学研修 5月21日



出航前点検(プロペラ)5月21日



出航前点検(エンジンオイル)5月21日



整備内容の確認 5月21日



200時間毎、500時間毎の整備内容説明5月21日



出航前点検(プロペラ)5月21日



出航前及び日常点検事項の確認5月21日



出航前点検(ライト) 5月21日



オートパイロットの設定説明5月21日



試運転中ギアボックスの圧力検査5月21日



オートパイロット設定後の操作指導 5月21日



出航前点検(ステアリング) 5月21日



離岸のデッキ作業 5月21日



ギアボックスの圧力検査 5月21日



目的地設定指導 5月21日



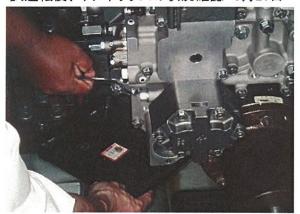
### オートパイロット使用説明 5月21日



試運転後のエンジンルーム確認 5月21日



試運転後、ギアボックスの状況確認 5月21日



船体設備の説明 5月22日



Navnetの目的地設定 5月21日



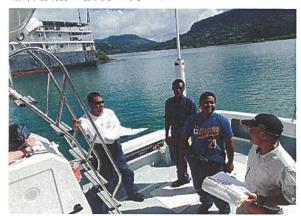
試運転中にHFの操作確認 5月21日



試運転後のギアボックスフィルター 5月21日



船体設備の説明 5月22日



# 船体用常用工具の清掃、整理 5月21日



船体設備の説明 5月22日



電気配線の仕組み説明 5月22日



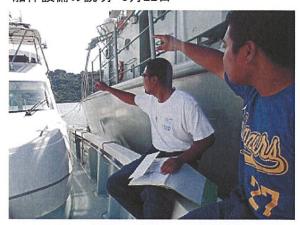
電気配線と各種パネルの説明 5月22日



船体設備の説明 5月22日



船体設備の説明 5月22日



電気配線の分解図の解読 5月22日



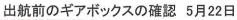
計器盤、電装品の説明 5月22日



電気配線とブレーカーの連携の説明 5月22日



ステアリングワイヤーの確認 5月22日





ステアリングの確認 5月22日



リモートコントロールケーブルボックスの確認5月22日 リモートコントロールケーブルの確認5月22日



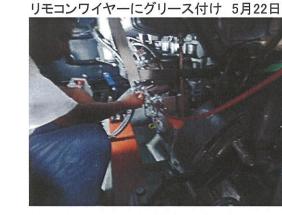




ギアボックスの亜鉛の増し締め 5月22日



機関部の電気回路図解読の説明 5月23日



機関部の電気回路の説明 5月23日



計器盤及びアラームの説明 5月22日



機関部と各種アラームの関連の説明5月22日







SATPhoneの利用方法説明 5月22日



操作確認及びオートパイロット利用方法の研修5月22日



操作確認及び係留の実践 5月22日



新たなロゴ 5月22日



機関部の名称及び点検項目の説明 5月23日



機関部の名称及び点検項目の説明 5月23日



機関部点検箇所の説明(ギアボックス圧力)5月23日 圧力の測り方の説明 5月

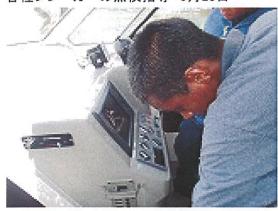




ステアリングの閉まり等、点検の指導 5月23日



各種ブレーカーの点検指導 5月23日



ステアリング、クラッチの動作確認 5月23日



計器盤の確認の指導 5月23日



計器盤、アラームの確認指導 5月23日



在庫部品の管理方法の指導 5月23日



在庫部品の確認と3年目に必要な部品の有無確認 5月23日 在庫部品の確認 5月23日





# マーシャル諸島共和国への 小型パトロール艇2隻目の供与に関する 現地調査報告書 (抜粋)

2014年6月

公益社団法人 日本海難防止協会 調査役 山川 孝之

### — 目 次 —

### 第 I 章 調査結果の要旨

- 1 小型パトロール艇の主要目
- 2 管理体制
- 3 乗組員
- 4 研修
- 5 係留施設
- 6 陸揚げ整備場所
- 7 港湾セキュリティ
- 8 燃料の調達

### 第Ⅱ章 現地調査の概要

- 1 日程
- 2 参加者
- 3 調査の経緯と目的

4 調査の方法

- 5 調査相手(面談者等)
- 6 結果

### 第Ⅲ章 支援実施上の留意点

- 1 乗組員の操船・運行能力の向上
- 2 運用経費の支援
- 3 活用・運用状況のフォロー

### (付属資料)

(省略)

### 第 I 章 調査結果の要旨

マーシャル諸島共和国への小型パトロール艇2隻目の供与に関し、現地調査 を実施した結果、「小型パトロール艇を供与することが適当である」との結論に いたった。

小型パトロール艇の配属が予定されている同国イバイ島には、中央政府及び 地方政府とも、適当なサイズの小型艇は非常に少なく、このため、日本側から 小型パトロール艇を供与することは、行政側及び地域住民にとって非常に有用 であり、官民から大きく歓迎されるところであり、支援の意義が極めて高い。

また、現地には小型艇が非常に少ないため、関係職員の実務での慣熟度が低いと考えられるが、関係職員の徹底した訓練を行うことにより、供与した小型パトロ-ル艇を安全・適切に管理・運用することは可能である。

推奨される小型パトロール艇の主要目及びその管理・運用体制等について、 調査結果は、以下のとおり。

### 1 小型パトロール艇の主要目

イバイ島に配備される予定の小型パトロール艇(2隻目)は、首都マジュロに配備されている「RMIS LOMOR II」(1隻目)より少し大き目にして堪航性をアップし、最高速力を抑えて、燃料タンクを大きくし、航続距離を倍増することが望ましい。また主機関(エンジン)はメンテナンスの観点から1隻目と同じものが望ましい。

具体的な主要目は次のとおり。

- (1) 大きさ:15~17m程度
  - (理由)業務上の凌波性・堪航性、操作性(小回り)、整備・メンテの し易さ、RMI側の要望等を考慮し、2012年11月に供与した小型パ トロール艇1隻目(MRIS LOMOR II)と同型(長さ15m)又はそれ より若干大きい型(長さ17m程度)が適当。
- (2) 最高速力:25ノット程度
  - (理由) 遭難現場等に迅速に駆けつけるための速力を確保しつつ、相当の 航続距離を確保するためには、小型パトロール艇1隻目(30ノッ ト)より若干最高速力を落として、25ノット程度とするのが適 当。
- (3) 航続距離:800海里以上
  - (理由)対象とする海域が広い中で、安全な業務執行を確保するためには、出来るだけ燃料タンク容量を大きくして、小型パトロール 艇1隻目(400海里)の2倍程度の長い航続距離(800海里程度)

を確保するのが望ましい。

(4) 主機関:ヤンマー製6HYM-WET型

(理由) 小型パトロール艇1隻目と同型の主機関を採用することにより、 職員によるメンテナンスのやり易さ、予備品の共用性を担保す るとともに、日本側による整備・修理手配等の確実性確保が望 ましい。

(5)装備品:小型パトロール艇1隻目と同内容

(理由)対応する業務内容が小型パトロール艇1隻目と同様であり、また、 操作やメンテのし易さ等から、1隻目と同一の装備品(通信設備 を含む)の搭載が望ましい。

### 2 管理体制

イバイ島には国家警察の警察署が設置されており、28名の警察官を擁し、 また、地方政府警察官42名と協力して対応しているので、小型パトロール艇 を管理するために、スタッフ及び組織的に特に支障はない。

### 3 乗組員

イバイ島に所在する国家警察官(28名)の中から、小型パトロール艇の運行要員(3~5名)を拠出することは可能。

また、先方によれば「職員のうち、数名は操船できる」とのことだが、同警察署は現在、想定する小型パトロール艇と同サイズの艇を有していないことから、実務での慣熟を伴っておらず、安全な操船や船舶管理及びエンジンの保守等においても、知識及び慣熟度が低いと考えられる。このため、次項のとおり、関係者の徹底した訓練が必要である。

#### 4 研修

前項の実情であることから、供与予定の小型パトロール艇を適正かつ安全 に運航するためには徹底した訓練が必要である。

具体的には、最低2~3名の技能を伴う運行責任者(操船者)の育成が最も重要であり、安全運航確保のためには、これに尽きる、と言っても過言ではなく、イバイ島の実情に鑑みれば、この点こそが一層重要である。

具体的な訓練実施の方法としては、イバイ島へ2隻目を供与する前に、2隻目の運行・整備要員を十分なレベルにしておく必要があるので、マジュロにある1隻目を使用して、2隻目の要員に対して予め集中訓練を実施しておくことが望ましい。2~3名をマジュロに呼び、1週間から10日程度の集中訓練の実施が想定される。

また、2隻目の供与後においても、継続して訓練実施の企画支援や経費支援等が必要である。

### 5 係留施設

イバイ島には大きなコンテナ・バースがあるなど、港湾施設はよく整備されている。小型パトロール艇2隻目の係留予定地は、凹型の埠頭最奥部で静穏度もあり、水深も12mを確保でき、十分な場所である。

ただ、ビット等の係留施設が古く、錆が出たり、破損しているなどのため、 適切な状態ではないので、これらの改修・整備が必要である。

#### 6 陸揚げ整備場所

港湾荷役事業者が複数のクレーン車(最大45トン吊り上げ)を有しており、また、埠頭には小型パトロール艇を陸揚げして保管するスペースは十分にあり、小型パトロール艇の定期整備等の実施に支障はない。

#### 7 港湾セキュリティ

港湾施設の出入り口には24時間警察官常駐の検問所を有するなど、所要のセキュリティ体制が執られており、イバイ島の一般的な良好な治安状況と相まって、小型パトロール艇の港湾での係留及び管理について、特別な防護措置は必要ないと思われる。

#### 8 燃料の調達

イバイ島所在の港湾荷役事業者が各種クレーン車やコンテナ移動車両等の大型の重機を運用しており、そのため、シンガポールで精製した高品質のディーゼル油を輸入して港付近に多量に保管しており、小型パトロール艇にもこの燃料油を提供可能である由なので、燃料調達上の不都合は特にない。

#### 第Ⅱ章 現地調査の概要

#### 1 日程

現地調査の日程は、別紙の資料のとおりである。

現地マーシャル諸島共和国での実質的な調査日数は、首都マジュロで2日間、 現地のイバイ島にて1日半であり、この間に所要の調査を適切に実施すること ができた。

### 2 参加者

今回の現地調査に参加したメンバーは次のとおり。

下記②及び③の各人にもご協力いただいた。

- ① 山川孝之(公益社団法人日本海難防止協会 調査役) (公益社団法人笹川平和財団からの依頼出張)
- ② 白﨑俊介(公益社団法人日本海難防止協会 シンガポール事務所長)
- ③ 木村嘉仁(公益社団法人日本海難防止協会 シンガポール事務所副所長)

### 3 調査の経緯と目的

公益社団法人日本海難防止協会が、公益財団法人日本財団と協力して実施している「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」において、2012年、マーシャル諸島政府に対して小型パトロール艇等の支援を実施した。その結果、同小型パトロール艇が性能が良く、また、同国の業務によく適合し、極めて重宝に活用されてきた。

2013年12月、小型パトロール艇の供与1年度の定期整備の実施、及び支援施設の活用状況調査等のため、同国を訪問した日本側関係者に対して、ハイネ法務大臣(当時)より、2隻目供与の要請があった。

その後、2104年2月、同国のロヤック大統領が来日した際、日本財団笹川平会長を訪問し、小型パトロール艇1隻目のお礼を述べるとともに、2隻目の供与を要請した。

これを受けて、今回の現地調査となったものである。

現地調査の目的は、所謂、feasibility Studyである。現地のニースを調査し、どのような機能とサイズ・性能の小型パトロール艇を供与することがベストか、必要か、そして、その小型パトロール艇を適切・安全に運行管理するためには、どのような組織整備、要員整備、そして施設整備が必要か、等について、現地を訪問してその状況を具に調査・観察し、検討するものである。

### 4 調査の方法

上記の目的を達成するため、予め、マーシャル諸島の現地において調査・確認すべき事項のリストを作成し、その英文版を「Questionnaire」として、訪問前に送付し、相手方において、できるだけ、予めの認識と答えを準備しておいて貰う方法とした。

また、feasibility Studyとは、必ずしも、現地においてのみ行う調査ではないので、予め、及び、帰国後、関係者からの情報を積極的に得て、feasibility Studyの結果にできるだけの客観性と正確性を期した。

### 5 調査相手(面談者等)

マーシャル諸島における、主な面談者及び訪問施設等は以下のとおり。

### (1) マジュロにて:5月27日(火)、28日(水)

- 〇トニー・デブルム外務大臣(クワジェリン環礁選挙区の議員、国家政策 のキー・パースン)
- 〇トーマス・ハイネ運輸通信大臣(前法務大臣、2隻目供与の元々の要請者、 元国家警察副長官、元オーストラリア供与巡視船の船長、同国の海上保 安情勢及び船舶に非常に詳しい)
- 〇ジョージ・ランウィ国家警察長官(小型パトロール艇を運用管理するSEA PATROLの総元締め、本件プロジェクトの当初からの協力者)
- 〇ジム・フィリッポ国家警察副長官(本件調査の受け入れ窓口、アポイントメント取得や日程調整、イバイ島での現地調査へも同行して協力)
- 〇ジーバス船長(海上警備局SEA PATROLの責任者、オーストラリア供与の 巡視船の船長、現地の海上保安業務事情に詳しい)
- 〇ウェイン・アンジャイン船長(小型パトロール艇1隻目の船長、同艇の業務上の使い方に詳しい)
- 〇在マーシャル諸島共和国日本国大使(安細大使以下、大使館員) (任国情勢、イバイ島情勢、日本との関係等に詳しい)
- 〇「MJCC」(首都マジュロに2世代に亘って居住する日本人が経営する海事・観光・雑貨店)
- ○「RAYCREW」(日本人経営のダイビング・ショップ) なお、ロヤック大統領は米国出張中、モリス法務大臣は国内出張中に つき、面談できなかったが、本件調査結果には大きな影響はない。

#### (2) イバイ島にて:5月29日(木)、30日(金)

○マイク・カブア大酋長(国会議員)(イバイ島所有者)

- ○国家警察イバイ警察署長
- OMIMRA (海洋資源局) イバイ島支所 (施設調査)
- 〇クワジェリン環礁地方政府幹部 (複数人)
- 〇イバイ市長 (代理)
- 〇港湾荷役事業者(営業部長と面談、クレーン車、SOLAS岸壁、燃料保管タンク等を実地調査)
- ○国立総合病院(同国第2の経済圏の中心地にある唯一の総合病院)
- 〇イバイ港 (小型パトロール艇の係留予定岸壁を含む)
- 〇市内見学(発電所、電話局、スーパーマーケット等)

#### 6 結果

現地での調査において得られた直接的な情報は、「調査結果のまとめ」として資料化した。(別添資料参照)

なお、マジュロ及びイバイ島で面談した全ての者が、当方が想定している長さ17m程度のFRP艇の供与を強く要請した。その理由として「そのサイズのFRPタイプ船が当国には最も相応しい(manageable)」と表現したのが印象的である。

現地での調査結果から導かれる結論は、第 I 章「調査結果の要旨」に記載したとおりである。

#### 第Ⅲ章 支援実施上の留意点

第 I 章において、「イバイ島配備の小型パトロール艇を供与することが適当である」と結論したが、供与小型パトロール艇を長期間に亘り、安全・適切に運行管理し、支援の効果を最大限にするためには、留意すべき点がいくつかある。

### 1 乗組員の操船・運行能力の向上

小型パトロール艇を安全・適切に運行管理し、相手国政府及び国民のために活用してもらうためには何よりも操船者である船長及びその乗組員の資質の確保・向上が必須である。

特にイバイ島においては、非常に小さいボートの操船しか慣れておらず、 想定される小型パトロール艇のクラスの操船には慣れていないため、乗組員 に対する徹底した訓練を行う必要がある。

#### 2 運用経費の支援

同国においては、小型パトロール艇等の施設を一時的に供与しても、その 運航管理に必要な予算を確保することは極めて困難な状況にある、このため、 既に供与した小型パトロール艇の1隻目と同様の考え方により、供与施設の 運用経費も含めて支援することが肝要である。

具体的には、燃料費の支援、定期整備費の支援、衛星通信経費の支援、及び関係する研修訓練の支援等である。

#### 3 活用・運用状況のフォロー

同国は、経済的、文化的、歴史的にも、マジュロ環礁を中心とした東側と、クワジェリン環礁(イバイ島)を中心とした西側の2つに大別される。今回、小型パトロール艇の配備予定地はイバイ島である。同国第二の経済圏の中心ではあるが、首都マジュロとは行政組織、経済活動レベル等において格段に低いのは事実である。また、国家警察の警察官も全員イバイ島出身者でイバイ島居住者であるなど、どうしても地方色が強く、マジュロの中央政府とは遠い距離感があること否めない。

これまでは、本プロジェクトにおいては、何れの小型パトロール艇も、ミクロネシア3国のそれぞれの中央政府に供与し、首都に配備するものであったが、今回は、首都以外の地に配備する初めてのケースとなる。

これは、諸々の条件的に首都への配備する場合よりも不利な条件となるので、小型パトロール艇の供与後においても、継続してその活用・運用状況をフォローし、要すれば、それを改善するための迅速な対応が必要である。

### 日本海難防止協会

### 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」 小型パトロール艇(「BUL」、パラオ共和国向け)海上試運転の状況(1)

月日:2014年6月4日(水)

場所:ヤンマー東日本ボートセンター

(横浜市)



小型パトロール艇「BUL」



キャビン入口の日本財団ロゴ



赤外線カメラ



操舵部及び計器類



ヤンマー関係者より説明



赤外線カメラ(温度別表示)

### 日本海難防止協会

### 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」 小型パトロール艇(「BUL」、パラオ共和国向け)海上試運転の状況(2)

月日:2014年6月4日(水) 場所:ヤンマー東日本ボートセンター (横浜市)



取舵一杯



面舵一杯の時の航跡



バウスラスター装置操作盤 (左上のスティック)



面舵一杯



最高速力29.0kntを確認



バウスラスター装置起動時の噴出流

### 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」

パラオ: 小型パトロール艇2隻目「BUL」: 現地海上試運転及び 引渡し完了(1)

> 月日:2014年7月7日(月) 場所:パラオ共和国、コロール



小型パトロール艇「BUL」全景



業務用装備:サーチライト、赤外線監視装置(FLIR)、 拡声器



タッチパネル方式の新しい電子海図装置



係留施設の整備:浚渫及び赤色のビット設置

### 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」

### パラオ: 小型パトロール艇2隻目「BUL」: 現地海上試運転及び 引渡し完了(2)

月日:2014年7月7日(月) 場所:パラオ共和国、コロール



海上試運転中の様子



衛星電話で日本海難防止協会の事務所にテスト電話、 結果良好



最高速での左旋回



最高速での右旋回

### 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」

### パラオ: 小型パトロール艇「KABEKEL M'TAL」: 納入2年後定期整備の完了確認(海上試運転)

月日:2014年9月11日(木) 場所:パラオ共和国、コロール



小型パトロール艇 : 1隻目「KABEKEL M'TAL」と2隻目「BUL」



海上試運転で最終確認:ヤンマー技師、パラオ海上警察署長立会い



冷却水温や油圧等は正常



最高速30. 1ノットを記録(新品時と同性能)



(NANYO BOEKI KAISHA, LTD) Katsuta Bldg. 5F, Mita, 1-3-39, Minato-Ku, Tokyo, Japan 108-0073 TEL: 81-3-5419-2678 FAX: 81-3-5419-2680 E-mail:kuri@nbk.co.jp

2014年9月17日

東京都港区虎ノ門1丁目1番3号 TEL03-3502-2231 公益社団法人 日本海難防止協会 理事長 中畑 美男 様

> 東京都港区三田 1-3-39 TEL 03-5419-2678 南洋貿易株式会社 企画開発部 米田

### 業務完了届

「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」における、供与小型 艇「Kabekel M'tal」の納入2年後定期整備及び整備指導(研修含む)(パラオ共 和国)の委託契約書(2014年6月27日)第5条(業務完了届)に基づき、委託業 務を完了した事を届けます。別添、業務実施報告書を参照ください。

以上



2014年9月17日

### 公益社団法人 日本海難防止協会 御中

南洋貿易株式会社 (企画開発部 米田) 港区三田1-3-39勝田ビル5F TEL:03(5425)1939

### 業務実施報告書

「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」における、供与小型艇「KABEKEL M'TAL」の納入2年後定期整備及び整備指導(研修を含む)(パラオ共和国)に関して、仕様書5-(6)に基づき、業務実施状況の報告を致します。

### (業務実施内容)

1、実施場所: 供与小型艇「Kabekel M'tal」(パラオ共和国)

2、実施期間: 2014年9月3日~9月12日

3、整備指導業務に携わった技術者: ヤンマー株式会社マリン事業部 橋本和浩氏 ヤンマー舶用システム株式会社 小川 徹氏

4、装置品等、納品物は、別紙1納品物の写真を参照。

5、整備指導については、別添"JOB REPORT (Maintenance of the 2nd year and Training)"及び 別紙2作業風景の写真を参照。

6、整備指導を受けた技術者: Mr. Fenally Seklii (Engineer)

Mr.Thyron Rdiall (Engineer) Mr.Mamoru Dengokl (OJT)

Mr.Kamrul Zaman (OJT/Engineer)

Mr.Gwyn Temol (OJT)
Mr.Biusech Tabelual (OJT)

Mr.Rodney Wong (Engineer/ Captain)

Mr.Ruluked Orak(OJT)

7. 整備指導者からの所見: 別紙「技術報告書」を参照。

以上

### 南洋貿易株式会社 御中

尼崎市塚口本町5丁目3番1号 ヤンマー株式会社 マリン事業部 営業部 技術Gr

承認	審査	作成
明		

### 技 術 報 告 書

貴社益々御隆盛のこととお慶び申し上げます。 下記の通りご連絡致しますので、宜しくお願い申し上げます。

出張目的	出張目的 2年目定期整備工事と技術トレーニングの実施						
出張期間	2014年	9月 3日	∃ ~	2014年	5 9月 1	28	
出張場所	パラオ共	和国 マラ	カル				
出張者	ヤンマー	マリン事業	部 橋本 和	□浩、ヤンマ	マー舶用シ	ステム	リリニ 徹
	対象機						
船体	船体番号	搭載機関 機関番号 減速逆転機 減速逆転機番				減速逆転機番号	
ヤンマー EX46.FB	5027	6HYM	I-WET	1837	YXH-130-5		00799
船名	船籍港	船体所有者					
KABEKEL M'TAL	KABEKEL M'TAL Malakal Division of Marine Law Enforcement Ministry of Justice, Palau						
船体用途納入年月日使用時間					使用時間		
パトロール船 平成24年 8月 979HR					979HR		
1、状況(実施事項) 2、所見 3、その他							

#### 1、状況(実施事項)

パラオ共和国納入艇の2年目定期整備工事の実施。

(定期整備項目に基づき実施:詳細は別紙 "メンテナンス実施事項"を御参照下さい。) 座学、及びOJTによる技術研修、技術指導の実施。

(船体設備の説明。電装品の説明、及びOJTによる操作実施。電装品の説明と操作方法、 故障時の対応説明。共同作業による点検項目の説明、及び整備項目の実施。 故障診断の実施、及び緊急時の対応説明、他)

#### 2、所見

前回の2隻目『BUL』納艇時から、あまり時間が経過していない中での2年目定期整備工事であり、現地スタッフとの関係も構築出来ている状態であった。

前回、基本的な技術研修と今回『KABEKEL M'TAL』で実施する工事内容を事前に説明していたおかげで、必要工具、必要部品等の準備もスムーズであった。

点検整備作業については、主としてOJTメンバーの参加ではあったが、各人それぞれが 意欲的に取り組んでおり、技術チームとしては良い雰囲気であった。

技術力においても、何度か説明すれば理解しており、現場経験を積む事で船体設備、機関を任せられる優秀な技術者になれるものと思われます。

ただ、日常点検における重大なミス(オイルキャップの締め忘れ)等も見受けられ、今一度 各人が慎重で確実な業務を徹底することが必要であると考えます。

天候の悪い日が続いたが、前回増設した『オーニングテント』で雨風をしのげ、天候に 関係なくある程度の効率を上げられたのは良かったと感じた。

部品保管用倉庫を建設中であり、何とも言えないが、『KABEKAL M'TAL用』『BUL用』と部品を整理して保管する必要があると思いました。

#### 3、その他

整備点検において、クラッチについては前回の打合せ通り、部品(ケースプレート)を交換し、内部点検を実施しております。

また、オートパイロットシステムについてもソフト変更済のコントローラーに交換し、 作動確認も確認しております。

今回の2年目定期整備工事において、多大なるご協力を頂きありがとうございました。

### JOB REPORT

Work number:

### YANMAR CO.,LTD.

Division of Marine Law Enforcement

User Name: Ministry of Justice, Palau

Marketing&Sales Dept. Marin Operations Div. 5-3-1, Tsukaguchi-Honmachi, Amagasaki-City, Hyogo

Japan 661-0001

Tel:+81-6-6428-3261 Fax:+81-6-6421-2202

Boat type : EX46.FB S/# 5027

Vessel Name: KABEKEL M'TAL

Engine type: 6HYM-WET(L) E/# 1837

**Running Hours: 979** 

Lub.Oil Type: #40

Fuel.Oil Type:Diesel

12th Sep 2014 Date:

Place: Malakal

Service Engineer: K, Hashimoto T, Ogawa

Trial Run Completion day: 12th Sep 2014

em	Description
Su	bject: Maintenance of the 2nd year and Training
	①Condition ②Job Comments ③Result ④Comments ⑤Remark
①	We carried out 2nd year maintenance of the boat, the engine, and all equipment
	Almost all equipment is kept good condition.
2	Additional job is the following.
	(1) We replaced the "Case plate" of the gear box.
	(2) We replaced the "Control unit" of the Auto-pilot system.
	(Because software is renewed.)
	(3) We installed two LED lightings on engine room.
3	The repair job and sea trial finished without trouble.
	Please refer to the our job report.
4	We carried out technical training.
	Details as below.
	(1) Explained each equipment of the boat.
	(2) Explained how to operate each equipment by on the job training.
	(3) Explained electric wiring and electric device.(one by one checked.)
	(4) Explained engine maintenance and troubleshooting.
	(5) Explained emergency action.
	I think your staff understand about all system of the boat more than before.

Working Date

From	To		
3rd Sept 2014	12th Sept 2014		
3rd Sept 2014	12th Se		

(Attention) Accept the construction article

Comfirmation day 9/12/14

Signature of Customer LT Thomas Tutti /Chief Officer **DMLE**, Ministry of Justice, Palau

### EX46FB 2nd year Maintenance (KABEKEL M'TAL)

Vessel 12th Sep

	Item	Date	Done	Remark
Vessel			Y District	
	Clean the hull outside	3rd Sep	V	
	Bottom paint coating	4th Sep	V	
	Replace zinc anode plates	5th Sep		
Engine Rooi		зиг вер		
Engine Rooi	Inspection of vibration isolating rubber			
	foundation bolts	9th Sep	1	
	Touridation boils			
	Inspect the exhaust flange attachment bolts	6th Sep		
	Inspection of vibration isolating rubber		V	
		0.1.0		
	(Measuring the height of the vibration	9th Sep		
	isolating rubber)		レ	
	Inspection or replacement of the exhaust	6th Sep		
	rubber hose	от оср	レ	
	Inspection or replacement the main engine	3rd Sep		
	front drive belt	31d Sep	レ	Replacement
	Inspect the stern tube gland packing	5th Sep	レ	Replacement
	Inspection or replacement the stern tube	2.10		
	seal	3rd Sep	V	Replacement
	Inspect the carbon brush	5th Sep	V	
	Clean the sea water strainer	4th Sep	V	
Fuel Tank				
raer raint	Inspect the fuel tank installation condition	9th Sep	V	
	Inspection or replacement of the filling	эш бер		
	rubber hose	9th Sep	V	
Ctown Amon	190		Da Silver i Native Chicago	
Stern Arrang	gement Parts	2-10		
	Remove the propeller, Inspection, Install	3rd Sep	ļ	
	Inspect the propeller shaft	3rd Sep	//	
	Inspection or replacement of the cock board	3rd Sep		
	of the shaft bracket		レ	Replacement
	Inspect rudder fixed bolt	5th Sep	レ	
	Remove the rudder and inspect the rudder	5th Sep		
	bearing	эш эер	レ	
	Inspect hydraulic cylinder fixed bolt.	6th Sep	レ	
	Apply grease to parts	6th Sep	レ	
	Replace zinc anodes of the propeller shaft	3rd Sep	レ	Total 3 Zinc Installed
Steering De				
	Inspect the helm pump installation bolt	8th Sep	V	
	Operation confirmation of steering device,			
	check or replacement of the hydraulic oil,	10th Sep	$\nu$	
Electric Dev				
	Inspect the wiper blade	9th Sep	V	
Other	mopest the riper oldes	7th Sep		
Other	Inspect the leakage of each parts	10th Sep	1,	
		8th Sep	1,	
	Apply grease to parts		12	
	Re-tightened the hose clamps	8th Sep	12	
	Inspection of the sea water system	9th Sep		

### EX46FB 2nd year Maintenance (KABEKEL M'TAL)

Engine 12th Sep

Engine	Item	Date	Done	Remark
Fuel Syster	n			
	Drain fuel-water separator deposit and	541. C		
	water	5th Sep	レ	
	Replace fuel filter and fuel-water separator	4th Sep	,	
T 1 ' '			V	
Lubrication		5.1. 6		
	Replace oil filter	5th Sep	V	
	Clean oil cooler	4th Sep	V	
	Replace oil (Engine only)	6th Sep		
Cooling Se	a Water System			
	Replace seawater pump impeller	5th Sep	V	
	Inspect sea water pump Replace zinc anodes	5th Sep	V	
	Replace zinc anodes	4th Sep	レ	
	Clean seawater system	5th Sep	V	
Coolant W	ater System			
	Replace coolant water	6th Sep	レ	
	Clean coolant system	4th Sep	レ	
	Inspect the thermostat	5th Sep	レ	
Fuel Inject	ion Pump and Fuel Injection Nozzle			
	Check injection timing	10th Sep	V	
	Replace the injection nozzles	5th Sep	レ	
Cylinder H				
-,	Check valve clearance	5th Sep	V	
Turbochars	ger and Air Duct			
rarooonarg	Clean the air cooler	4th Sep	Γ	
	Clean and replace the air filter	4th Sep		
Control De		тиг вер		
Control De	Checking and adjustment of the remote			ANYALIS
	1/23	9th Sep	1,	
	control handle			
	Checking or replacement of the remote	9th Sep	1 -	
D	control cable			
Piping		0.1 G	1	
	Re-tighten hose clips Checking or replacement of the rubber	8th Sep	V	
	201		,	
E and a	hoses	8th Sep		Replacement
Electric De				
	Check battery electrolyte level	8th Sep	V	
	Check wire-harness	9th Sep	レ	
	Check alternator drive belt tension	5th Sep		
Gear Box				
Lubrication				
	Replace the lub. Oil	8th Sep	レ	
	Replace lub. Oil filter	8th Sep 8th Sep	レ	
	Clean the lub.oil suction strainer	8th Sep	レ	
	Check and clean the magnet plug	8th Sep	レ	
Cooling Se	ea Water System			
	Replace zinc anodes	4th Sep	V	
	Check the lub.oil cooler	4th Sep	レ	
Control De		·		
	Checked remote control cables	9th Sep	I V	
		P		

### EX46FB 2nd year Maintenance (KABEKEL M'TAL)

Boat Accessories 12th Sep

	Item	Date	Done	Remark
Air Conditi	oner			
Compresso	r			
i i	Inspect installation bolts	6th Sep	V	
	Inspect the high pressure pipe	9th Sep	ν	
	Inspect the terminal bolt	8th Sep	$\nu$	
Cooling Ur				
cooming or	Inspect the indoor unit installation bolts	9th Sep	V	
	Replace the air filter for the indoor unit	6th Sep		
	Check or replace the seawater pump	9th Sep		
	Clean the sea water filter	4th Sep		Replacement
	Inspect the hose clips	9th Sep		Тершент
Marine Toi		эш зер		
	ict		an Space of Section 2015	
Pump	To an and the simulation held	Otla Care	I.	
	Inspect the installation bolt	8th Sep	V	
	Check the wiring and piping	8th Sep		
	Operation confirmation	8th Sep		
Fresh Wate			SSS CONTRACTOR OF THE CONTRACT	Control of the State of the Control
Fresh Wate				
	Inspect the installation bolt	8th Sep	レ	
	Check the water tank and piping	8th Sep	レ	
	Operation confirmation	8th Sep	レ	
Sea Water	Device			
Sea Water	Pump			
	Checking or replacement of the sea water impeller	8th Sep	V	Replacement
	Check the Kingston valve and 3way valve	5th Sep	レ	
	Check the sea water hose and joint	5th Sep	レ	
Electric De				
Breaker Pa	nel and Switch Panel			
	Check the each fuse and breaker	9th Sep	レ	
	Check the each wiring	10th Sep	レ	
	Check the button of the switch panel	9th Sep	V	
Lighting D		Jul Sep		
Digitting D	Check the Navigation light and other	9th Sep	V	
	Operation confirmation of the patrol light	эш бөр		
	and search light	9th Sep	Ĭ.	
	Check the room light	9th Sep	Iz.	
Damata Ca	ontrol Device	9th Sep		
Kemote CC				
	Inspect the electric magnetic valve of the	10th Sep	1 -	
	steering system		V	
	Inspect the rudder indicator	9th Sep		
	Inspect the engine remote control device	9th Sep	V	
	Operation confirmation of the steering			
	device of FB	10th Sep	レ	
	Operation confirmation of the auto pilot system	11th Sep	V	

## Completion Certificate of Maintenance Work and Training of Maintenance for KABEKEL M'TAL(2<sup>nd</sup> year)

Sep 12, 2014

TO: The Japan Association of Marine Safety

This is to certify that maintenance work and training of maintenance for Kabekel M'tal has been surely conducted by NBK Corporation and YANMAR Co.,Ltd,.

Contractor: NBK Corporation

Name of project Manager: Isami Komeda / NBK Corporation

Name of engineer: Kazuhiro Hashimoto

Details for maintenance work and training of maintenance: As per attached list

Details for the name of the products which received: As per attached list

Period of the training: Sep 3 to Sep 12 2014

Date of Completion: Sep 12 2013

Annex: List of Participant

Isami Komeda/ NBK Corporation

Kazuhiro Hashimoto / YANMAR

Approved by

DATE

9/12/14

Ministry of Justice, Republic of Palau

Division of Marine Law Enforcement

Chief Officer LT. Thomas Tutii

### Acknowledgement of Receipt

(Equipment for "KABEKEL M'TAL")

TO: The Japan Association of Marine Safety

I, hereby, acknowledge that the equipment for the small patrol craft "KABEKEL M'TAL" stated as per attached list are exactly received by the Government of the Republic of Palau on the occasion of the annual maintenance work of "KABAKEL M'TAL".

Date: 7/12/14
Signature Amo Ado-
Name Thomas Tutti
Job Title Chief, Department of Marine Law Enforcement
Organization Government of Palau, Mistry of Justice

List of Equipment for KABEKEL M'TAL

A STATE OF THE STA	DESCRIPTION	名称	Qty
1	New Logo (NIPPON FOUNDATION)	船体ロゴ	1
2	Crutch oil SAE-30 20L	クラッチ用オイル	1
3	Engine oil SAE-40 120L	エンジン用オイル	1
4	Steering oil 4Lx2	作動油	1
5	Zinc for boat	船体亜鉛	24
6	Zinc for propeller	プロペラシャフト亜鉛	12
7	FRP repair mat	船体補修用FRP(マット、クロス)5M	1
8	FRP repair gel	FRP樹脂用硬化剤 200ml	1
9	Seawater Pump for Aircon	海水ポンプ	1
10	Filter for Seawater Pump	海水コシキ用フィルター	1
11	Seal Stan Spare parts set	シールスタン用部品	1
12	Bracket Spare parts set	ブラケット支面材用部品	1
13	Wiper arm	ワイパーアーム	2
14	Propeller Key	プロペラ用キー	1
15	Valve for search light	交換バルブ	2
16	LED Light	LEDライト	2
17	Crimp plug terminal	配線用圧着プラグ	1
18	Bilge Pump	ビルジポンプ	1
19	Cloth for cleaning	ぼろ布	2
20	V belt	前部駆動用Vベルト	1
21	FB steering grip	FBステアリングホイール用グリップ	1
22	Key rock for Hatch	ハッチロック金具	2
23	Silicon (white, black clear)	シリコン(ホワイト、ブラック、クリアー)	1
24	Silicon gun	シリコンガン	1
25	Marine grease	マリングリス	5
26	Grease gun	グリスガン	1
27	Paper cloth	ペーパーウエス	3
28	Cap and screw	ねじキャップセット(ねじ、座金、キャップ)	1
29	Vinyl tape	絶縁ビニールテープ	5
30	Oil Jug	オイルジョッキ	1
31	Oil feed	オイル差し(ジェットオイラー)180ml	2
32	Wire brush (brass)	ワイヤーブラシ(真鍮製)	5
33	Wire brush	ワイヤーブラシ(ベベル式)	2
34	Parts cleaner	パーツクリーナースプレー	10
35	Rubber cushion for Hatch	ハッチ用ゴムクッション	1
36	Hose band (20)	ホースバンド(20)	5
37	Hose band (30)	ホースバンド(30)	5
38	Self igniting light	自己点火灯	1
39	Zinc plug	P/# 122780-09320 亜鉛プラグ	2
40	Pre-filter	P/# 119593-18880 プレフィルター	2
41	P/# 126630-42611 PK	P/# 126630-42611 PK	1
42	P/# 177510-02120 PK	P/# 177510-02120 PK	1
43	P/# 177510-02242 PK	P/# 177510-02242 PK	1
44	Friction plate	P/# 177510-03530 摩擦板	9
45	Steel plate	P/# 177510-03300 スチールプレート	8
46	Sealing	P/# 177061-03200 シールリング	4
47	P/# 177510-04723 PK	P/# 177510-04723 PK	1
48	P/# 177061-04520 PK	P/# 177061-04520 PK	1
49	Coast Guard Logo	Coast Guard Logo	1

別紙 1 納品物の写真



③エンジン用オイル



⑤船体亜鉛



⑦船体補修用FRP, ⑧FRP樹脂用硬化剤



②クラッチ用オイル



4作動油



⑥プロペラシャフト亜鉛



⑨海水ポンプ



⑩海水コシキ用フィルター



12ブラケット支面材



14プロペラキ



16LEDライト



⑪シールスタン用部品



③ワイパーアーム



15交換バルブ



⑪配線用圧着プラグ



18ビルジポンプ



20前部駆動用Vベルト



②ハッチロック金具



24シリコンガン



19ぼろ布



②FBステアリングホイールキャップ



②シリコン(ホワイト、ブラック、クリアー)



25マリングリス



### 26グリスガン



28ねじキャップセット



30オイルジョッキ



③パーツクリーナー



⑦ペーパーウエス



29絶縁ビニールテープ



③オイル差し



③ ハッチ用ゴムクッション



③ホースバンド(20)、③ホースバンド(30)



39亜鉛プラグ



④)パッキン# 126630-42611 PK



43パッキン





④プレフィルター



④パッキン# 177510-02120 PK

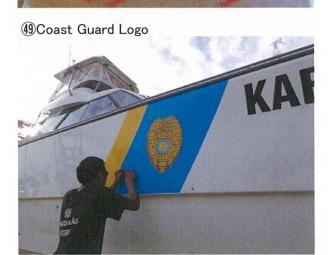


44摩擦版



### 45スチールプレート





46シールリング



48パッキン# 177061-04520 PK



別紙 2 作業風景の写真 上架用クレーンの組立て(9月2日)



上架作業(9月3日)



上架作業(9月3日)



プロペラ取外し(9月3日)



上架作業(9月3日)



上架中、ラダーの取外し(9月3日)



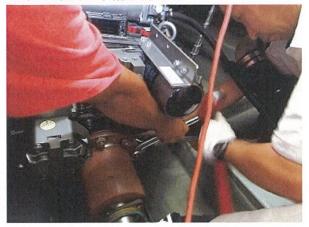
上架作業(9月3日)



プロペラ取外し、船体亜鉛取外し(9月3日)



### シャフト取外し準備(9月3日)



シャフト取外し(9月3日)



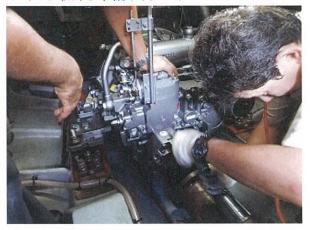
シャフト取外し(9月3日)



ラダーの掃除(9月4日)



シャフト取外し準備(9月3日)



シャフト取外し(9月3日)



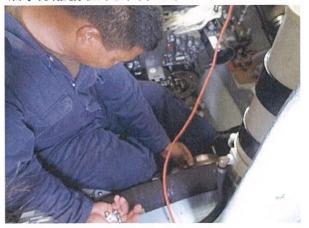
プロペラ磨き(9月4日)



ブラッケットコックボード交換(9月4日)



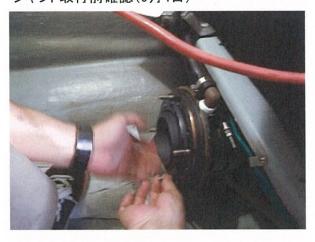
油水分離機取外し(9月4日)



Vベルトの取外し(9月4日)



シャフト取付前確認(9月4日)



シャフト取付(9月4日)



油水分離機オイル取出し(9月4日)



油水分離機取外し(9月4日)



シャフト取付(9月4日)



シャフト取付(9月4日)



### Vベルト取外し(9月4日)



コーストガードストライプシール取付(9月4日)



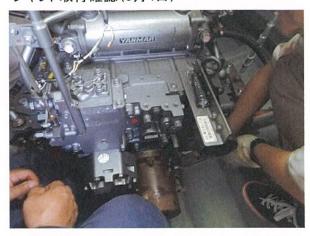
プロペラ取付(9月5日)



プロペラ亜鉛取付(9月5日)



シャフト取付確認(9月4日)



コーストガードストライプシール取付(9月4日)



プロペラ取付(9月5日)



プロペラ亜鉛取付(9月5日)



### 作業内容の打合せ(9月5日)



クーラントの抜き取り(9月5日)



船底塗布(9月5日)



ロゴシール取付(9月5日)



燃料パイプ点検(9月5日)



抜き取ったクーラント(9月5日)



船底塗布(9月5日)



ロゴシール取付(9月5日)

燃料フィルター、エアコン海水フィルター取外し(9月5日)



プロペラ窓の取外し(9月5日)



インタークーラ取外し(9月5日)



インタークーラーコアの取外し(9月5日)



インタークーラー取外し(9月5日)



プロペラ窓の清掃(9月5日)



インタークーラーコアの取外し(9月5日)



インタークーラーコアの清掃(9月5日)



バルブクリアランス調整(9月5日)



クラッチのオイルクーラー清掃(9月5日)



燃料噴射弁圧力確認&調整 (9月5日)



FRP修理(9月5日)



ラダーマウントの清掃(9月5日)



サーモスタットケース分解と清掃(9月5日)



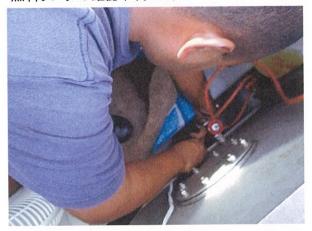
燃料噴射弁圧力確認&調整 (9月5日)



海水ポンプ分解メカニカルシール交換(9月5日)



燃料タンクの確認(9月5日)





FRP修理(9月5日)



海水ポンプ 分解 (9月5日)



ラダーに亜鉛を取付(9月5日)



船体亜鉛の取付(9月5日)



海水ポンプ 分解 (9月5日)





ペイント後の船底(9月5日)



海水ポンプのインペラ組付け(9月5日)



海水ポンプ組立て(9月5日)



エンクロジャー取付(9月5日)



ペイント後の船底(9月5日)



海水ポンプ組立て (9月5日)



インジェクションポンプ確認(9月5日)



エンジンルーム用ログブック(9月5日)



インタークーラー取付(9月5日)



インタークーラー取付(9月5日)



インタークーラー取付(9月5日)



ラダーテーラー取付(9月5日)



インタークーラー取付(9月5日)



インタークーラー取付(9月5日)



インタークーラー取付(9月5日)



ラダーテーラー取付(9月5日)



下架作業(9月5日)



下架前のラダー、プロペラ(9月5日)



下架作業(9月5日)



下架作業(9月5日)



下架中、ラダーの取付(9月5日)



下架前の塗布作業



下架作業(9月5日)



下架後のKabekel M'talとBUL(9月5日)



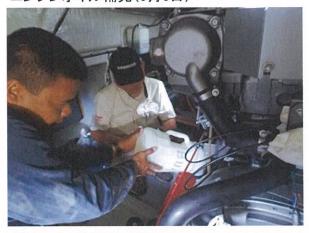
マニュアル本を見ながら作業説明(9月6日)



エンジンオイル補充の説明(9月6日)



エンジンオイル補充(9月6日)



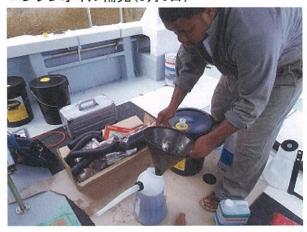
グリスアップ(9月6日)



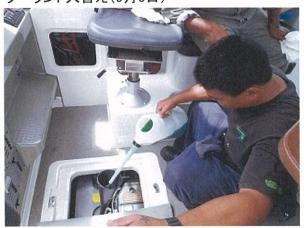
エンジンオイル補充(9月5日)



エンジンオイル補充(9月6日)



クーラント入替え(9月6日)



グリスアップ(9月6日)



### グリスアップ(9月6日)



海水ポンプのグリスアップ(9月6日)



マリントイレの作動確認(9月6日)



マニュアル本を利用しての座学(9月8日)



グリスアップ(9月6日)



各種ボルト、ビス、キャップの説明(9月6日)



エアコン エアーフィルター取外し(9月6日)



ケースプレート取り外し(9月8日)



ギアボックス分解(9月8日)



エアコンユニット据付確認(9月8日)



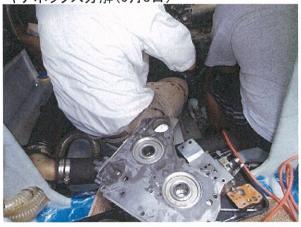
ギアボックス分解(9月8日)



ギアボックスのベアリング取付(9月8日)



ギアボックス分解(9月8日)



グリスアップ(9月8日)



サポート軸組付け(9月8日)



サポート軸組付け(9月8日)



インプットシャフト分解(9月8日)



ギアボックスの取付 (9月8日)



ケースプレートの取付(9月8日)



ケースプレートの取付(9月8日)



ケースプレートの清掃(9月8日)



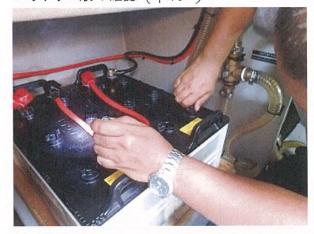
ケースプレートの取付前確認(9月8日)



ケースプレートの取付(9月8日)



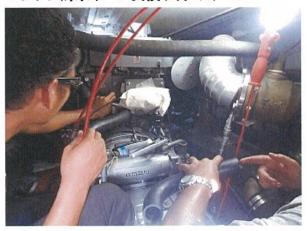
バッテリー液の確認 (9月88)



海水ポンプ分解(インペラ交換)(9月9日)



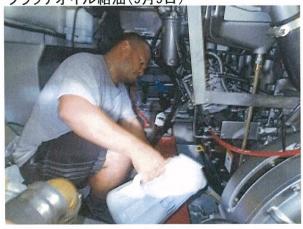
エンジン海水ホース交換(9月9日)



燃料フィルターエア抜き(9月9日)



クラッチオイル給油(9月9日)



排水ホース取付 (9月9日)



エンジン海水ホース交換(9月9日)



クラッチオイル交換(9月9日)



クラッチオイル給油のサポート(9月9日)



作業内容の確認(9月10日)



作業内容をマニュアル本で確認(9月10日)



各所、ボルト締め直し(9月10日)



エアコン海水ポンプの確認(9月10日)



オートパイロット操作に関する説明(9月10日)



各所、グリスアップ(9月10日)



シリコンガンの取付指導(9月10日)



オートパイロット取外し(9月10日)



### オートパイロットの配線確認(9月10日)



マニュアル本を確認しながら海水ポンプの仕組説明(9月10日)





各所ボルトの確認(9月10日)



エアコン室外機の確認(9月10日)



オートパイロット電気配線の説明(9月10日)



タービンエアフィルター交換(9月10日)



エアコンパイプの確認(9月10日)



在庫部品の確認(9月10日)



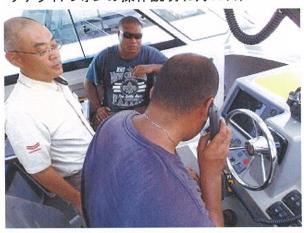
### 船体設備の説明(9月10日)



各種ブレーカーの説明(9月10日)



サテライトフォンの操作説明(9月10日)



マリントイレ整備事項の説明(9月10日)



船体設備の説明(9月10日)



各種スイッチの確認(9月10日)



航海計器の操作説明(9月10日)



グリスアップの為、銘板取外し(9月10日)



配線ターミナルキットの説明(9月10日)



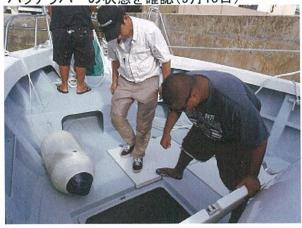
圧着端子を利用した電気 -ドの説明(9月10日)



FBステアリングの確認(9月10日)



ハッチラバーの状態を確認(9月10日)



ERIPB、自己点火灯等の設備説明(9月10日)



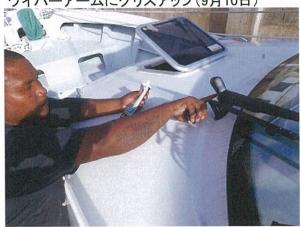
圧着端子の取付説明(9月10日)



エンジンルームLEDライトの設置(9月10日)



ワイパーアームにグリスアップ(9月10日)



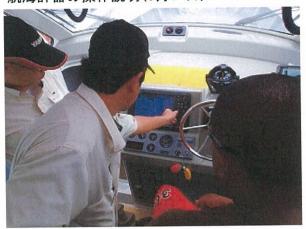
## ギアボックスの圧力計測方法説明(9月10日)



FBでのオートパイロット表示を説明(9月10日)



航海計器の操作説明(9月10日)



電気系統等、マニュアル本での研修(9月10日)



マニュアル本で確認しながら計測(9月10日)



サロンでのオートパイロット表示を説明(9月10日)



航海計器の操作説明(9月10日)



座学研修の様子(9月10日)



### 艇の掃除(9月11日)



航海計器の確認と説明(9月11日)



航海計器の操作説明(9月11日)



FBでのオートパイロット操作説明(9月11日)



艇の掃除(9月11日)



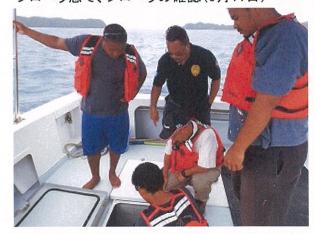
オートパイロットの操作説明(9月11日)



目的地の設定方法説明(9月11日)



プロペラ窓で、プロペラの確認(9月11日)



## マニュアル本でのオートパイロット操作説明(9月11日)



オートパイロットの操作説明(9月11日)



航海計器の操作説明(9月11日)



2500回転で30.2ノット(9月11日)



マニュアル本でのオートパイロット操作説明(9月11日)



オートパイロットの操作説明(9月11日)



全力走行試験(9月11日)



海上試運転(9月11日)



追加装備 オーニング(9月6日)



ビニミマット(エンクロージャー)(9月5日)



トランサムベンチシート(9月6日)



# 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」

# マーシャル: 小型パトロール艇「RMIS LOMOR II」: 納入2年後定期整備の完了確認(海上試運転)

月日:2014年12月4日(木)

場所:マーシャル諸島共和国、マジュロ



海上試運転で最終確認:ヤンマー技師立会い



海上試運転で最終確認: FURUNO技師立ち会い



最高速31ノットを記録(新品時と同性能)



衛星通信装置の感度確認



(NANYO BOEKI KAISHA, LTD) Katsuta Bldg, 5F, Mita, 1-3-39, Minato-Ku, Tokyo, Japan 108-0073 TEL: 81-3-5419-2678 FAX: 81-3-5419-2680 E-mail:kuri@nbk.co.jp

2014年12月19日

東京都港区虎ノ門1丁目1番3号 TEL03-3502-2231 公益社団法人 日本海難防止協会 理事長 中畑 美男 様

> 東京都港区三田 1-3-39 TEL 03-5419-2678 南洋貿易株式会社 代表取締役常務 栗林ゆきお

## 業務完了届

「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」における、供与小型艇「RMIS LOMOR II」の納入2年後定期整備及び整備指導(マーシャル諸島共和国)の委託契約書(2014年10月24日)第5条(業務完了届)に基づき、委託業務を完了した事を届けます。

別添、業務実施報告書を参照ください。

以上



2014年12月8日

#### 公益社団法人 日本海難防止協会 御中

南洋貿易株式会社 (企画開発部 米田) 港区三田1-3-39勝田ビル5F TEL:03(5425)1939

## 業務実施報告書

「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」における、供与小型艇「RMIS LOMOR II」の納入2年後定期整備及び整備指導(研修を含む)(マーシャル諸島共和国)に関して、仕様書5-(6)に基づき、業務実施完了の報告を致します。

#### (業務実施内容)

1、実施場所: 供与小型艇「RMIS LOMOR II」(マーシャル諸島共和国)

2、実施期間: 2014年11月27日~12月5日

3、整備指導業務に携わった技術者: ヤンマー株式会社マリン事業部 橋本和浩氏 ヤンマー舶用システム株式会社 小川 徹氏

4、納品物は、別紙1納品物の写真を参照。

5、整備指導については、別添"JOB REPORT (Maintenance of the 2nd year and Training)"及び 別紙2作業風景の写真を参照。

6、整備指導を受けた技術者: Mr.Clemson Volmelu (Engineer)

Mr.Carlton John (Engineer) Mr.Bruce John (Engineer)

Mr.Wayne Anjain (Boat Operator) Mr.Bolear Bokna (Deck Hand)

Mr.Telmons Kabua (Ebeye Sea Patrol ) Mr.Felix Loeak (Ebeye Sea Patrol)

7. 整備指導者からの所見: 別紙「技術報告書」を参照。

以上

# Acknowledgement of Receipt

(Equipment for "RMIS LOMORII")

TO: The Japan Association of Marine Safety

I, hereby, acknowledge that the equipment for the small patrol craft "RMIS LOMORII" stated as per attached Delivery list are exactly received by the Government of the Republic of the Marshall Islands on the occasion of the annual maintenance work of "RMIS LOMORII

Date: 12-05-19

Signature

Name George Lanwi

Job Title Commissioner

Organization Marshall Islands Police Department
Division of Sea Patrol, Republic of Marshall Islands

# Completion Certificate for Maintenance Work and Training of Maintenance for RMI LOMORII

Dec 5, 2014

TO: The Japan Association of Marine Safety

This is to certify that maintenance work and training of maintenance for RMI LOMORII has been surely conducted by NBK Corporation and YANMAR Co.,Ltd,.

Contractor: NBK Corporation

Name of project Manager: Isami Komeda / NBK Corporation Name of engineer: Kazuhiro Hashimoto / YANMAR Co.,Ltd

Details for maintenance work and training of maintenance: As per attached list

Details for the name of the products which received:

As per attached Delivery List

List of the participant: As per attached list

Period of the maintenance work and training of maintenance:

Nov 27 to Dec 5 2014

Date of Completion: Dec 5 2014

Isami Komeda/ NBK Corporation

Kazuhiro Hashimoto / YANMAR

Approved by

DATE

Marshall Islands Police Department

Division of Sea Patrol

Commissioner George Lanwi

#### Delivery list

ITEM NO	区分	名称	仕様 及び 用途	Description	Qty	Check
	舶用品	船底塗料	CMDホワイトペイント DXシロ(4kgx4缶/ctn)	Paint White (4kg x 4 tin/ctn)	2	
2	舶用品	機関洗浄	パーツクリーナースプレー	Parts Cleaner Spray	6	_
3	舶用品	作動油	ステアリング用オイル 4L	Steering oil 4L	2	-
4	舶用品	船体補修用FRP(マット、クロス)	船体FRP補修用 5M	FRP Repair Fiber kit 5M	1	-
5	舶用品	FRP樹脂	船体FRP補修用 4Kg	FRP Repair kit 4Kg	1	-
6				FRP Hardner	1	-
	舶用品	FRP樹脂用硬化剤	船体FRP補修用 200ml (現地調達)		1	-
7	舶用品	ラジエーター用クーラント	ラジェーター用クーラント 20L分	Coolant for 20L		-
8	舶用品	クラッチ用オイル	クラッチ用オイル SAE-30 20L 分	Cruch oil SAE-30 20 L	1	_
9	舶用品	エンジン用オイル	エンジン用オイル SAE-40 120L分	Engine oil SAE-40 120L	1	
10	舶用品	船体口ゴ	ロゴ(左舷、右舷、)ストライプと財団ロゴ	New Logo (Nippon Foundation)	1	-
11	舶用品	海水ポンプ	エアコン用	Seawater pump for Aircon	1	V
12	舶用品	海水コシキ用フィルター	エアコン用	Filter for Seawater pump	1	V
13	舶用品	コシキ用ゴム	エアコン用ゴムパッキン一式	Packing for Seawater pump	1	_
14	舶用品	船体亜鉛	防食亜鉛 70mm (1.5kg/pc)	Zinc for boat & Rudder	24	-
15	舶用品	プロペラ亜鉛	防食亜鉛	Zinc for propella	12	V
16	舶用品	シールスタン用部品	シールリング・メイティングリング、メンテ部品、グラン	Sealstan Spare parts set	1	V
17	舶用品	プラケット支面材用部品	ドパッキン1巻、芯出し治具 一式 抜出・挿入治具	Bracket Spare parts set	1	V
18	舶用品	ワイパーアーム	フロント窓用	Wiper arm	2	-
					1	-
19	舶用品	プロペラ用キー	プロペラ取付用	Propeller Key	-	-
20	舶用品	交換バルブ	サーチライト用	Valve for serch light	2	-
21	舶用品	LEDライト	機関室追加証明	LED Light for Engine room	2	-
22	舶用品	エンジン用部品プレフィルター	部品番号#119593-18880	Spare Parts Prefiter	4	-
23	舶用品	エンジン用部品亜鉛プラグ	部品番号#122780-09320	Spare Parts Zinc Plug	4	-
24	舶用品	エンジン用部品海水ポンプPK	部品番号#126630-42611	PK	1	1
25	舶用品	クラッチ用部品PK	部品番号#177510-02120	PK	1	V
26	舶用品	クラッチ用部品PK	部品番号#177510-02242	PK	1	V
27	舶用品	クラッチ用部品PK	部品番号#177510-04723	PK	1	V
28	舶用品	クラッチ用部品PK	部品番号#177061-04520	PK	1	V
29	舶用品	クラッチ用部品PK	部品番号#177411-04412	PK	1	V
30	舶用品	トイレドアノブ	トイレドアノブ修理交換用	Doorknob	1	-
31	舶用品	FBステアリングホイールグリップ	FBステアリングホイール用グリップ	Grip for FB Steering	1	-
32	舶用品	ねじ、キャップセット	ねじ、キャップセット(ねじ、座面、キャップ)20セット	White Cap, Screw	1	1
33	舶用品	配線用圧着プラグ	配線接続用Bタイプターミナルキット	Wiring Crimp Plug	1	-
34	舶用品	シャフト用ゲージ	マグネットベースゲージとダイヤルゲージセット	Shaft gause	1	-
35				Stainless still bench rule	1	-
	舶用品	ステンレス直尺	1Mステンレス製		2	-
36	舶用品	半田ごてコード式	メンテナンス用 Soldering iron	Soldering iron	_	
37	舶用品	半田 フラックス入り	メンテナンス用 Soldering lead	Soldering lead	2	-
38	舶用品	ビルジポンプ	船体据付用	Bilge pump	1	-
39	舶用品	ぼろ布	ぼろ布 メンテナンス作業用	Rag Old cloth	+	V
40	舶用品	ペーパーウエス	ペーパーウエス メンテナンス作業用	Paper Rag	4	-
41	舶用品	オイルジョッキ	オイルジョッキ メンテナンス作業用	Oil Jog	2	-
42	舶用品	オイル差し180ml	オイル差し(ジェットオイラー)180ml	Jet Oiler 180ml	2	2 /
43	舶用品	ワイヤーブラシ(真鍮製)	ワイヤーブラシ(真鍮製)	Wire brush	1 2	2 1
44	舶用品	ワイヤーブラシ(ベベル式)	ワイヤーブラシ(ベベル式)	Wire brush	1 2	2 1
45	舶用品	ハッチ用ゴムクッション	ハッチ用ゴムクッション	Rubber cussion for Hatch		11
46	舶用品	プラスチックハッチロック	ハッチのカギ	Key rock for Hatch		2 V
47	舶用品	防縁材(バンパーモール)	船体補修に使用するため 10M	Rubber Gannel for all Hall		1
48	舶用品	フェンダー(大)	フェンダー 大	Fender (big size)	_	2 0
49	舶用品			Fender (Drum type)		4 V
50	舶用品	フェンダー(俵型)	フェンダー(俵型)	Venyle tape		5 0
51	舶用品	絶縁ビニールテープ	電気配線工事等に使用するため	Hose Band (20)		
52		ホースバンド(20)	ホースバンド不良時の予備	Hose Band (30)		11
	舶用品	ホースバンド(30)	ホースバンド不良時の予備			,
53	舶用品	マグネトロン	マグネトロン	Magnetron Paint		1 1
54	舶用品	ペイント用ローラー	船底塗布用	Roller for Paint		4 V
55	舶用品	ハル用クリーナー	船体掃除用	HULL Cleaner	-	2 V
56	舶用品	充電式ドライバー	メンテナンス用	Cordless tool set		1 1
57	舶用品	両頭ハンマー	プロペラ交換用	The double-headed hummer		1 V
58	舶用品	シャワーホース	破損の為交換	Shower hose	1	1 1
30	***************************************				_	1 V

Confirmed by

George Lanwr, Commissioner Marshall Islands Police Department, Republic of Marshall Islands

Isami Komeda, Manager NBK Corporation



Katsuta Bldg. 5F 1-3-39 Mita Minato-ku Tokyo, Japan 108-0073

Dec 5 2014

## List of the trainee for maintenance training of RMIS LOMORII

No.	Print Name	Title
and the second	Clemson Vormelu	Engineer
2	Carlton John	Engineer
3		ENGINEER
4	(Nagre Anjain	Bart operator
5	Balear Botna	Deck Hand
6	Telmons J. Kabua	Etraye sea Patrol
7	Fefry Locak	Eplise Sun Profred!

Isami Komeda

Manager/ NBK Corporation

George Lanwi Commissioner

Division of Sea Patrol

Ministry of Justice

Republic of the Marshall Islands

# JOB REPORT

Work number:

#### YANMAR CO.,LTD.

RMI SEA PATROL

User Name: MARITIME SURVEILLANCE

Vessel Name: RMIS LOMOR II

Boat type : EX46.FB S/# 5028

Engine type: 6HYM-WET(L) E/# 1897

**Running Hours: 2,420** 

Lub.Oil Type: #40 Fuel.Oil Type:Diesel Marketing&Sales Dept. Marin Operations Div.

5-3-1, Tsukaguchi-Honmachi, Amagasaki-City, Hyogo

Japan 661-0001

Tel:+81-6-6428-3261 Fax:+81-6-6421-2202

Date: 5th Dec 2014

Place: Majuro

Service Engineer: K, Hashimoto T, Ogawa

Trial Run Completion day: 4th Dec 2014

tem	Description					
Sul	oject: Maintenance of the 2nd year and Training					
	①Condition ②Job Comments ③Result ④Comments ⑤Remark					
1	We carried out 2nd year maintenance of the boat, the engine, and all equipment.					
	The boat had a lot of trouble.					
	(Sea water leak from shaft seal, Damage of shower, Damage of FB seat, etc)					
2	Additional job is the following.					
	(1) We replaced the "Control unit" of the Auto-pilot system.					
	(Because software is renewed.)					
	(2) We installed two LED lightings on engine room.					
	(3) We executed the check and the repair of NavNet of FURUNO.					
	Please refer to the FURUNO report.					
3	The maintenance job and sea trial finished without trouble.					
	Please refer to the our job report.					
4	We carried out technical training. (for Majuro staff and Ebeye staff)					
	Details as below.					
	(1) Explained each equipment of the boat.					
	(2) Explained how to operate each equipment by on the job training.					
	(3) Explained electric wiring and electric device.(one by one checked.)					
	(4) Explained engine maintenance and troubleshooting.					
	(5) Explained emergency action.					
	I think your staff understand about all system of the boat more than before.					
	Working Date Comfirmation day					

Working Date

From	To		
27th Nov 2014	5th Dec 2014		

(Attention) Accept the construction article

**Comfirmation day** 

Signature of Customer

RMI SEA PATROL Commissioner George Lanwi

## **Trainning & Working Report**

TO RMI SEA PATROL MARITIME SURVEILLANCE

We would like to make a report on implementation of training and working for 2nd year maintenance RMIS LOMOR II as follows;

Date		Contents	Date			
27th Nov 2014	a.m.	Greeting Preparation for maintenance parts. Preparation for dock the boat. Lift-up the boat Introduction of person in charge and	2nd Dec 2014	a.m.	Inspected vibration isolating rubber. Inspected rudder. Replaced the fuel filter. Checking and adjustment of the remote control handle and cable.	
2014	p.m.	meeting of schedule. Cleaned the hull outside. Removed the rudder, propeller and propeller shaft. Refer to maintenance of the 2nd year.		p.m.	Inspected air conditioner. Repaired the seat of the FB. Replaced the shower. Refer to maintenance of the 2nd year.	
28th Nov 2014	a.m.	Cleaned the hull outside. Replaced the water seal of the shaft and installed the propeller and propeller shaft. Disassembled air cooler, LO cooler of the engine and LO cooler of the gear box.	3rd Dec 2014	a.m.	Inspected the exhaust flange. Inspected the fuel tank. Inspected the marine toilet.	
	p.m.	Removed the fuel injection nozzle Removed the sea water pump Removed the sea water strainer Repair the earth plate by FRP. Refer to maintenance of the first year.		p.m.	Inspected the fresh water device. Inspected the sea water device. Inspected electric device. Refer to maintenance of the 2nd year.	
29th Nov 2014	a.m.	Disassembled the gear box. Disassembled the input shaft and support shaft of the gear box. Replaced the fuel injection valve and Adjusted fuel injection pressure.	4th Dec 2014	a.m.	Started the engine and checked all device Sea trial with Japan Association of Marine Safety	
	p.m.	Installed the fuel injection nozzle.  Disassembled sea water pump and replace the oil seal, mechanical seal, bearing and Put a "The Nippon Foundation" sticker Refer to maintenance of the first year.		p.m.	Checked all device.	
30th Nov 2014	a.m.	Inspected friction plate and steel plate. adjusted valve clearance. Installed all cooler. Replaced the V belt of FPTO. Replaced the LO filter.	5th Dec 2014	a.m.	Cleaned the deck and engine room. Technical training Explained equipment of the boat Explained each device Explained how to operate each device	
	p.m.	Checked the thermostat. Installed the sea water pump and sea water filter. Painted the bottom of vessel. Refer to maintenance of the 2nd year.		p.m.	Explained remote control system Explained emergency action Operation practice	
1th Dec 2014	a.m.	Installed the input shaft and support shaft. Installed the air cooler and replaced the rubber hose. Fill the engine oil, gear oil and fresh water.		Confirmed by: 5th		
	p.m.	Repaie the door of the marine toilet. Replaced the zinc plate. Refer to maintenance of the first year.	Signature of Customer RMI SEA PATROL Commissioner George Lanwi			

Manufacturer Manufacturer

Marine Operations Div. KAZUHRO HASHIMOTO

# EX46FB 2nd year Maintenance (RMIS LOMOR II)

Vessel 5th Dec

	Item	Date	Done	Remark
Vessel				
	Clean the hull outside	28th Nov	レ	
	Bottom paint coating	30th Nov	レ	
	Replace zinc anode plates	1st Dec	レ	
ngine Ro				
ingino rec	Inspection of vibration isolating rubber			
	foundation bolts	2nd Dec	1,	
	Toundation coils			
	Inspect the exhaust flange attachment bolts	3rd Dec	1.	
	In-provide a feeth-stine in-lating white		L L	
	Inspection of vibration isolating rubber	2-4 D		
	(Measuring the height of the vibration	2nd Dec		
	isolating rubber)			
	Inspection or replacement of the exhaust	3rd Dec		
	rubber hose	314 200	レ	
	Inspection or replacement the main engine	30th Nov		
	front drive belt	John Nov	レ	Replacement
	Inspect the stern tube gland packing  Inspection or raplacement the stern tube	29th Nov	レ	Replacement
	Inspection or replacement the stern tube	····	·····	
	seal	29th Nov	レ	Replacement
	Inspect the carbon brush	1st Dec	L L	Replacement
	Clean the sea water strainer	30th Nov		Change the ZINC
uel Tank		John 1107		change the Enve
uci Tank		3rd Dec	L I	
	Inspect the fuel tank installation condition	3rd Dec		
	Inspection or replacement of the filling	3rd Dec		
	rubber hose		レー	
tern Arra	ngement Parts			
	Remove the propeller, Inspection, Install	28th Nov	レ	
	Inspect the propeller shaft	28th Nov	レ	
	Inspection or replacement of the cock	28th Nov		
	board of the shaft bracket	Zotii Nov	レ	Replacement
	Inspect rudder fixed bolt	2nd Dec	レ	
	Remove the rudder and inspect the rudder			
	bearing	2nd Dec	V	
	Inspect hydraulic cylinder fixed bolt.	2nd Dec	V	
	Apply grease to parts	2nd Dec	L	
	Replace zinc anodes of the propeller shaft	28th Nov		Installed the 3 ZINC
teering D		2011 1407		mistalled the 3 Zine
teering D		2nd Dag	1.	
	Inspect the helm pump installation bolt	2nd Dec	レ	
	Operation confirmation of steering device,	1st Dec		
	check or replacement of the hydraulic oil,		L I	
lectric De				
	Inspect the wiper blade	2nd Dec	V	Replacement
ther				
	Inspect the leakage of each parts	3rd Dec	レ	
	Apply grease to parts	3rd Dec	レ	
	Re-tightened the hose clamps	3rd Dec	V	
	Inspection of the sea water system	3rd Dec	Ū l	

# EX46FB 2nd year Maintenance (RMIS LOMOR II)

Engine 5th Dec

	Item	Date	Done	Remark
Fuel System				
	rain fuel-water separator deposit and atter	2nd Dec	v l	
R	eplace fuel filter and fuel-water separator	2nd Dec	V	
Lubrication Sys	stem			
R	eplace oil filter	30th Nov	V	
C	lean oil cooler	30th Nov	V	
R	eplace oil (Engine only)	2nd Dec	V	
Cooling Sea Wa	ater System			
	eplace seawater pump impeller	29th Nov	V	
In	spect sea water pump	29th Nov	·V	
	eplace zinc anodes	29th Nov	V	
	lean seawater system	30th Nov	V	
Coolant Water				
R	eplace coolant water	1st Dec	レ	
C	lean coolant system	29th Nov	レ	
	spect the thermostat	30th Nov	V	
	ump and Fuel Injection Nozzle			
	heck injection timing	1st Dec	V	
	eplace the injection nozzles	29th Nov	V	
Cylinder Head				
_	heck valve clearance	30th Nov	V	
Furbocharger a				
	lean the air cooler	30th Nov	V	
	lean and replace the air filter	29th Nov	V	Replacement
Control Device				
	hecking and adjustment of the remote ontrol handle	2nd Dec	V	
	hecking or replacement of the remote ontrol cable	2nd Dec	ν	
Piping				
	e-tighten hose clips hecking or replacement of the rubber	30th Nov	ν	
	oses	30th Nov	V	Replacement
Electric Device				
C	heck battery electrolyte level	3rd Dec	V	
C	heck wire-harness	3rd Dec	V	
C	heck alternator drive belt tension	30th Nov	V	Replacement
Gear Box				
ubrication Sys	tem			
Re	eplace the lub. Oil	2nd Dec	V	
	eplace lub. Oil filter	1st Dec	V	
	lean the lub.oil suction strainer	30th Nov	V	
	heck and clean the magnet plug	3rd Dec	V	
Cooling Sea Wa				
	eplace zinc anodes	29th Nov	V	
	heck the lub.oil cooler	29th Nov	v	
Control Device		27th 1101		
	hecked remote control cables	2nd Dec	VI	

## EX46FB 2nd year Maintenance (RMIS LOMOR II)

	Item	Date	Done	Remark
Air Conditio				
Compressor				
,	Inspect installation bolts	2nd Dec	V	
	Inspect the high pressure pipe	3rd Dec	レ	
	Inspect the terminal bolt	3rd Dec	V	
Cooling Unit				
cooming on	Inspect the indoor unit installation bolts	2nd Dec	V	
	Replace the air filter for the indoor unit	2nd Dec	V	Clean
	Check or replace the seawater pump	30th Nov	ν	
	Clean the sea water filter	30th Nov	V	Replacement
	Inspect the hose clips	30th Nov	i i	
Marine Toile		30111101		
Pump	J.			
unp	Inspect the installation bolt	3rd Dec	V	
		3rd Dec 3rd Dec	L	
	Check the wiring and piping Operation confirmation	3rd Dec	1/	
Fresh Water		31d Dec 1		
Fresh Water				
Fresh water		2nd Dog	14	
	Inspect the installation bolt	3rd Dec		
	Check the water tank and piping	3rd Dec		
	Operation confirmation	3rd Dec		
Sea Water D				
Sea Water Po				
	Checking or replacement of the sea water	1st Dec		
	impeller		V	Replacement
	Check the Kingston valve and 3way valve	3rd Dec	V	
	Check the sea water hose and joint	3rd Dec	V	
Electric Dev				
Breaker Pane	el and Switch Panel			
	Check the each fuse and breaker	3rd Dec	レ	
	Check the each wiring	3rd Dec	ν	
	Check the button of the switch panel	3rd Dec	V	
Lighting Dev				
	Check the Navigation light and other	3rd Dec	V	
	Operation confirmation of the patrol light	3rd Dec		
	and search light	ord Dec	V	Changed the valve
	Check the room light	3rd Dec	レ	
Remote Con				
	Inspect the electric magnetic valve of the	2.15		
	steering system	3rd Dec	V	
	Inspect the rudder indicator	2nd Dec	V	
	Inspect the radder mareator  Inspect the engine remote control device	3rd Dec	V	
	Operation confirmation of the steering	514 500		
	device of FB	3rd Dec	V	
	Operation confirmation of the auto pilot			
	system	3rd Dec		

9	古野電気株式:	hadden .	
B F    抹消 C  No 307251	FURUNO ELECTRIC C (2)修理 売 上 伝 工事 計 算 書 E D	51 L LL	年 月 日
御得意先名(御請求先)名 ondered ringy	契約番号	P (控) 修理工事 完了日 Eマーク 船 種 船舶No	○ / ×年 / ユョ ○ 3 日 
サラマー 五年 / NBK 住所 ADDRESS	/ 計算图 殿 工事番号 作業場所 LOCATION 及び取次先		
船主殿名 owner	MOTSAA// IS/A 工事主担当省名 SERVICE TECHNICA	カリ・ 開発 HAME OF SHIP	税区分
故際状況又は受付内容 FAULT REPORTED	殿長念り3至	受作	
MFA P check	受付手段 修理機種型名 ECUIPMENT	様より	
名実務 7+10- U]		20/29	
	/BWD/YHI/SSB FBB		
(共況) FAULTY SYMPTOM	(原 因) cause	(処置) ACTION TAKEN	保証内のみ1を記入す
大器 7+V- VP	MFAR (Bridge)  ENO < S< to 3	18 P - 7 - 5	1分に内かり、水タび
现场 00 7 7 7 7 7	9-4.75	とのとったい	かりするとした様子で
			1月一年之交投。
	他技能	五二 007	
	现场 6丁7 2行了	MG支统和	聖を行う
		FR 1376 / FBb	
(特記事項及び残工事・引継事項) WORK DUE FOR NEX	T SERVICE	soft wate update	
	<u> </u>		
社員コード 作業担当者	名 作業月日 曜 間 始 ~ 終 <sup>70</sup> 了	RECESS TRANS WAIT WORK 休 想 移動時間 存時間 作業時	图区分 時 間 金 AMOUNT 版
040683 長信") 強			
			移動
(使用部品) MATERIAL USED			工賃合計
展入 ® 部品又は持出コード 品	名  型  式	OTY UNIT PRICE	a AMOUNT a 完上原価
修理基本料 育	(泊费( )泊	部品合計	
	の他経費(	修理費合計	批內工賃
交通費	5型工事網整額 <u>2-F</u>	御前求額	
上記工事が完了したことを証認します ORDER CO	OMPLETED SATISFACTORILY [] [-] DATE		乐 認営業担当 取 扱 者 技 - 新
船名又は部課名 1711年 英書3	御監督 署名 SIGNED BY MASTER O	A AUTHORIZED OFFICER	
一个个个		k-12.	Justific re

### 作業時の写真



整備前のRMIS LOMOR II(11月27日)



架台の設置(11月27日)



上架作業(11月27日)



上架作業(11月27日)



上架後の船底(11月27日)



舵の取外し(11月27日)



上架後のプロペラ(11月27日)



上架後の舵(11月27日)



プロペラ取外し(11月27日)

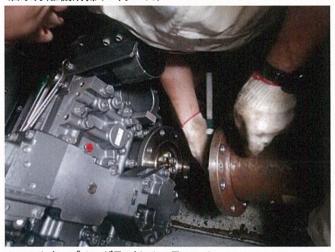




油水分離機清掃(11月27日)



シールスタンの腐食確認(11月27日)



シャフトカップリング取外し(11月27日)



シールリング取外し(11月27日)





シールスタン一式分解(11月27日)





船底及びラダーマウントの清掃(11月27日)



プロペラキーの取り付け(11月28日)



プロペラの取り付け(11月28日)



エアコン海水フィルタ一取外し(11月28日)



防食亜鉛の取り付け(11月28日)



燃料フィルター取外し(11月28日)



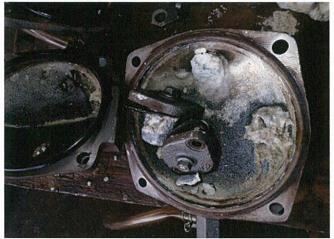
海水こしき用フィルタ一取外し(11月28日)



インタークーラー清掃(11月28日)



エンジンオイルクーラーコアの清掃(11月28日)



インタークーラー亜鉛カバー取外し(11月28日)



エンジンオイルクーラーコアの清掃(11月28日)



エンジン部品分解と清掃の作業(11月28日)



エンジン部品分解と清掃の作業(11月28日)



インタークーラー取外し(11月28日)



インタークーラー取外し及び整備指導(11月28日)



インタークーラーコアの取外し(11月28日)



-コア取外し後の清掃(11月28日) インターク



インタークーラーコアの清掃(11月28日)



船底アース板の周りのFRP修理(11月29日)



FRP修理方法の指導(11月28日)



船体の掃除(11月28日)



整備内容の確認と打ち合わせ(11月29日)



ケースプレート取り外し(11月29日)



船体ロゴ貼り付け(11月29日)



船体ロゴ貼り付け(11月29日)



ギアボックスオイルク―ラ分解と清掃(11日29日



インタークーラーカバーの分解と清掃(11月29日)



オイルクーラーコアの清掃(11月29日)



船体ハルの補修(11月29日)



ケースプレート、サポート軸、インプットシャフト分解(11月29日)



インタークーラコアの清掃(11月29日)



船底の清掃(11月29日)



海水ポンプの分解(11月29日)



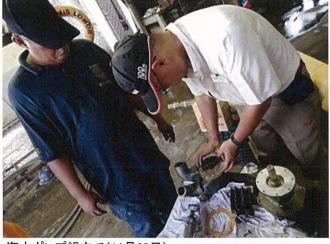
海水ポンプメカニカルシール取外し(11月29日)



海水ポンプ組立て(11月29日)



エンジンオイルクーラーの清掃(11月29日)



海水ポンプ組立て(11月29日)



ケースプレート清掃(11月29日)



工具箱清掃(11月29日)



タービンエアフィルターの清掃(11月29日)



タービンエアフィルターへ、プレフィルターの取り付け(11月29日)



海水ポンプ組立て(11月29日)



インプットト軸の分解(11月30日)



インプット軸の摩擦版、スチールプレートの洗浄(11月30日)



インプット軸の組付け(11月30日)



バルブクリアランス調整方法指導(11月30日)



バルブクリアランス調整(11月30日)



サポート軸の分解(11月30日)



ベアリングの組付け(11月30日)



船底塗布作業(11月30日)



プロペラ窓の掃除(11月30日)



ギアボックスの取り付け(12月1日)



オイルクーラー組付け(12月1日)



マリントイレドアのラバークッション交換(12月1日)



スカイライトハッチの修理(12月1日)



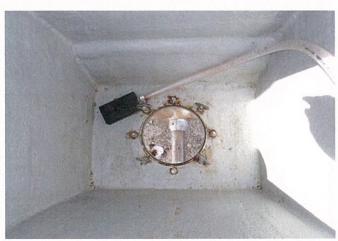
船体亜鉛の取り付け(12月1日)



舵に防食亜鉛の取り付け(12月1日)



調整シム組付け(12月1日)



プロペラ窓の清掃(12月1日)



ラダーマウントの清掃(12月1日)



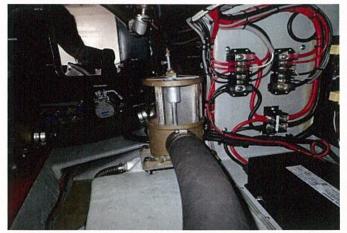
ラバーマウントにグリース(12月1日)



ロゴの貼りつけ(12月1日)



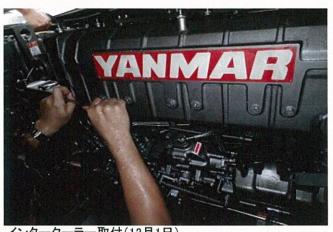
マリントイレのドアノブの修理(12月1日)



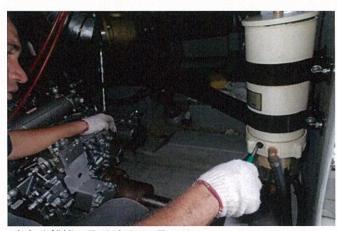
海水フィルターの取り付け(12月1日)



エアダクトカバー取付(12月1日)



インタークーラー取付(12月1日)

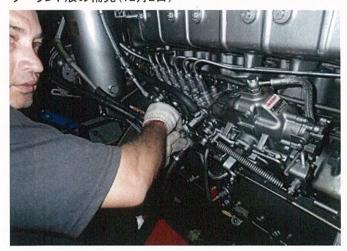


油水分離機の取り付け(12月1日)





燃料パイプ留め金具取付(12月2日)



燃料フィルターエア抜き(12月2日)



エンジンオイル注入(12月2日)



海水出口ホース取付(12月2日)



前輪駆動ベルトの点検(12月3日)



FB椅子の修理方法指導(12月3日)



FB椅子の修理完了(12月3日)



リモコンワイヤーケーブルの調整方法、セーフティースイッチの説明(12月3日) ワイパーアームの交換(12月3日)



ハッチロックの取り付け(12月3日)



マグネトロンの交換(12月3日)



シャワーの取り付け(12月3日)



インジケーターの見方を指導(12月3日)



航海計器の取扱い指導8(12月3日)



船底塗布完了(12月3日)



下架中に、塗布作業(12月3日)



下架中に舵の取り付け(12月3日)



下架作業 (12月3日)



架台の片づけ(12月3日)



エンジン稼働後の点検(12月3日)



無線機の取扱い説明(12月3日)



無線機のノイズ除去作業及び作動確認(12月3日)



アンテナスイッチの点検指導(12月3日)



Navnetの作動確認(12月3日)



オートパイロット装置の設定変更(12月3日



エンジンルームの日常点検指導(12月3日)



3Wayバルブの点検(12月3日)



燃料タンクの点検(12月3日)



マニュアル本で日常整備の指導(12月3日)



NEVNETの操作指導(12月3日)



Navnetの表示変換方法の指導(12月4日)



パトロールライトの点検(12月3日)



アンテナケーブルを防水テープで保護(12月3日)



NAVNETチャートの更新(12月3日)



ルームランプの作動確認(12月3日)



マニュアル本での定期整備の指導(12月4日)



フェンダーカバーの取り付け(12月4日)



FBでの操船指導(12月4日)



EBEYE職員へFBでの操船指導(12月4日)



EBEYE職員へ操船の指導(12月4日)



エンジン整備後の試運転(12月4日)



2500rpmで、31ノットの速力(12月4日)



試運転中にギアボックスの圧力計測(12月5日)



衛星電話通信の確認(12月4日)



EBEYE職員へ船体設備の説明(12月5日)



サーチライトバルブ交換(12月5日)



シールスタンの点検及び交換方法指導(12月5日)



FBのフレームの修理方法指導(12月5日)



最終日Q&A及び、点検事項の確認(12月5日)

別紙1 納入物の写真



1、船底塗料



3、作動油



5、FRP樹脂



7、クーラント



2、パーツクリーナー



4、船体補修用(マット、クロス)



6、FRP樹脂用硬化剤



8、クラッチ用オイル SAE30



9、エンジン用オイル



11、海水ポンプ



13、コシキ用ゴム



15、プロペラ亜鉛



10、船体ロゴ



12、海水コシキ用フィルター



14、船体亜鉛



16、シールスタン用部品



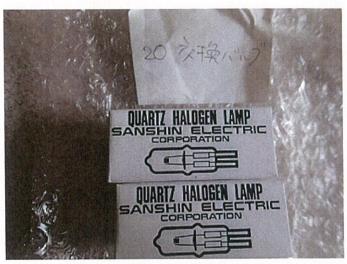
17、ブラケット支面材用部品



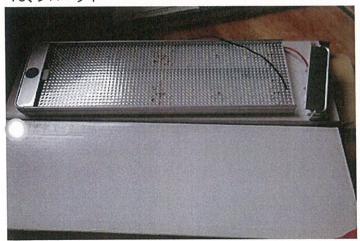
18、ワイパーアーム



19、プロペラキー



20、交換バルブ(サーチライト用)



21、LEDライト



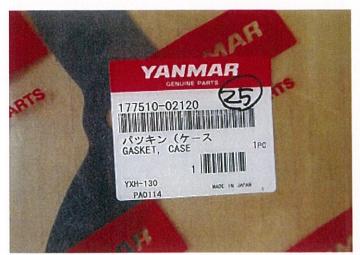
22、エンジン用プレフィルター



23、エンジン用部品亜鉛プラグ



24、エンジン用部品海水ポンプパッキン



25 クラッチ用部品



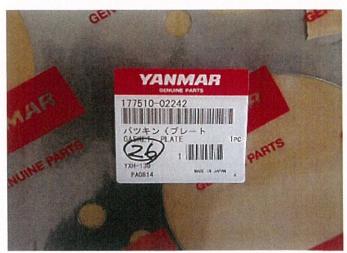
27、28、29、クラッチ用部品



31、FBステアリングホイールキャップ



33、配線圧着プラグ



26 クラッチ用部品



30、トイレドアノブ



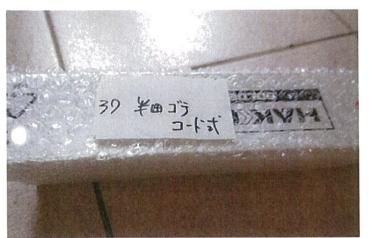
32、キャップ、ネジセット



34 シャフト用ゲージ



35、ステンレス直尺



37、半田ごて



39、ビリジポンプ



41、ペーパータオル



36、充電式ドライバー



38、半田 フラックス入り



40、ぼろ布



42、オイルジョッキ



43、オイル差し



45、ワイヤーブラシ(ベベル式)



47、プラスチックハッチロック



49、フェンダー(大)



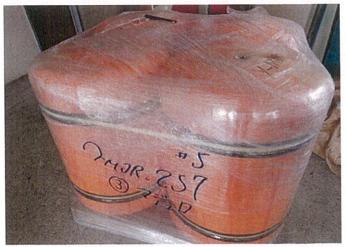
44、ワイヤーブラシ



46、ハッチ用ゴムクッション



48、防舷材



50、フェンダー(俵型)



51、ロープ



53、ホースバンド (20)



55、マグネトロン



57、シャワー



52、絶縁ビニールテープ



54、ホースバンド(30)



56、ペイント用ローラー



58、防水カメラ

# 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」

### 小型パトロール艇の操船訓練(1)

月日: 2014年12月16日(火) 場所:パラオ共和国、コロール港





# 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」 小型パトロール艇の操船訓練(2)

月日:2014年12月16日(火) 場所:パラオ共和国、コロール港





#### 日本海難防止協会

# 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」 高速救難艇の完成検査(1)

月日:2014年9月16日(水) 場所:株式会社ニシエフ (山口県下関市)



高速救難艇(7m型)



艇の後部両舷に日本財団マークを表示



備付用救命浮環



備品類の確認



海上試運転へ



最高速力 42.3ノットを記録

#### 日本海難防止協会

# 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」 高速救難艇の完成検査(2)

月日:2014年9月16日(水) 場所:株式会社ニシエフ (山口県下関市)



株式会社ニシエフ前にて 左から、山川、堀井(ニシエフ社長)、米田(NBK)



建造中の漁船(FRP艇)



手作りの船殻外枠



建造中の漁船(FRP艇)



海上保安庁発注の複合艇



大型船用救命艇

#### 日本海難防止協会

# 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」 高速救難艇をパラオ政府に引渡し

月日:2014年10月28日(火) 場所:パラオ共和国コロール港



海上法令執行部岸壁に到着



装置類の説明



計器類



トレーラー(現地の工場に製作発注)



海上試運転で、45ノットのフルスピード (エンジンは、ヤマハ150hp×2基)



海上試運転に同乗した ビリー・クアルテイ国務大臣(中央)

#### 新しいボート2隻がパラオとペリリューへ

(Island Times 2014年10月28日, パラオ)



Above: The boat "Nippon Maru II", which is slated to arrive on November 14, 2014. The boat will be handed or to Peleliu State courtesy of Nippon Foundation and Sasakawa Peace Foundation. Inset: the Nippon Foundatio donated inflatable patrol vessel for the Palau Government that is arriving today.

CONTRIBUTED PHOTO.

日本財団と笹川平和財団の更なる支援により、新しい船 2 隻が、それぞれパラオ政府とペリリュー州政府に引き渡されることになった。

日本財団の関係者が昨日、明らかにしたところによれば、パラオ政府には新造の高速救難艇(ゴムボート)が、ペリリュー州には新造の旅客船が寄贈されるとのことである。

「ニシエフ」製のFRP高速救難艇(ゴムボート)は、日本の横浜港からパラオまで協和海運の貨物船により30日間かけて輸送され、本日、到着する予定である。その後、海上法令執行部の岸壁に移送され、翌日に海上試運転を実施するという。

このボートは捜索救助業務等に使われるものであり、日本の西部地区で建造され、厳しいテスト を経た後にパラオへ輸送された。

このボートは日本財団が推進する「ミクロネシア3国に対する海上保安能力強化プロジェクト」の一環としてパラオに寄贈されるものであり、このプロジェクトにより、ミクロネシア連邦やマーシャル諸島共和国もその恩恵を受けている。

このボートは PF-70 型といい、ヤマハ製 150 馬力の船外機を 2 基搭載している。 また、ペリリュー州への新型旅客船もまもなく到着する予定である。

「NIPPON MARU II」は本年 11 月 14 日にパラオに到着し、引渡式は、本年 12 月 15 日に実施される予定である。

ペリリュー州選出議員のジョナサン・イセチャル氏は、電話インタビューで、この新旅客船が来月ペリリュー州に引き渡される予定である、と述べた。

同氏によると、この船の寄贈は、日本財団と笹川平和財団とが共同して実施するもの、とのこと。 同氏はまた、「ペリリュー州の選出議員として、日本財団及び笹川平和財団に対し、数年間に亘る支援に感謝する」と述べた。

同氏によると、ペリリュー州の酋長等がパラオ中央政府に支援を要請し、その要請がこの2つの 財団に伝えられとのこと。

日本財団と笹川平和財団は、1990年代にペリリュー州とアンガウル州にそれぞれ旅客船を寄贈していた。

「ペリリュー州に寄贈された船(NIPPON MARU I)が、昨年の台風「ボーファ」によって壊されたことから、この新しい旅客船はその代替船である。」と同氏は語った。

新しい船はペリリュー島へ行き来するための旅客船として利用されることとなる。

「NIPPON MARUII」は快適な部屋を備えており、定員は60名である。

新しい旅客船は、現在、古い船の「オデサンゲル・ディル」が実施している、ペリリュー州への貨物や旅客の輸送を補うものである、と同氏は語った。「オデサンゲル・ディル」は台湾から寄贈された船である。

日本財団は、独立した、非営利の助成団体であり、1962年に設立された。競艇の収益により慈善事業を実施する目的で、法律により設立されたもの。

この財団は次の4つの分野での助成事業を実施している。

- 1)日本国内の公共福祉
- 2)日本国内のボランティア・プログラム
- 3)海洋及び船舶関連事業
- 4) 海外協力援助

笹川平和財団は、国際的な理解と交流、協力、及びこれらを促進する活動を行うことによって、人類の健康及び全世界の健全な発展に寄与し、ひいては世界平和に寄与することを目的とした組織である。

日本財団と笹川平和財団は、これまでにも、2隻のパトロール艇、「Bul」と「Kabekel M' tal」をパラオ政府に寄贈している。 (了)

### 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」

## 高速救難艇の操船訓練(1)

月日:2014年12月16日(火) 場所:パラオ共和国、コロール港





### 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」

## 高速救難艇の操船訓練(2)

月日:2014年12月16日(火) 場所:パラオ共和国、コロール港







# **Navigational Simulator**

For the Fisheries and Maritime Institute (FMI), FSM





Transas marine simulation systems have been used extensively by specialists in commercial fleets, navies and coast guards.

Transas simulators are developed in line with key international maritime requirements (STCW, IMO model courses and specialized standards), and Training and certification of watch officers, chief officers, captains and pilots in ship handling, working with ECDIS, ARPA/Radar and other operations in compliance with STCW 2010.

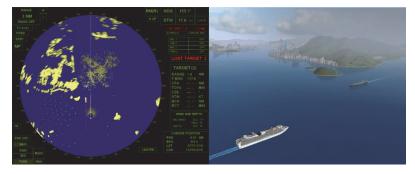
#### RADAR/ARPA Training

Navigational simulators in any configuration allow training in modern radar and ARPA operation skills. For this purpose, both computer imitators and actual radar displays connected to the simulator might be used.

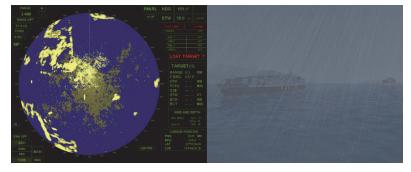
Transas can create radar scenes of any water area in the world at the customer's request. The radar picture generation algorithm considers:

- The geometry of objects, their relative position;
- The reflection capability of materials;
- 3D wave:
- Antenna three-dimensional motion:
- Earth curvature.

A wide range of realistic effects is simulated: shaded areas, loss of targets in heavy sea, radar picture change depending on ship's rolling and pitching, echo-signals of different range depending on geometry and reflection capability of a shore line. Real ARPA / radar units and keyboard might be incorporated.



RADAR echo and visible image with nimbus



RADAR echo and visible image with rainfall

#### **ECDIS Training**

With mandatory introduction of ECDIS for SOLAS vessels, ECDIS operation training becomes definitely necessary. Transas ECDIS Simulator is based on the Transas Navi-Sailor ECIS Multifunction Display MFD 4000 with inbuilt Navi-Planner voyage planning software, both fully compliant with the latest performance standards for shipborne navigation equipment.

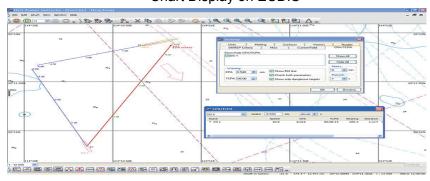
Transas ECDIS systems can be supplied in various configurations, from the computer programs suitable for shipboard training to the full mission simulators with real ship controls.

Configurations may vary to suit individual or group simulator training and the needs for monitoring from the instructor station.

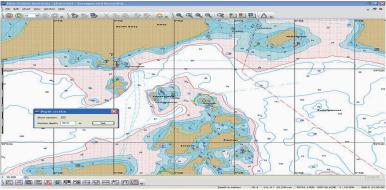
The simulator ensures the efficient training, fully compliant with the IMO and STCW requirements.



Chart Display on ECDIS



CPA/TCPA on ECDIS



Depth of the Water

#### **Visualization**

Leading the way in visualization, Transas offers a brand-new highly realistic visualization system.

Visual presentation of a new wave includes three dimensional bow waves and associated floating object interference, reflection of the entire scene, water translucency and light refraction, white caps, foam and splashes.NTPRO 5000 is the world first simulator presenting dynamic shading calculations of all exercise and scene objects.

Visualization tuning and adjustment module integrated into the simulator provides geometry correction, soft edge blending, uniformity adjustment and color matching.



Sea Clutter



Reflection



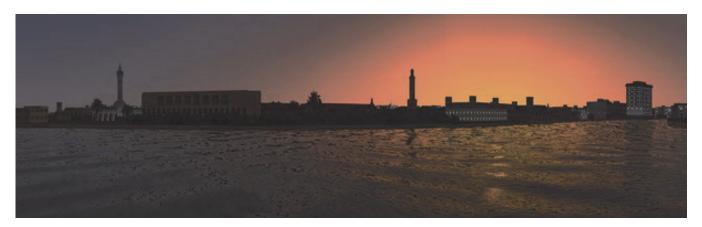
White caps, Splashes



Water Translucency





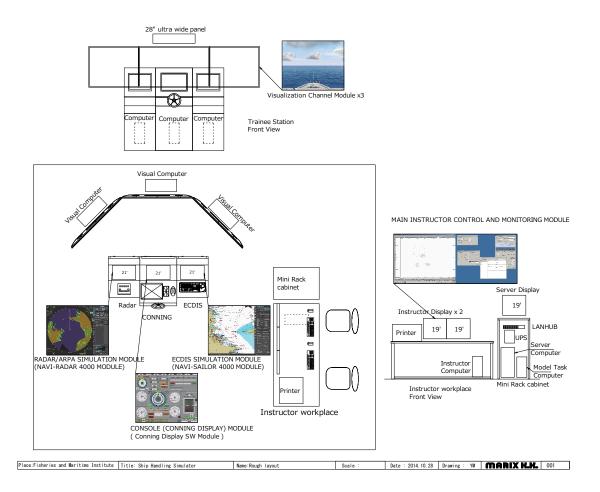


Dynamic shading calculations of all exercise and scene objects

The above visualization is divided into 3 sets of 55 inches Display as below.

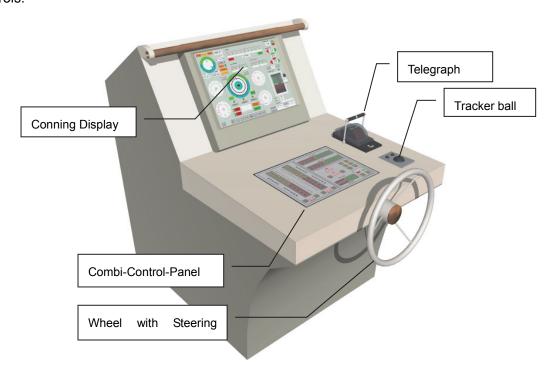


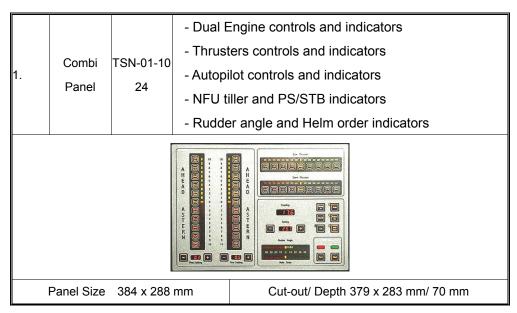
# **System Configuration**

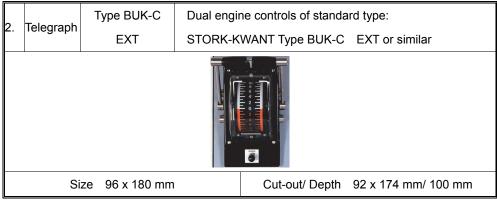


#### **Manoeuvring Console**

The generic smaller bridge joins both, Manoeuvring Station with Conning Display, and Steering Station, using combi- controls.







#### MULI-FUNCTIONAL LCD OVERHEAD SOFTWARE MODULE

This module allows having additional display on the bridge - overhead display, showing the following data:

- Current engine stat order, RPM, pitch;
- Pitch and roll;
- Log data;
- Gyro and magnetic compasses data;
- COG, SOG;
- Direction and force of the wind;
- Other data, relevant for the navigator.



#### **Technical Specifications**

#### 1. Principle

1-1. The system is to be used control computer having flexibility, reliability and extensibility.

and to facilitate feature enhancements, maintenance and administration.

Application programs, scenarios and Data to be stored are Safety protected by an uninterruptible power supply against Server PC.

1-2. The equipment for the Simulator are to have performance of real equipment or equivalent

#### 2. Configuration

This system is to be consist of the below mentioned configuration or more.

2-1.Instructor workplace for Trainer

1.	Server PC	1 pcs (*1)
2.	19 inches Display for Server PC	1 pcs
3.	UPS for Server PC	1 pcs
4.	Calculating PC for movement model	1 pcs (*1)
5.	Instructor PC	1 pcs (*2)
6.	19 inches Display for Instructor PC	2 pcs
7.	Network Hub switch for 24 ports with 1Gbps	1 pcs
8.	Housing for CONNING	1 pcs
9.	Laser Printer for A4	1 pcs (*3)
10. Application software 1 unit		1 unit (*4)
11. Desk and chairs		

<sup>\*1:</sup> To be operated in English

<sup>\*2:</sup> To be described in English for Scenario and operation

<sup>\*3:</sup> To be connected to LAN network

<sup>\*4:</sup> To be operated in English

#### 2-2. Maneuvering console for trainee

1.	CONNING module for Information display,	1pcs (*1)
	Telegraph and Steering	
2.	Application Software for CONNING	1pcs (*2)
3.	RADAR/ARPA simulation module	1pcs
4.	Application Software for RADAR	1pcs (*3)
5.	ECDIS simulation module	1pcs
6.	Application Software for ECDIS	1pcs (*4)
7.	Control PC	3pcs (*5)
8.	21 inches Display for CONNING,RADAR	3pcs
	and ECDIS	
9.	Sound system	1pcs (*6)
10.	Over-Head Panel with 28 inches Ultra-wide	1pcs (*7)

- \*1: To include Engine telegraph, thruster and maneuvering unit (Selectable for Auto, Manual, Emergency and Operating)
- \*2: To be described in English for Information Display of Own Ship, Respective nautical instrument as GPS/AIS, Emergency alarms, Whistling device and Dimmer switch
- \*3: To be described in English for Radar operation with AIS display function Being reproduced Radar Echo based on Scenarios like real equipment
- \*4: To be described in English for ECDIS operation with AIS display function and Radar overlay being reproduced Position of Own ship based on Scenarios like real equipment
- \*5 To be described in English
- \*6 To enable the Acoustic sound to realize external noise, Engine, anchoring
- \*7 To be described in English

#### 2-3. Visualization for Own Ship

Control PC
 55inches display
 3pcs (\*1)
 3pcs (\*2)

\*1: to be operated in English

\*2: to arrange 55 inches Display or more

### 報告書

#### FSM Maritime Wing

AIS 受信装置設置工事 (ミクロネシア)

2014年3月13日~17日@FSM

古野電気株式会社 関東 SC 景山 諒



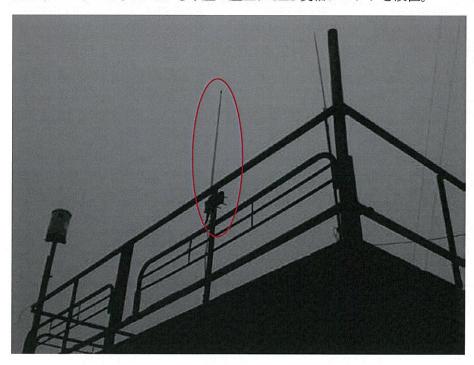


#### 1. FA-30 新設工事

アンテナ設置(山頂のポリス/コンテナハウス屋上)

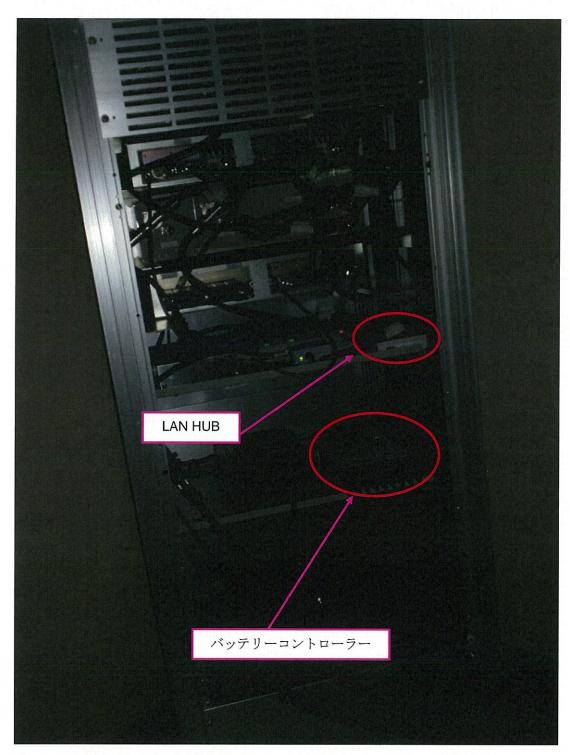


山頂の VHF リピーターが入っている小屋の屋上に AIS 受信アンテナを設置。





9-52 Ashihara-cho, Nisinomiya, 662-8580, Japan Phone: +81 (0)798 63-1071 Fax: +81 (0)798 65-4200, 66-4622 www.furuno.co.jp



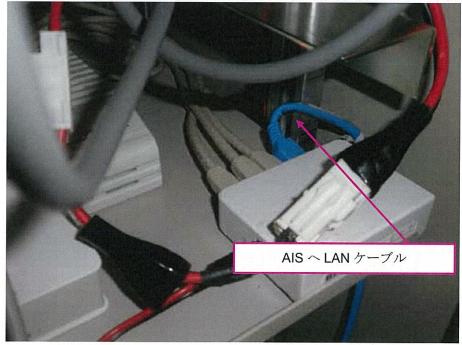
ポリス/コンテナハウス内設置済みの VHF リピーターラック背面図 AIS の電源は、VHF リピーター用のバッテリーコントローラーから取得。 Maritime Wing 事務所と通信するために、HUB へ LAN ケーブルを接続。





FURUNO ELECTRIC CO., LTD.
9-52 Ashihara-cho, Nisinomiya, 662-8580, Japan
Phone: +81 (0)798 63-1071 Fax: +81 (0)798 65-4200, 66-4622
www.furuno.co.jp

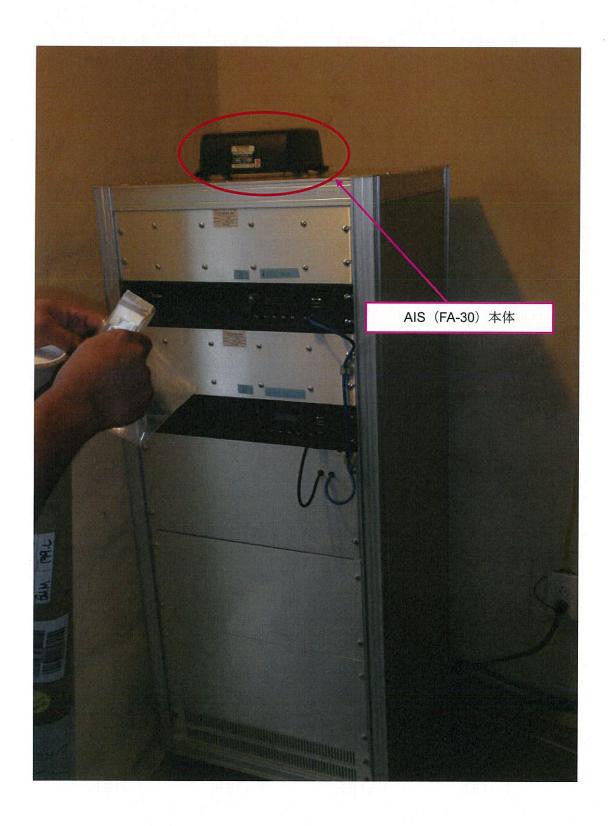








FURUNO ELECTRIC CO., LTD.
9-52 Ashihara-cho, Nisinomiya, 662-8580, Japan
Phone: +81 (0)798 63-1071 Fax: +81 (0)798 65-4200, 66-4622
www.furuno.co.jp





#### Maritime Wing 事務所無線室



VHF 用 HUB の空きポートに LAN ケーブルを繋ぎ、VHF リピーター用の Wifi 経由で山頂 と通信する。





今回設置した PC。 メーカー: SONY

型式: SVF15217CGW

スペック: Intel Corei3 Processor・ Windows 8・ Display: 15.5 inch; 1366x768; touch screen・

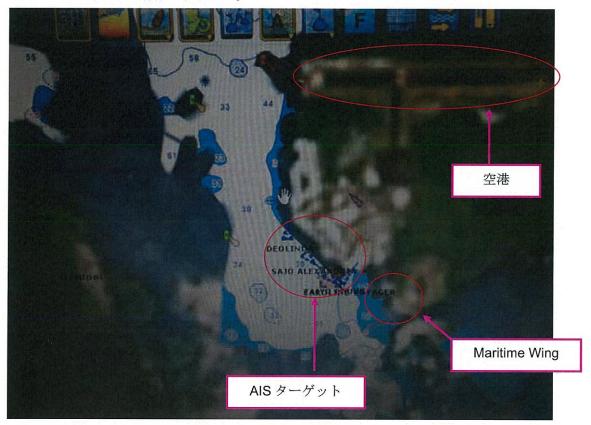
Memory: 4 GB · HDD: 500 GB

MaxSea 社 (Furuno Group) のソフト「Time Zero」をインストールし、AIS 情報を監視できることを確認。





リカバリーディスクも作成し、納めた。



AISターゲットの表示画面。開通時は四隻確認できた。

VHF リピーターの系統と IP アドレスを設定。AIS と PC は下記のように設定した。

AIS IP: 192.168.0.16

subnet mask: 255.255.255.248

PC IP: 192.168.0.17

subnet mask: 255.255.255.248

実通確認、良好の確認を責任者の Peter 氏から頂き、Acknowledgement of Receipt に署名を頂いた。

以上

#### Acknowledgement of Receipt

(AIS Receiving Facilities)

TO: The Japan Association of Marine Safety

I, hereby, acknowledge that the AIS receiving facilities stated as bellow were exactly received by the Government of the Federated States of Micronesia.

- 1. AIS Receiver (FURUNO model FA-30) with Accessories
- 2. Antenna for VHF
- 3. PC device for AIS-Display system

Date 17/MAR/ 2014

Signature Ryo Kageyana
Name in print RYO KAGEYAMA
Job Title Installation of FA-30
Organization Surface
Maritime Wing   National Police
Maritime Wing offers of Pakalik
P.O. Box 28 Kolonia Pohnpei
Federated States of Micronosia



#### **FSM NATIONAL POLICE**

Palikir, Pohnpei Department of Justice



Tel: 320-2384 / 5983

Fax: 320-5103

Email: fsmvms@mail.fm

March 26, 2014

To:

Takayuki Yamakawa

From: Steward Peter

Commander Maritime FSM

Re:

**AIS Receiver** 

Yamakawa-san, We the Division of the Maritime Wing FSM National Police conveys our sincere thanks for your support in installing the AIS receiver.

On March 17, 2014 the installation of the AIS system was completed.

On the very next day March 18, 2014 we received a distress call from the vessel Jewel of Dubai requesting assistance in a medical evacuation of one of her crew.

Thanks to the repeater system for VHF communication and the AIS we were able to better coordinate with the vessel in distress guiding her to a suitable station for extraction in the most expeditious manner.

Thank you again for all your support.

ward Peter, CMDR

Commander Maritime Surveillance

**FSM National Police** 

#### 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」

#### ミクロネシア連邦:法務大臣一行による海上保安庁訪問と施設見学(1)

月日:2014年11月4-5日(火、水) 場所:海上保安庁、横浜保安部



鈴木海上保安監を表敬訪問し、意見交換



鈴木海上保安監と記念品の交換



横浜保安部巡視船艇岸壁



巡視艇「はまぐも」体験航海



横浜ベイブリッジを背景に



巡視艇「はまぐも」乗組員と

#### 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」 ミクロネシア連邦:法務大臣一行による海上保安庁訪問と施設見学(2)

月日:2014年11月4-5日(火、水) 場所:海上保安庁、横浜保安部



横浜保安部巡視船艇岸壁にて



荒天訓練用のプール見学



油防除機材及び機動防除隊の見学



特殊救難隊の訓練を見学



射撃場の見学



横浜保安部との意見交換

#### 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」 ミクロネシア連邦:法務大臣一行による海上保安庁訪問と施設見学 ~笑顔の交流~

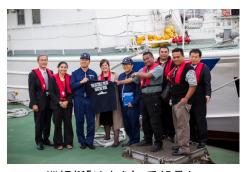
月日:2014年11月4-5日(火、水) 場所:海上保安庁、横浜保安部



横浜保安部巡視船艇岸壁にて



横浜ベイブリッジを背景に



巡視艇「はまぐも」乗組員と



横浜保安部との意見交換



横浜保安部との意見交換



横浜保安部との意見交換



ミクロネシア側からの記念品



記念品を手に集合写真

#### 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」 ミクロネシア連邦:法務大臣一行による造船所見学

月日:2014年10月31日(金) 場所:墨田川造船KK



造船所の概要説明



建造現場見学



造船所前にて

#### 「ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト」 パラオ: 小型パトロール艇「KABEKEL M 'TAL」がベトナム違反船を検挙

月日:2014年10月29日(水) 場所:パラオ共和国コロール港



「KABEKEL M'TAL」がベトナム船2隻を連れて帰港



ベトナム船を監視中

法務省海上法令執行部(DMLE)は2014年10月28日(火)午後、「パラオの西側沿岸で外国漁船が違法操業している」との情報を得て、日本財団が供与した小型パトロール艇「Kabekel M'tal」に、自動小銃等を積み込んで出港した。

翌29日(水)午前、検挙したベトナム漁船2隻を伴って帰港し、海上法令執行部の沖合に錨泊させ、船内を捜索するとともに、乗組員(十数名)を取り調べた。

#### ベトナム漁船3隻を拿捕

(「ISLAND TIMES」、2014年11月7日(金)、Jose Rodriguez Senase 記者)

2014 年 11 月 5 日 (水)、38 名の乗組員を含む 3 隻のベトナム船籍漁船が、パラオ当局によって拿捕された。

パラオ公安局 (BPS) 海上法令執行部 (DMLE) のトーマス・トゥッティ部長によると、4日 (火) 午前 9時 15分頃、「カヤンゲル州のベラスコ・リーフ (Velasco Reef) 付近に 3 隻の外国漁船が居る。」旨の通報があったとのことである。

同部長によると、海上法令執行部は、日本財団から寄贈されたパトロール艇「カベケル・マタル」及びつい最近寄贈されたゴムボート型「高速救難艇」に計3チームを乗船させ、直ちに同海域に派遣したとのことである。

また、海上法令執行部では、政府の水産・野生生物保護部、薬物対策部及びカヤンゲル州環境保護隊から職員の応援を受けたとのこと。

同日、さらに、海上法令執行部宛に「同海域に5隻の漁船が居る。」旨の新たな通報がもたらされた。

同部長は、「我々はこの通報を受け、この業務を支援するため、さらに『PSS レメリーク』を派遣した。」と述べた。

同部長によると、3隻のベトナム漁船は、5日の午後3時頃、これらのパトロール・ボートによって拿捕されたとのこと。

同部長は、「同海域には5隻の漁船が居るとの通報があったことから、拿捕した3隻以外に逃走した漁船が居ないか確認するため、『パラオ・ミッション・航空』(Palau Mission Aviation)の航空機により上空からの捜索を行った。その結果、その海域では、先に拿捕した3隻以外の外国漁船は発見されなかった。」と述べた。

同部長によると、ベトナム漁船は拿捕された際、ナマコ、タイマイ2匹及び 生ロブスターを所持していたとのこと。

また、ベトナム漁船内にダイナマイト4個を発見したため、本日(11/7)、別の捜査チームが火薬その他の爆発物の捜索のため派遣される予定とのこと。

さらに、同部長によれば、次のとおり。

「拿捕された漁船は、すでに海上法令執行部に護送され、アンカーを下した状態で拘束中である。」

「38名のベトナム人乗組員のほとんどが20代前半であり、6日午前、海上法令執行部近くにある建物(アバイ)において、パラオ保健省伝染病対策本部(CDU)の職員により健康状態の検査を受けた。」

「捜査官らは、これらのベトナム漁船に乗船し、ナマコやその他の積載物について確認及び記録作業を行う予定である。」

「ベトナム人漁船乗組員を、不法入国、無許可操業及びその他の罪状で起訴する予定である。」

漁船乗組員に聞いたところ、彼らはベトナム南部クアンガイ省の出身である。 クアンガイ省は、ベトナム中南部の沿岸地方の省で南シナ海に面している。ハノイから南に883km、ホーチミンから北に838kmの場所に位置している。

今回の3隻の拿捕は、2014年10月28日にアイライ州沖で28名の乗組員を含むベトナム漁船2隻を拿捕した事件に続いて発生したものである。

また、今年3月にも、パラオ当局は8名のベトナム人漁船乗組員をカヤンゲル州の海洋保護区域における違法漁業の罪で逮捕している。この8名はいずれもクアンガイ省の出身で、違法漁業の罪を認め、1年間の執行猶予付き判決を受けたあと、釈放されベトナム本国に送還されている。

(了)



#### THREE VIETNAMESE BOATS APPREHENDED

FRIDAY, 07 NOVEMBER 2014 09:17

By Jose Rodriguez T. Senase

#### Reporter

Three Vietnamese boats with some 38 crew were apprehended by Palau authorities on Wednesday, November 5, 2014.

Bureau of Public Safety (BPS) Division of Marine Law Enforcement Chief Thomas Tutii said they received a call around 9:15 Tuesday from a concerned citizen regarding the presence of three foreign fishing vessels at Velasco Reef in Kayangel State.

He said that they immediately dispatched to the area three boarding parties aboard the Kabekel M'tal patrol vessel and the new inflatable patrol vessel donated by Nippon Foundation.

Tutii said the DMLE was assisted by personnel from the Division of Fish and Wildlife, Division of Drug Enforcement, and Kayangel Rangers.

The DMLE Chief said that later that day they received another report informing them that there were five boats in the area.

"We then dispatched the PSS Remeliik to assist in the operation," Tutii disclosed.

Tutii said the three Vietnamese fishing vessels were apprehended by the patrol boats around 3:00 in the afternoon of Oct. 5.

"Because of the later report that five boats were in the area, we made an aerial survey aboard the Palau Mission Aviation plane to make sure no other boats escaped. Except for the three earlier captured, we did not see any other foreign fishing vessel there," he said.

Tutii said that the Vietnamese boats were carrying sea cucumbers, 2 Hawksbill turtle, and live lobsters when caught.

Tutii said that they also discovered four dynamites in the Vietnamese boats. A team will go to the boats today to check for gunpowder and other explosives," he said.

He said the boats were escorted to the Marine Law Dock where they are anchored and tied up.

The 38 Vietnamese, many of them in their early 20's, were checked by personnel of the Communicable Diseases Unit (CDU) of the Ministry of Health (MOH) yesterday morning at the abai near the Marine Law building.

Tutii said that a team will go aboard the Vietnamese boats to check and document the sea cucumbers and other stuff aboard them.

He said that they are planning to file Illegal Entry, Fishing Without a Permit, and other charges against the Vietnamese fishermen.

Quảng Ngãi is a province in the South Central Coast region of Vietnam, on the coast of South China Sea. It is located 883 kilometers (549 mi) south of Hanoi and 838 kilometers (521 mi) north of Hồ Chí Minh City.

In a brief interview, the fishermen stated that they came from Quang Ngai Province in the southern part of Vietnam

The apprehension of the three Vietnamese boats came in the heels of the capture of two Vietnamese vessels with 28 crew off Airai State

on October 28, 2014.

In March of this year, Palau apprehended eight Vietnamese fishermen illegally fishing at a protected area in Kayangel State. The fishermen, who were also from Quang Ngai Province, were later released and repatriated back to Vietnam after they pled guilty to illegal fishing and received one year suspended sentence.

#### パラオ当局がさらに3隻のベトナム漁船を逮捕

(2014年11月14日付 Island Times)

パラオ当局により、さらに3隻のベトナム漁船がカヤンゲル州沖の保護海域内において逮捕された。

最新の状況では、先月からパラオ当局により8隻のベトナム漁船が逮捕されている。

カヤンゲル州知事 Jeffrey Titiml 氏によると、2014 年 11 月 7 日(金)の夜にカヤンゲル州レンジャーと海上法令執行部職員が警備艇「Kabekel M'tal」に乗船し、違法漁業の監視のため、ゲルアンゲル海洋保護区に赴いた。

「これらベトナム漁船は通常夜の間に保護区域内で操業し、昼の間は区域外にいる。」と同氏は語った。

カヤンゲル州知事によれば、当局はその夜最初に3隻と接触したとのこと。「数時間後に、 その数は6隻に増えた」ということである。

同氏はまた、取締官は海上法令執行部に増援のため連絡をとり、外国漁船と特定された当該漁船の追跡・捕捉オペレーション開始のため土曜日朝まで待機した、と語った。

警備艇 PSS Remeliik と Bul が出動し、Kabekel M'tal とともに 3 隻を捕捉、ベトナム漁船と特定された。他の 3 隻は逃走したとのこと。

同氏によると、ベトナム漁船 3 隻は 11 月 8 日午後遅くに、ケソルとネラエル礁の間で逮捕された。

当該漁船で発見されたドラム缶には、ナマコ、ロブスター及びサンゴ礁に生息する魚が満載されていたとのことである。

また同氏は、ベトナム船3隻の船長を除く乗組員は警備艇に移送されたと語った。3隻の漁船に43人のベトナム人が乗っていた。彼らの出生地はまだ明らかになっていない。

「船長を乗せた当該漁船は、取締チームとともにコロール向け回航された。」と同氏は明か した。

回航中、1隻の漁船が突然爆発し、沈没した。同氏によると、取締官数人が出火・爆発の前に燃料の臭いに気付いたとのことである。

「漁船は滑りやすく、また軽油の臭いがしていた」と同氏は指摘した。

残りの2隻と伴走の警備艇は、9日の朝に海上法令執行部岸壁に到着した。拿捕された漁船 は海上法令執行部に錨泊している。

同氏は、海上法令執行部とカヤンゲル州レンジャーは、この業務の間、アルコロン州レンジャーと魚類及び野生動物保護部並びに薬物対策部の支援を受けた、と語った。

カヤンゲル知事は、カヤンゲル州とアルコロン州レンジャーに銃器を支給するよう求めている。

「銃器が無いことから、レンジャーにとって区域内のこのような違法外国漁船の捕捉は困難である。」と知事は指摘した。

同氏は、11月11日夜、レンジャーに銃器が無かったこと及び小型ボートを使っていた事から、違法漁業を行っていた外国漁船と見られる船数隻を追跡・捕捉できなかった事案を言及した。

海上法令執行部の Thomas Tutii 部長は、逃走防止のため警備を強化し、捕まえた乗組員を 1 隻の漁船内に集めている、と語った。

同氏によると、これら漁船の乗組員は、違法漁業、違法入国及びその他の罪に問われることとなる。

「我々にはまだベトナム語を話せる通訳がいない」と同氏は話し、また捜査と法廷での通訳 支援のためベトナム語を解する者を求めているということである。

同氏はまた、海上法令執行部は既に国務省に連絡をとり、この事案収束のために在フィリピンのベトナム大使館から人の派遣を受けた、と明かした。

本年 11 月 5 日に、38 人乗組みのベトナム漁船 3 隻がカヤンゲル州のベラスコ礁沖においてパラオ当局に逮捕されていた。これに先立つ 10 月 28 日、アイライ州海域においてベトナム漁船 2 隻及び乗組員が逮捕されている。

本年3月には、パラオはアルアンゲル保護区において違法漁業をしたとして8人のベトナム 漁民を逮捕している。



### Palau authorities capture 3 more Vietnamese fishing craft

WRITTEN BY ADMINISTRATOR

FRIDAY, 14 NOVEMBER 2014 14:05

One of the boats burned shortly after capture

By Jose Rodriguez T. Senase

#### Reporter

Three more Vietnamese fishing craft were apprehended by Palau authorities while inside a conservation area off Kayangel State.

The latest incident brought to eight the number of Vietnamese fishing craft apprehended by Palau authorities since last month.

Kayangel Governor Jeffrey Titiml disclosed that Kayangel State Rangers and Marine Law personnel aboard the patrol boat "Kabekel M'tal" went to Ngeruangel Marine Reserve evening of Friday, November 7, 2014 on the lookout for illegal fishing activities in the area.

"These Vietnamese boats usually fish inside the conservation at night and then leave the area during the day," he noted.

According to the Kayangel Governor, authorities initially spotted three contacts that evening. "Hours later, the number increased to six," Titiml said.

Titiml said that they called Marine Law for backup and waited until Saturday morning to initiate the operation to chase and capture the contacts, which were identified as foreign fishing vessels.

Titiml said that the patrol boats PSS Remeliik and "Bul" responded to the area, and together with "Kabekel M'tal", caught up with three boats, which were identified as coming from Vietnam. The other three contacts were able to slip away.

According to the Governor, the three Vietnamese boats were apprehended late afternoon of Saturday, November 8, 2014 between Ngkesol and Ngerael Reefs.

He said that drums filled with sea cucumbers, lobster and reef fish were found on the boats.

Titiml said the crew of the three Vietnamese boats minus their captains was transferred to the patrol vessels. There were 43 Vietnamese aboard the three boats. Their place of origin has not yet been ascertained.

"The captains together with boarding (steaming) parties remained with the boats as they were being escorted towards Koror," he disclosed.

While underway, one of the boats suddenly erupted in flames and sank. Titiml said that before the fire erupted the smell of fuel was noticed by some of the apprehending authorities.

"The boat was slippery and there was smell of diesel," he pointed out.

The remaining two boats and their escorts arrived at the Marine Law Dock on Sunday morning, Nov. 9, 2014. The captured boats remain anchored at the Marine Law Dock.

Titiml said the Division of Marine Law and Kayangel Rangers were assisted in the operation by Ngarchelong Rangers and personnel from the Division of Fish and Wildlife and Division of Drug Enforcement.

The Kayangel Governor then appealed for firearms to be provided to the Kayangel and Ngarchelong Rangers.

"It is hard for the Rangers to go after those foreign boats illegally fishing in our areas because of lack of guns," he pointed out.

Titiml cited an incident on the night on Nov. 11 where the Rangers were unable to chase and capture several contacts, which were believed to be foreign fishing vessels illegally fishing in his State, because of the lack of firearms and the small boat they are using.

Marine Law Chief Thomas Tutii said the captured crew is being held inside one of the boats with tightened security to prevent their escape.

Tutii said they will file Illegal Fishing, Illegal Entry, and other charges against the Vietnamese crew of the three boats.

"We don't have an interpreter yet who knows the Vietnamese language, "said Tutii, while appealing for someone who has knowledge of the language to come forward and help interpret for the Vietnamese in court.

The Marine Law Chief also disclosed that they have already contacted the Ministry of State (MOS) so it gets somebody from the Vietnamese Embassy in the Philippines to come to Palau to settle the matter.

On November 5, 2014, three Vietnamese fishing vessels with 38 crew were apprehended by Palau authorities off the Velasco Reef in Kayangel State. Prior to that, on October 28, 2014, two Vietnamese-crewed boats were captured in waters of Airai State.

In March of this year, Palau apprehended eight Vietnamese fishermen illegally fishing at Ngeruangel Conservation Area.



#### 日本財団がパラオの海上監視能力強化に協力へ

レメンゲサウ大統領は、日本財団に よる海上保安能力強化支援の提案を再 検討するため、同財団の海野常務理事 と会談した。日本財団は、『21 世紀に おける持続的な日本ーパラオ海洋アラ イアンス』の創設を提案した。この連 携協力の主目的は、日本、米国及びオ ーストラリアとの協力のもと、海上保 安能力を強化し環境保全を促進するこ とによって、パラオが自立した海洋国 家として歩むための支援である。

レメンゲサウ大統領は、同提案の実用性、実現可能性及び海洋保護区の設置並びにハイバリュー観光政策に関し、パラオ政府の運営や取組みと一致している点に感銘を受けた。更に、2014年 President Remenges on the Nippon Foundation.



President Remengesau with Mitsuyuki Unno, the Executive Director of the Nippon Foundation.

12 月に日本においてこれらの支援要請をしたばかりにもかかわらず、日本財団の熱心かつ 迅速な仕事ぶりに感銘を受けた。

日本財団及び笹川平和財団は、現在のオーストラリア供与の中型パトロール艇 1 隻、日本財団供与の小型パトロール艇 2 隻の合計 3 隻体制から、PSS Remeliik の同等船として中型艇 1 隻、Bul 及び Kabekel' Metal の同等船として小型艇 1 隻をさらに追加することで 5 隻体制に格上げし、パラオの海上保安能力を強化するという提案を行った。

両財団はまた、燃料の供給、定期整備及び海上保安業務を運営するための人件費を提供する計画である。

両財団は、これらのパトロール艇及び全ての海上保安業務を運用する Palau Coast Guard Bureau (パラオ海上保安局) の設立についても提案している。

2 隻の巡視船に対応できるよう既存の停泊地の拡張工事、もしくはマラカル港で専用の停

泊地を整備するよう提案している。

両財団及びパラオ政府は、この巡視船等の建造中に、巡視船乗組員と職員の確保で協働する。

また、両財団は、日本海上保安庁の現役、又は OB 職員を確保して常駐派遣させる。

提案では、会議室、運用司令室、機材庫、逮捕術の訓練や体力練成等を行うためのトレーニングルームを備えた庁舎が含まれている。

民間航空会社が所有する航空勢力をタイムチャーター方式で活用することにより、海洋 監視業務のためのヘリコプターや飛行機といった航空勢力の活用を可能にするための支援 についても、両財団により提供される。

この目的の成果として、パラオの領海及び EEZ における事案即応体制の充実及び違法・ 無許可・無報告 (IUU) 漁業のような違法行為の抑止が期待される。

また、「パラオ共和国におけるエコツーリズムの促進と観光振興計画のための枠組み」という、もう一つの構成要素についても、大統領に提示された。パラオの自然環境の持続的な発展の手段としてのエコツーリズムの促進という目的のため、パラオにおける環境保全及び環境振興の現状を把握するための総合的な調査が実施され、他国との比較を踏まえて環境保護規制のあり方、環境振興の方策にかかわるグランドデザインを策定する。また調査実施にあたっては、エコツーリズムの理念に沿った各主体(地域住民、パラオ政府、研究者及び事業者)間の連携協力のあり方についても検討が行われる。

この調査のため、エコツーリズム、環境、環境法及びパラオ専門の事業者及び研究者により構成される調査委員会が初めて設立される。この調査委員会は調査の方向性に対する検討、現地実態調査(FFS)と具体化可能性調査(FS)の実施、調査結果に関する評価を経て、調査結果を取りまとめる。調査期間は12ヶ月の予定。

この調査チームは、エコツーリズムの専門家として北海道大学観光学高等研究センター、 日本エコツーリズム協会、パラオ専門の社会学者として太平洋諸島センター、大阪大学未 来戦略機構、在パラオ日本大使館、環境・環境法の専門家として一橋大学大学院法学研究 科、琉球大学国際沖縄研究所の各専門家及びパラオ観光協会により構成される予定である。

レメンゲサウ大統領は海野常務理事に感謝を述べ、また日本財団会長笹川陽平氏に感謝 の意を示した。

「私は、実用的なタイムラインを持った緻密で現実的なこの実施計画を見て非常に嬉しい。パラオはこの優れたパートナーシップを楽しみにしている。」と大統領は語った。現在 (この記事掲載時)、『21 世紀における日本ーパラオ持続的海洋アライアンス』の創設のための覚書 (MOU) が最終合意に至りつつある。

(2015年2月12日付 Island Times)



## Nippon Foundation looking at strengthening Palau's maritime surveillance capabilities

WRITTEN BY ADMINISTRATOR
THURSDAY, 12 FEBRUARY 2015 23:53



President Remengesau met with Mr. Mitsuyuki Unno, the Executive Director of the Nippon Foundation to review a proposal by the Nippon Foundation to strengthen Palau's maritime surveillance capabilities. The Nippon Foundation proposes to create the "21st Century Japan-Palau Sustainable Ocean Alliance." The primary objective of the Alliance is to support Palau in its path towards becoming a self-reliant maritime nation by further strengthening maritime law enforcement and promoting environmental protection and eco-friendly industries with support from Japan, the U.S. and Australia.

President Remengesau was impressed by the proposal's practicality, feasibility and its cohesion with Palau's direction and efforts in establishing its National

Marine Sanctuary and its position in creating high-value tourism. The President was moreover impressed with the diligent and prompt work of the Nippon Foundation having only requested these forms of assistance in December 2014 in Japan.

The Nippon Foundation and the Sasakawa Peace Foundation propose to strengthen Palau's maritime surveillance capabilities by upgrading the present three vessel surveillance system of one medium-sized patrol vessel provided by Australia and two small patrol boats provided by the Foundations into a five vessel system by providing Palau with an additional medium-sized patrol vessel to accompany the PSS Remeliik and another small patrol boat to accompany the Bul and Kabekel' Metal. The Foundations will provide assistance for fuel, maintenance and personnel costs to support maritime surveillance operations.

The Foundations also propose the establishment of the Palau Coast Guard Bureau that would manage the fleet and all maritime surveillance operations. The Foundations propose to construct an extension of the existing patrol boat vessel berth to accommodate two patrol vessels or a dedicated birthing facility will be prepared at Port Malakal.

The Foundations and Palau will work together in recruiting personnel and vessel crew while the vessels are in construction. The Foundations will also recruit active or retired Japan Coast Guard personnel to be dispatched on a full time basis. The proposal includes the construction of an office building with meeting rooms, an operational command room, materials warehouse, training room for martial arts and arresting technique and fitness training to be built. Assistance shall be provided by the foundations to enable the use of aircraft such as helicopters and airplanes for maritime surveillance duties by utilizing those assets owned by aircraft operationcompanies on a time charter basis.

The expected outcome of this objective is an increased preparedness and coverage for prompt responses in both Palau's territorial waters and its Exclusive Economic Zone and a strengthened deterrence to prevent illegal and criminal activities such as IUU fishing.

An additional component to the proposal was also presented to President Remengesau that is the "Framework for Plan to Study the Promotion of Tourism and Ecotourism in the Republic of Palau." With the aim of promoting ecotourism as a means for sustainable development of Palau's natural environment, a comprehensive study will be conducted to ascertain the actual state of environmental protection and tourism promotion in Palau, and then compared to

those of other nations so as to formulate a grand design with respect to the role of environmental protection regulations and measures for tourism promotion. Also, in conducting this study, consideration will be given to ways in which liaisons may be strengthened among agents (community residents, Palau government, researchers and businesses) in line with the ecotourism philosophy.

For this study plan, an exploratory committee, which will be comprised of business people and researchers concerned with ecotourism, environment, environmental law and Palau studies, will first be established. The committee will examine the direction this study will take, conduct a Fact Finding Study (FFS) and Feasibility Study (FS), then, after an assessment of the study's results, will submit the final report. The study period will be 12 months.

The study team will be composed of experts from the Center for Advanced Tourism Studies, Hokkaido University, the Japan Ecotourism Society, Sociologists specializing in Palau, Pacific Islands Center, the Institute for Academic Initiatives, Osaka University, Embassy of Japan in the Republic of Palau, experts in environment, ecosystems and environmental Law from the Graduate School of Law, Hitotsubashi University and the Japan Association for Environmental Law and Policy, the International Institute for Okinawan Studies, University of the Ryukyus, and the Palau Visitor's Authority.

President Remengesau thanked Mr. Unno and his team and expressed his appreciation to the Chairman of the Nippon Foundation, Mr. Yohei Sasakawa. The President also added that, "I am immensely pleased to see a plan of action that is this both methodical and realistic with a sensible timeline. Palau looks forward to this exceptional partnership." As of press time, a Memorandum of Understanding is being finalized for the creation of the "21st Century Japan-Palau Sustainable Ocean Alliance."

#### 2014,5,13 Island Times:プロジェクトの紹介

Islandtimes, Tuesday, May 13, 2014

#### Japanese group to help upgrade Palau's maritime capabilities

The Japanese group, Nippon Foundation through the Japan Association of Marine Safety (JAMS) and the Republic of Palau has signed the second phase assistance for the improvement of the coast guard

improvement of the coast guard capabilities.
Vice President and Justice Minister Antonio Bells signed the MoU on behalf of the Gov-ernment of Palau together with The Japan Association of Ma-rine Safety president Yoshio Nakahata.

Nakahata.

In the MoU, The Nippon Foundation through JAMS will be giving another patrol boat to the Division of Marine Law Enforcement. The additional patrol boat will be 15-meter in size and will have a maximum. patrol boat will be 15-meter in size and will have a maximum speed of 30 knots. The patrol boat will be equipped with a ra-dar, electric chart, echo sound-ing device, GPS receiver/AIS receiver, Integrated naviga-tional device (NAVNET), HF/ VHF radio communication system, satellite communication system, satellite communication system, satellite dequipments including life jackets, EPIRB, Radar transponets, EPIRB, Radar transponder, fire extinguisher, anchor and anchor winch, flash warning light, search light, a loud speaker system, binoculars, mooring equipment including ropes and fenders, medical and rescue set and lifting cradle and slings.

Aside from the patrol boat, The Nipnon Foundation through

The Nippon Foundation through JAMS will also be giving a fast rescue rubber boat, which will be 7-meter in size and weights 1.5 tons. The shallow water fast rescue rubber boat will have a total of 10 people on board and

total of 10 people on board and will have a maximum speed of 30 to 40 knots. It will also have a towing facility that includes a trailer suitable for the rubber boat and a towing vehicle.

The Nippon Foundation through JAMS will also be providing Palau with two sets of out-board engines, a forklift, floating devices or "aqua-lifter" and upgrading communication capability.

capability.

For the out board engines The Nippon Foundation through JAMS will be giving Palau two sets of engines, namely Yamaha 85HP, with the fully fitting accessories that will be used to fit the multi-use small motor to the multi-use small moor boat owned by the Division of Marine Law Enforcement. For the forklift, it will have a lifting capacity of 3,000 kg and will be use for lifting and transporting heavy equipments and materials in the Division of Marine Law Enforcement.

Law Enforcement.

The aqua-lifter or floating devices are two sets of floating capacity of 1,000 kg and two sets of floating capacity of 500 kg. The floating devices will be use for rescue missions espe-cially for keeping the buoyancy of damaged/sinking boats.

For the upgrading of the

BY PETER ERICK L. MAGBANUA Reporter

The Japanese group, Nippon Foundation through the Japan Association of Marine Safety (JAMS) and the Republic of Palau has signed the second phase assistance for the improvement of the coast guard capabilities. the substitute of the old anten na tower that was broken down by the typhoon; setting up the repeater antenna on the newly constructed tower and repeater system on the ground; setting up the communication link between the operation room in the base of the Division of Marine Law Enforcement and the Repeater station.

Repeater station.

Aside from that there will also a construction of the VHF Repeater system for the coverage of the Northern area of Palau and it will include construction of a new antenna tower for the VHF Repeater system on the top of the designated point/hill in the northern area for a wider VHF communication coverage of the Northern cation coverage of the Northern cation coverage of the Northern sea area; and the setting up of communication link between the operation room in the base of the Division of Marine Law Enforcement and the Repeater

Aside from that, The Nip-pon Foundation through JAMS pon Foundation through JAMS will provide expenses in order to secure and facilitate law enforcement activities of the Division of Marine Law Enforcement such as spare parts will be provided based on the standardized periodical maintenance plan made by small craft maker; JAMS will provide technical instruction and training for maintenance of the small craft on the occasion of annual heavy maintenance work; the support will be provided from the day of the handover of the small craft until the end of March 2020 and will be conducted by a designated the end of March 2020 and will be conducted by a designated company under the contract with JAMS; daily check and periodical maintenance including pre-departure check shall be duly conducted by the crew members/personnel of the Division of Marine Law Enforcement besed on the check and

memoerspersoner of the Division of Marine Law Enforcement based on the check and maintenance manual made by the small patrol craft maker, and the repair cost for the damages caused whether intentionally or negligently, will not be covered by JAMS.

The Nippon Foundation through JAMS will bear the cost of fuel for the small patrol craft to an agreed amount. The budget for fuel cost support will be at 4,000,000 Japanese Yen per year. The Division of Marine Law Enforcement shall record the daily activities of the small patrol craft in the designated form and report to JAMS every beginning of the following month, based on the previous month, based on the previous month record. JAMS will send their personnel for auditing purposes at least once a year.

#### (産経新聞・1面トップ) 20140603(火)



#### 平洋の島嶼国を訪問される 戦地となったパラオなど太 慰霊のため、 後70年となる来年、 天皇、 皇后両陛下が、 先の戦争で激 、戦没者 戦 ていることが2日、

万向で宮内庁などが検討し 望し、 めて多くの日本人が命を絶 の碑に供花し、民間人も含 イパン島をご訪問。 南方地域の戦没者慰霊を希 た「バンザイクリフ」で 両陛下は戦後60年の際 平成17年6月に米サ 戦没者

分かっ 黙禱をささけられた。 手段や警護などの問題か ーシャル諸島のご訪問もこ リリュー島があるパラオ 軍1万人以上が玉砕したペ のとき検討されたが、 両陛下は長年、 ミクロネシア連邦、 実現していなかった。 国内はも 移動

日本 れている。 気持ちを、 とした戦没者への慰霊のお とより、遠く海外で命を落 強く持ち続けら

問は、 受けて国際親善などを目的 通常、 相手国からの招請を 両陛下の海外ご訪

> も、こうした両陛下の強い いことだった。今回の検討 訪問されたのは、前例のな 霊のためだけにサイパンを お気持ちを受けたものとみ に行われており、 戦没者慰

れていた。 夢を持って生きていた多く 痛ましい限りです」と悼ま ったことを思うと、 語り、「前途にさまざまな 残っている出来事について 会見で、80年で特に印象に られる。 のお誕生日を前にした記者 先の戦争のことです」と 陛下は、 人々が、若くして命を失 昨年12月の80歳 本当に

は約2万人。英語とパラオ語を公用語とする。第 聖地としても知られる。 大戦後、日本が約30年間統治した。 大小約200超の島からなるが大半は無人島で、人口は小約200超の島からなるが大半は無人島で、人口は、488平方はいで、神奈川県の5分の1程度。 パラオ 正式名称はパラオ共和国。 近年はダイバー 総面積は 第 次 口

# 1面 20140720(日) 日本海事新聞 海の日特集

発行剂 日本海事類別社 本社 〒105-0004 東京都県区新潟5-19-2 ①日本海事新聞社2014 THE JAPAN MARITIME DAILY

日刊(土組・日曜・花日休刊) 第19789号 (2014年5) 7/20 ₪

海の日特集

**海運・造船・クルーズ編** 

1994年に発効した国連海洋法条約は、国家と海洋との オは、国土の面積は屋久島(鹿児島県)とほぼ同じわずか 関わりに新たな秩序をもたらした。太平祥の島嶼国バラ 488平方たなだが、同条約の規定する同国の排他的経済水 域(原位)は広大で、日本と同じ海洋国家ともいえる。海洋 の利用と共存への関心が高まる中で、バラオは無とどう (聞き手 日本海事新聞社社長・大山高明) 何き合うのか。トミー・レメンゲサウ大統領に聞いた。

2面に続く



ミー・レメングサウ大統領 現地単独インダブュー

84ンタビュー レメンゲサウ大統領「世界に益する海洋保護区を設定」 専門旅行会社に聞く(今昔) 8日本財団/巡視壁/皇担を供与 藤木幸木・藤木企業社長/在日本パラオ名誉領事に就任 メッセージ 駐日パラオ大使 フラン・ス・マッタロウ 国欧州航路/P 3 中止、C K Y H E 発足 国歌大都が G 6 西岸・大西洋に拡大 パラオと日本 最新リポート



データで読み解く

3

2014年(平成26年) 7月20日(日曜日)



基づき世界は新たな 海洋秩序を複雑して いるが、貧困でまな 大な管轄海域を生か しての特続的な経済 成長と国民生活の水 準向上にどのように 取り組んでいるか。 **また経済政策や開境** 保全政策を進める上 で、日本との二国間 関係に原体すること

+6" 「われわれは国連海洋法条約を歓迎し、 同条約がもたらず秩序はわが国の利益に資 するものと考えているこ

「同条約は単に毎年の利用についてだけ でなく、毎年国家にとっての領海の法的管 理の枠組みについても規定しているが、特 筆すべきは、同条約が各国に対し毎年環境 の保護を求めているという点だろう」

「わが国のような小さな島国には、策勝 の境界を声音に主張し、力を頼みに守り抜 くというのは困難なことだ。また、他国に よる毎年に対して有害な行いを、資金や圧 力によって切止するということもできな

「しかし国連毎洋法条約は、われわれが、 白国の海を守るための権利と公論の場をも たらし、また他の毎洋国家に対しても毎を 守るように取り組むことを義務付けてくれ MS101

「パラオにとっての日本は、かねて毎年 保護を含む数多くの分野において非常に存 辞拝の監視・保護の能力向上支援は大変な住意義の大きいパートナーで、日本による 利益になっている。われわれば日本からの 助力に感謝し、それが継続し、さらに広が ることを明体している」

「わが国では国内全域を対象と」とと母生 保護区域の設定に取り組んでいるが、この 保護の規模は、世界的に見ても最大級のも のとなるだろう。この政策を申に衝撃資源 の損失に対する手当てとするだけでなく 新たな法的枠組みをモニターし、その実効 性を高めるための一助に位置付けたいと考 えている。また、毎年保護区の設定はパラ すだけでなく各国にもはするものと記録し ており、この取り組みがすべての国に認知 され、支持を受けることを明持している」

先段、日本財団から2隻目の 巡視艇が寄贈され、大統領は「自 国管轄水域を100%自力で監 海上保安 視することができるようになっ た」と発言している。弊情や枚 難などにまたがる海上保安の分 野でパラオが抱える現下の課題 また目指すビジョンは、

「日本財団から客順を受けたら毎日の巡 う試みにとって大きな助けになる。1隻百根軽は、われわれの海洋を管轄しようとい の巡視艇と併せ、われわれば管轄する意味 での事故や海上犯罪に対する警戒を行うこ とかできるこ

「一方で、これら巡視艇さえあれば無洋 管轄権が張りなく行使されるというわけで はない。パラオは小さな島であり、EES ラオにとっては一大事業であり、あらゆるはあまりに大きい。 海洋の監視と管理はパ 援助がそのための助力になっている」

2012年3月に起こった中 服無対無 国の密漁能に対する新国たる対 応は、日本でも話題となった。 この単年やどう総括している

「密徳犯1人が銃撃で死亡。当局側では 密拠団の母舶を追称していた航空機が密客 し、パラオの警察官2人とパイロット1人 が死亡と、痛ましい犠牲を出したこの事件 からは、われわれの海洋資源をめぐる利害 がいかに大きいかが見て取れる。そして、 その利害は世界的な資源の怙忍に比して大 多くなっていくだろうこ

「バラオにとって、こうした密測行為を 完全に取り締まることは不可能ではないに 内で資金的な裏付けもあり、また実に挿ししても非常に難しいことだ。密語団は組織 いことにわれたれの風のどこに衝突が高端が 豊富にあるかということを原知している」

「バラオは海洋を配視したり、こうした 連法行為の調停を行っためのあらゆる助力 を必要としており、監視ロボットや他の先 進的技術といったものの有効性を検証して いるところだし



パラオは口生ビー図の(国際 海帯機関) 6---ロれ国目のメ ンパー国となっている。代表的 信したいことは、また同分野でな島嶼団として-NOの場で発 は日本とどのような協力関係が あり得るか。

「バラオは1MOに最近加盟した国で、 パラオ籍の船が安全に運航されるよう地道 に取り組んでいる。また、TMOを通じて 整備されたルールは船舶による毎洋環境へ のダメージを減少させていると評価してお パラオの唱々にとって既刻を楽し組っ

た問題である温暖化への対策についても支 序しているこ

「とはいえ、われわれのような小さな国 にとって上
区の取り決めや各種の要請に 小さな国が上区のの体組みに参画していこ うという努力をくみ取るよう働き掛けてく れることを順待しているし、また日本がそ うした面で助力してくれることにも大いに **配作している** 



パラオは観光を主要産業とし ているが、環境保全と開発との 調和を取りながらどのように観 光産業を振興させていくのか。 また海洋資産の将来的機想は、

「バラオにとって環境とは、経済そのも のだ。すなわち、観光こそがこの国の経済 活動の最たるものであり、今後もそうあり 続からことだろう

「バラオを訪れる人々は、この国の無垢 の自然を見に来るのだから、環境保全は経 可能でないような行いをとるとなれば、そ済発展のために不可欠。環境にとって持続 れは目先の利益にとらわれてわが国の将来 の利益を失うことになるものだと心してい 101

「程注資源に関しては現在のところ態業 が中心だが、将来的には角介類の整確や、 さらには毎底資源の探査などを日本の摂助 も受けて実施できればと考えている

# 「そのうち旅行業として日本人旅行等も送り立むでというない。 一般の込むでとになったが、同時期に設立した財地手配会社は日本かのの観光祭の過半を取り数ショでになった。 の販罐も受け、ダイバー向びサーアスのためのダイアング複数やボートなどを慰地に届けるなどして紹力。

ム栗の継ぎの便がある。 加えて、チャーター便によりわず か4時間半で日本とパンカを結びて いるのが、JM、で、置行チャーター使 が成田と中郷の2空港から連続され 「20年ほど前からずっと飛び続け ている」がのチャーター優によっ て、パラオは日本人にとってずっと 手近になった。日本とは時軽がな へく回角も少ない。米ドルも優える。 同より、あの平つかずの目然をより 多くの日本人に経験してほじい」と 離離氏は語る。

はなく、単純に家族連れが増えた。 これは直行便がなかった時代に日本 解空(MA)が直行チャーダーを連続 したことの功績が何より大きい」(領 薄氏) いたのだ。 「ダイバーは状した減ったわけで さく、単巻に家族調わが増えた。

般観光浴が占めるように

バンオを訪れる日本人が約3万 6000人はで指加するのに伴い、その 権成も大きく変わってきた。かりて 大勢を占めていたダイバーは2ー3 国にとどまり、残る大部分が原施制 便どしてはデルタ衝空による成田箱 の順行便のほか、コナイテッド衝空 の日本国内名荷市や超点としたグア 現在は日本からバラオ向けの定期

イン・アソリントの名として認知されているインタイグ・ 海郷氏が初めて 万里 をむけた 1880年 ごとはまた 2 まだった この体験もおぼつかない 要 解析 1842年 1842年 1842年 1843年 184 人は一定程度いた。しかしそれは、 大学年齢やの機能性としての同地を 都力も機能団が、ももなければ沿ま も場所も成単や一の機能せず、ただ ただ美しい酵を決めてもって米るく デッンダイバーはかり。 「それでサンレが加した雑点 を持つうちに、もっと観光に力を入 れていたっとかして外加した報点 を持つうちに、もっと観光に力を入 れていこうだい。もっと観光に力を入 で商まってきた」 (維藤氏) もどもなマリンスボーツに親した でごた顕縁氏は、そうした地にかの

11

作

11

E

でこそ日本人にとっての第外が

中の回国外国人が開発機体に175066 人、このショ 日本人は3万682人で 3分の1 勤を占める。30年の実績を おつバラギ 旅下専門国「アイスデイ ソアー」を選修するグローバルサー ビスの報停三曲 GB (暖港経緯度 者) は「ごれほど観光のボデンジャ ルのある国は少ない、とその魅力を

281

# 3面 海の日特集 日本海事新聞 20140720(日)

至

新

夢

崽

\*

Ш

2014年(平成26年)7月20日(日曜日)

#### 日本时団

#### 巡視艇2隻目供与 運用面も支援

海洋保護区を設定し自 国の海の保全に注力する パラオを日本財団が強力 に支援している。 ミクロ ネシア3カ国(バラオ、 ミクロネシア連邦、マー シャル諸島)向け「海上 保安能力強化支援プロジ エクト」の一環として小 型巡視艇を供与し、運用 面でも支援。活躍中の1 要目に引き焼き、 2要目 も今月了日に同国に引き 速された。

昨年末に東京都内で行 われた同支援事業の調印 まで、ハラオのトミー フメングサウ大統領は 「海洋電影体制の確立は 漁業資源、海底資源だけ でなく、ジュコンやイル 力、サメなど生態系の保 腹にもつながり、基幹産 葉である観光も安えるこ とになる」と述べ、日本 財団の支援に謝意を述べ

日本財団ではまた。1 988年にパラオに供与 した連絡「日本丸」が台風 で座離したことから、ほ ま司様の仕様の通铅(長 き移ば、定員的人)の代 管整備も手掛けている。





事に任命し、5月にはト メングサウ大統領から同氏に任命 状が手張された=写真。藤木氏に 名誉領事としての抱負を聞いた。

#### 「まず得意の海から

■パラオム関わる架漿は, 「深く関わるようになったのは

薬昇の方々、それからパラすの観り年ほど前、パラオに関わる旅行 光開発に精力的に取り組んでいた 故・利光松男日本航空相談役にそ れぞれ声を掛けていただいたのが

うなことを―と取り組んでい「以来、バラオのためになるよきっかけ」 て、例えば、藤木グループが横浜 使えるようにとバラオに持って行で使っていたバスを現地の交通で ったのは、その一回

■そうした取り組みを通じた信 額度が契機となっての名誉領事任 俗" 空氣+6"

「両国の友好を採めることを中 心に取り組むことになるのだろう が、まず自分の得意分野としては、 やはり本業の関係から海に関わる LIALI

「とりわけ港湾荷谷については

ればと思っている。

人口わずかろ万人で、観光が られるが、それでも荷役効率化は主産薬の同国では輸出の規模も限 国の役に立つだろうし、周辺国の マーシャル諸島などにも技術が被 及すればなお結構ではないかと考

「また前述のバスは、今では時えている」 刻表なども整備されてすっかり地 域の匠として定着している。せっ かくそこまで使ってもらっている なら、よりきっちりしたものに整 備していきたい」

■日本人観光客の増加も役割に 2510°

「バラオというのは、あの魅力 的な自然があってこその国。多く の日本人にその魅力を知ってほし 答を歓迎しているが、 ゴルフ場もいし、 あちろんパラオの人々も旅 あって、カラオケ店もあって― というような観光地になる必要は ないのではないか」

「エコツーリズムを理解する人 や、ゆったりとした滞在を楽しむ 経済的にゆとりのある学師といっ たところを大事にすべきだと思っ

フランシス・マツタロウ 駐日パラオ大使 2 友好さ

日本から訪れる方々は全体の3分の1を占め 「おります。 歯やまがバンサで「大塚、前、 やしてピーチを楽しんでおのれます。 観光様はバラオの人々にとった一番大参な 解光をむい、お着しいただけも士な魅力はダ イビングです。 東京に開催されるでリンダイ アングレェレーにた、くストダイビングエ バフスシモン/ 最富で多種多様な海洋生 ピングフェアーにて、ベストダイピングエリア部門の1位にこの3年間でバラオが選ばれ ックアイシンドが、戦値に多編多様な帯洋物の生息地として国連教育な学文化機関 バラオの南ラグー

バラギへの指さまのこ時間を心よりお待ち 実際にお越しいただいて、 ぜひとも以下のホー しております。実際に ジオの魅力を味わって お訪問前には、ぜひど

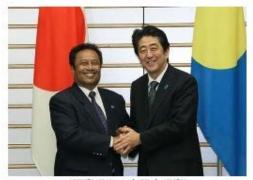
世界遺産に登録されております。

をご覧ください。 【駐日バラオ共和国大使館】http://pal

(3)



平成26年12月17日











(写真提供:内閣広報室)

本 17 日午後 6 時から約 30 分間,安倍晋三内閣総理大臣は,実務訪問賓客として来日中のトミー・E・レメンゲサウ・Jr.・パラオ共和国大統領(H.E. Mr. Tommy E. Remengesau Jr., President of the Republic of Palau)と会談し、続いて午後 6 時 50 分から約 1 時間、同大統領と夕食会を行ったところ、概要は以下のとおりです。

1 冒頭,安倍総理大臣から,外交関係樹立 20 周年の記念すべき年 にレメンゲサウ大統領をお迎えでき光栄であり,今回の同大統領の 訪日を契機に,両国の関係を深化させたい旨述べました。また,来 年の天皇皇后両陛下のパラオ御訪問の実現に向けた大統領の協力に 謝意を示しました。

- 2 これに対しレメンゲサウ大統領から、両国間には、外交関係樹立よりも前にさかのぼる友好協力関係が存在する、パラオは日本と極めて近しい間柄にある旨述べ、日本とパラオのパートナーシップの更なる強化に向けた強い期待が表明されました。
- 3 また、両首脳は、来年5月に福島県いわき市で開催される「第7回太平洋・島サミット」の成功裏の開催に向け、共同議長として協力していくことを確認しました。
- 4 さらに、両首脳は、遺骨収集帰還事業や海洋・漁業問題における協力等、二国間の協力及び国連安保理改革等の国際場裡における協力につき意見交換を行い、両国の関係を様々な分野で一層強化していくことで一致しました。
- 5 会談後の夕食会は、非常に和やかな雰囲気で行われ、幅広い話題 について意見交換が行われました。



#### 天皇陛下、パラオ大統領とご会見 改めての招待に謝意

産経新聞 12月17日(水)19時30分配信









パラオ共和国のトミー・E・レメ ンゲサウ・Jr大統領と会見され る天皇陛下=17日午前11時5 2分、皇居・御所「小広間」(宮 川浩和撮影) (写真:産経新聞)

天皇陛下は17日、皇居・御所で、来日中のパラオのレメ ンゲサウ大統領と会見された。パラオは先の大戦の激戦地。 大統領は8月、外務省側に天皇、皇后両陛下を招待したい意 向を伝え、両陛下が戦後70年となる来年の4月にも慰霊の ため訪問される方向で検討されている。会見に引き続き、両 陛下と大統領で昼食を取りながら懇談された。

宮内庁によると、大統領から会見で改めて両陛下を招待し たいとの話があり、陛下は謝意を示された。陛下が「多くの 日本人が住んでいたんですよね」と尋ねられ、大統領は「パ ラオと日本の文化、伝統、習慣がうまく融合し、今も残って います」と応じた。会見には、日本兵約1万1千人が玉砕し

たペリリュー島の州知事も同席したという。

#### 産経後ニュ−ス

2015.1.23 11:13

文字の大きさ 小 中 大 一 印刷

両陛下、4月8、9日にパラオご訪問 戦後70年で戦没者ご慰霊 閣議で決定











天皇、皇后両陛下が戦後70年の節目に戦没者慰霊や平和祈念のため、激戦地だった ペリリュー島がある西太平洋のパラオ共和国を4月8日から1泊2日の日程で公式訪問 されることが、23日の閣議で決まった。両陛下が戦没者慰霊を主な目的に海外を訪問 されるのは、戦後60年だった平成17年のサイパン以来2度目。

宮内庁によると、8日午前に羽田発の民間チャーター機でパラオへ向かわれる。同日 は中心部のコロール島で友好親善の行事が催される。日本軍約1万人が戦死したペリ リュー島でのご慰霊は9日で、日本政府が建立した慰霊碑「西太平洋戦没者の碑」を訪 問される見込み。島間の移動には海上保安庁のヘリコプターの使用が検討されている。

昨年8月、レメンゲサウ大統領からご訪問の招請があり、政府は9月から関係省庁で 調整を進めていた。12月には大統領が来日し、陛下が会見された。

パラオは日本から約3千キロ南に位置。第1次世界大戦後に委任統治領となってから 昭和20年の終戦まで約30年間、日本の統治下にあり、日系の人々も多い。

両陛下は戦後50年の平成7年に「慰霊の旅」として広島、長崎、沖縄の各県と東京 都慰霊堂をめぐり、昨年も沖縄、長崎、広島で戦没者を慰霊された。

公益社団法人 日本海難防止協会

〒105-0001 東京都港区虎/門一丁目 1 番 3 号 磯村ビル 6F

TEL 03 (3502) 2231 FAX 03 (3581) 6136